

若里

第74号

2025年12月



蝶ヶ岳から朝の穗高連峰を望む

信州大学工学部同窓会

2026年度 信州大学工学部同窓会—基調講演会・総会・懇親会—のお知らせ

下記により、2026年度 基調講演会・総会・懇親会を開催いたします。
なお、最新情報は当会HPにて随時ご案内いたします。

開催日 2026年5月23日(土)

基調講演会（会場・オンライン（Zoom）同時開催）

時 間：14：30～16：00

会 場：信州大学工学部内（長野市若里4-17-1）※詳細は後日HPにてご案内いたします。

総 会（会場・オンライン（Zoom）同時開催）

時 間：16：10～17：00

会 場：信州大学工学部内（長野市若里4-17-1）※詳細は後日HPにてご案内いたします。

- 議 案：1. 2025年度事業・収支決算・会計監査報告について
2. 2026年度事業・収支予算計画（案）について
3. 役員改選（案）について

懇親会

時 間：18：00～20：00

会 場：シャトレーゼホテル長野（長野市七瀬1-1 TEL.026-219-2440）

会 費：5,000円 ※当日受付にて

申込期日 2026年5月18日(月)

参加申込方法

▶ 申込み専用フォーム

必要事項を入力のうえ送信してください。

<https://forms.gle/z6sBh8pt5mugUaUm8>



▶ HPお問合せフォーム

問合せ内容欄に参加内容を明記してください。

<https://wakasatokai.jp/contact/>



信州大学工学部同窓会 <https://www.wakasatokai.jp/>

登録情報の変更は「住所等変更届」その他は「お問い合わせフォーム」をご利用ください。

＊＊ 同級会、研究室 OB・OG 会 開催支援のご案内＊＊

同窓生の交流支援を目的とし、同級会等を開催される際に、ささやかですが補助金を支給させていただきます。希望される方は、ホームページの「お問い合わせフォーム」より事務局へご連絡ください。折り返し詳細についてご案内を差し上げます。



目 次 『若里』 74号

● 2026年度 基調講演会・総会・懇親会のお知らせ

卷頭言

「地球温暖化を止めることはできるだろうか」 3
信州大学工学部同窓会 会長 清水 保雄

● 工学部長挨拶

「1+9 が拓く新時代——信州発・工学教育と研究のアップデート」 4
信州大学工学部 学部長 香山 瑞恵

● 賛助会員寄稿

「工学部後援会の活動について」 5
信州大学工学部後援会 会長 高橋 和彦

● 学部の近況

「改組と広報」 6
工学部 副学部長、広報室 室長、
建築学科 教授 寺内 美紀子
「航空宇宙システムから空モビリティシステムへ
～信州大学航空宇宙システム研究拠点の活動を振り返って～」 8
次世代空モビリティシステム研究拠点
専任教授 佐藤 敏郎
「信州産学みらい共創会 創立 30周年を迎えて」 10
(一社) 信州産学みらい共創会
専務理事 天野 良彦

● 研究室紹介

「信大クリスタル®が拓く未来社会
—フラックス法を核としたエネルギー・環境材料
科学の挑戦— (手嶋・萩尾・林・山田研究室)」 11
物質化学科 教授 手嶋 勝弥・教授 萩尾 健史・
准教授 林 文隆・准教授 山田 哲也
「新たな表面・界面物理の発見で、見たことのない
電子デバイスを (大原研究室)」 13
電子情報システム工学科 助教 大原 正裕
「『水の動き』から水環境・水防災を考える (豊田研究室) の紹介」 15
水環境・土木工学科 准教授 豊田 政史
「制御工学研究室 (種村研究室) の紹介」 17
機械システム工学科 准教授 種村 昌也
「建築分野の気候変動対策研究」 19
建築学科 助教 中谷 岳史

● 活動報告

ようこそ先輩 2024 21
令和 6 年度学生表彰「わかさと賞」 23
2025 年度 基調講演会・総会・懇親会 24
「2025 年度 国際交流学生支援報告」 26
工学部 国際交流室 室長、
物質化学科 教授 酒井 俊郎

表紙写真「蝶ヶ岳から朝の穂高連峰を望む」

撮影：鬼頭 宏和 (機械S61)

入学 1 年目の松本暮らし。山を全く知らなかった私が、最初に名前を覚えたのが常念岳でした。そこから蝶ヶ岳へと連なる稜線は槍穂高連峰の好展望台。モルゲンロートに染まる山を眺めるひとときは至福の時間です。

<https://ifugaku.com>



「支部長会 in 軽井沢

「緑の軽井沢で親交を深めました」 28
東信支部 副支部長 西 嘉一

● 同窓生だより

「今まで振り返って」 29
高野 洋之
「信大から広がるご縁とクルマの音色づくり」 30
山田 昌也
「これまで振り返って」 31
小林 樹佳
「社会人になって思うこと」 32
白数 優花
「2合目の景色」 33
曾根原 真秀

● 恩師からのたより

「バイオマス研究を学生と共に 30 年」 34
元物質化学科 教授 天野 良彦
「定年退職を迎えて思うこと」 35
元物質化学科 教授 菅 博幸
「最高の『おおいなる寄り道』」 36
元物質化学科 准教授 片岡 正和
「卒業生・修了生のみなさんに向けて」 37
元電子情報システム工学科 教授 佐藤 敏郎
「工学部キャンパスでの日々と近況報告」 38
元水環境・土木工学科 准教授 松本 明人
「小さな幸せを知る勇気ある
挑戦者たちへのエール」 39
元機械システム工学科 教授 杉岡 秀行
「みなさまいかがお過ごしでしょうか?」 40
元機械システム工学科 教授 中村 正行
「工学部の発展を願って」 41
元機械システム工学科 教授 山崎 公俊

● 追悼

「土屋先生との思い出」 42
機械システム工学科 教授 松原 雅春
「木村盛茂先生のご逝去を悼む」 43
工学部 特任教授 河邊 淳

● 支部会員特別寄稿

- 「165万ボルト試験用変圧器を、世界にない構造で設計せよ」 44
小林 英一

● 受賞報告

- 「理事 若林信一氏 エレクトロニクス実装学会 学会賞」 47

● 同窓生寄稿

- 「3人だけの 今年の集い」 48
岸田 安穂
- 「昭和 36 年電気科卒業生 10 回目の同級会報告」 49
北村 暢朗・丸山 征一
- 「精密工学科 12 期 (S52 年卒) 古希同窓会」 50
精密工学科第12期 同窓生一同
- 「精密工学科 13 期 (1978 年卒) 同期会を開催しました」 51
直井 泰男
- 「信州大学工学部機械科昭和 52 年入学_同級会 開催記」 53
多田 耕三
- 「信州の雪と山を愛する仲間たち」 55
遠藤 智久

「合成化学科昭和 59 年卒 (1984 年卒) 同窓会」 57

前田 宗徳

「機械工学科 1982 年 (昭和 57 年) 入学 同級会報告」 58

榎 和彦

● 支部だより 59

● 計報 63

● 役員名簿

- 信州大学工学部同窓会 64
一般財団法人信州大学工学部若里会 65

● 2024年度事業・会計報告/

2025年度事業計画・予算書

- 信州大学工学部同窓会 65
一般財団法人信州大学工学部若里会 69

● 2024年度卒業生就職先企業 72

● 2024年度卒業生名簿 75

● 2025年度新入生県別入学者数 78

● 事務局より 79

● 編集後記 82

● 広告 84

● 同窓会会則

地球温暖化を止めることはできるだろうか

信州大学工学部同窓会 会長
信州大学名誉教授

清水 保雄 (機械 S45・修 S47)



連日厳しい暑さが続いています。会員の皆様にはいかがお過ごしでしょうか。

今夏は連日気温35°C以上を越え、熱中症アラートが頻発されています。地球温暖化の猛威が人類に襲い掛かっています。干ばつによる農業被害、線状降水帯の発生による局所集中豪雨災害、これら異常気象による災害は我国に限ったことでなく、各地で起っており激甚化しています。

これは疑いなく地球温暖化が原因と言えます。地球温暖化は、地球の熱収支に関わる基本因子：①太陽放射、②地球放射、③温室効果の3者の関係から考察できます。すなわち、①太陽放射は、地球が受ける太陽からのエネルギー電磁波（主に可視光と赤外線）です。②地球放射は、地球が吸収したエネルギー人間や地球自体の活動から生じた熱を宇宙空間に放射する電磁波（主に赤外線）です。そして③温室効果は、大気中の温室効果ガス（CO₂、CH₄、水蒸気など）が上述の地球放射の一部を吸収・再放射して大気や地表温度を高める効果です。これら3因子のバランスにより地球の温暖化の様相は決定します。ここで、②の地球放射は、周囲の絶対零度近い冷たい広大な宇宙空間に放たれるので地球温暖化を妨げる（冷却）因子となります。温室効果ガスの濃度が高いとその作用は減じられます。地球は常に宇宙に向けて熱を放射しているので、地球温暖化が際限なく進む訳ではありません。それはどこかで止まるはずですが、人間生存に適する温度に落ち着くか、もっと高温になるかは温室効果ガスの濃度次第で左右されます。

現在、地球上で大量に消費されている石油が燃やされた時に排出されるCO₂ガスはその量の多さも半端ではありません。そして厄介な事に、それは一度排出されると数百年以上も大気中に留まり、長期的に影響を及ぼします。そんなCO₂を石油を燃やして大量に排出することは絶対に止めるべきです。

地球温暖化を止めるにはCO₂などの温室効果ガスの削減が必須と認識され、対策が打ち出されました。パリ協定（2015年、国連会議COP21で採択）は、各国が協力して二酸化炭素（CO₂）の排出を減らし、産業革命以前からの地球の平均気温上昇を「2°C未満」に抑えることを目指し、また、「1.5°C未満」に抑える努力目標を掲げました。でも、2024年の世界平均気温は既に産業革命前より1.55°C上昇、パリ協

定の目標を超過してしまいました。

トランプ大統領は、米国が世界最大のCO₂の排出国であるにも拘わらずパリ協定から離脱し、「石油を掘って掘りまくれ」と困惑するような号令を発しました。しかしこれに怯むことなく、世界は連携して気候対策に取組むことが一層重要になっています。

ところで、地球への太陽放射エネルギーは凡そ 7.82×10^8 テラワット時（TWh）です。ただし、このうち30%程度は雲や地表での反射により宇宙に戻るので、正味 5.47×10^8 TWhとなります。一方、出典により異なりますが2024年の石油（オイルシェール・天然ガスを含）の生産量を4.54億トンとすれば、その総エネルギーは 5.2×10^5 TWhと計算されます。この値は上述した地球に届く正味の太陽放射エネルギーの1/1000以下です。太陽放射エネルギーは実に莫大です。この差の違いから、石油を燃焼させ発生させた熱の地球全体の気温上昇に与える影響は比較的小さく問題はない、と誤解されたら大変です。石油を燃やし排出された熱ではなくCO₂ガスこそが地球温暖化の元凶であることを見落としてはなりません。

CO₂を排出しないエネルギーへの転換を図るために科学技術は極めて重要です。原子力発電も選択肢にはありますが困難な事情が沢山あります。好ましい技術の筆頭として太陽光発電が挙げられます。中でも、社会実装フェーズに突入したペロブスカイト型太陽電池は、変換効率が向上し、軽量性と設置自由度（超薄型・柔軟構造）、製造コスト（シリコン型の1/2以下）などポテンシャルが高く、湿気・熱・紫外線に対する安定性や有害物質の鉛を含まないものにできれば、実用・普及が大いに期待できます。

私事になって憚ますが、太陽光発電（PV）と電気自動車（EV）を活用したV2Hシステムを導入し実践しています。PVの性能は4kW、EVの電池容量は20kWhで電気自給率は通年で50%程度です。より能力アップさせ、例え僅かでも地球温暖化を止めたいと試みています。

本年12月6日に大阪で関西支部の再発足を期す設立総会が開催されます。準備委員各位のご苦労に感謝します。関西地域の会員の皆様には是非ともご出席を賜りますようお願い致します。

結びに、会員各位のご健康と一層のご活躍をお祈り申し上げます。

2025年8月

1 + 9 が拓く新時代 —信州発・工学教育と研究のアップデート

信州大学工学部 学部長

香山 瑞恵 (情報H3)



日頃より、信州大学工学部の教育・研究活動に温かいご理解とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。2024年4月の学部長就任以来、私の合言葉は「地域と共に」です。地域の皆さまと向き合い、現場の課題に伴走する日々の対話の積み重ねが、気づけば自然に世界へと視野をひらいてくれました。信州の豊かな自然と多様な産業が共存する土壤こそが、次の時代の工学を駆動する原動力だと実感しています。地域に根ざした実践が世界と結び直す——その循環が回り始めた今、工学部の毎日は「わくわく」に満ちています。

研究面では、信州大学はJ-PEAKSの中核としてARGを推進しています。信州の生命線である「水」を軸に、環境浄化や水由来の水素エネルギーを支える先鋭材料の開発に取り組んでいます。地域企業・自治体との現場連携も広がり、「信州で生まれ、世界に役立つ」技術実装が加速しています。

教育面でも、社会の要請に真正面から応えていきます。修士課程では、数理情報・融合システム分野が2期生を迎える、データサイエンス、AI、制御・最適化、ヒューマンファクタなどを横断する科目群を日立製作所・エプソンアヴァシスと共に産学協働で磨き上げました。理論と実装を往還する経験は、自ら問い合わせを立てる姿勢と、現場で使えるスキルを同時に育みます。

博士課程では、次世代AI人材育成プログラム(BOOST)が本格始動しました。2025年度は2名の学生を採択・支援し、AIの基盤研究のみならず、材料・医療・社会基盤など新興・融合領域への展開を後押ししています。学内の異分野連携も活発で、データ駆動の設計やシミュレーション、実験計測の自動化など、研究の方法論そのものが進化しつつあります。

うれしいニュースも続きます。2025年度の学部入学生では、女子学生が初めて100名を超えることになりました。工学に多様な視点が加わることで、学びの議論は深

く、プロジェクトの発想は豊かになります。多様性は創造性の源泉であり、社会実装の現場で信頼を得る力にも直結します。学生たちの互いの違いを力に変える姿に、教員である私たちも日々学び、励まされています。

こうした流れを確かな制度へと育てるため、2026年度から学部改組「1 + 9 (ワンプラスナイン)」をスタートします。先鋭融合コースと、学理と実装を結ぶ9つの基幹コースで構成し、専門の深さと学際の広さを両立させる新体制です。例えば、情報サイエンスや情報デザイン、知能機械、環境エネルギー材料・建築など、社会課題のフロントに直結する領域を有機的に編成します。学生は、多様な導入・横断科目を足場に、自身の関心に応じて学びを組み立て、課題発見からプロトタイピング、実証までを一貫して経験します。改組に向けては、文部科学省への設置報告書の受理を経て、2025年度入試より新体制での学生募集も開始しました。制度とカリキュラムの両面で、準備は着実に進んでいます。

最後に、同窓生の皆さまへお願い申し上げます。研究現場の課題提供、共同研究・受託研究、インターンシップや就職支援、キャリア講話、寄附・奨学金による学生支援など、母校との関わり方は多様です。小さな一歩でも構いません。皆さまの現場の知恵とネットワークが、学生に「生きた学び」をもたらし、地域から世界へ広がる価値創造の起点になります。

信州で学び、世界で拓く。その歩みを、これからも皆さまとともに。信州大学工学部は、地域に根ざしながら、世界の未来を見据え、教育・研究・社会連携の三位一体で進化を続けます。変わらぬご支援と、温かなご声援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

◆ 賛助会員寄稿 ◆

工学部後援会の活動について

信州大学工学部後援会 会長 高橋 和彦



今年度、信州大学工学部後援会の会長を務めることになりました高橋和彦と申します。同窓の皆様におかれましては、長きにわたり母校と地域の発展にご尽力いただいておりますこと、心より感謝申し上げます。皆様の温かいご支援のおかげで、後援会もさまざまな活動を円滑に進めることができています。

工学部後援会は、工学部および大学院修士課程工学キャンパス所属学生の学生生活向上に関して後援することを目的とし、当該学生の就職活動や厚生施設利用の援助、課外活動および研究活動の助成、そして後援会の開催といった活動を行っております。会員は、工学部および大学院修士課程工学キャンパスに所属する学生の保護者をもって構成されております。また、年1回、会報を発行し、各会員に配布し、各学科の紹介、サークル活動、就職状況、保護者様へのお便りなどを掲載しております。

後援会の事業としましては、令和6年度も引き続き学生厚生援助費を活用して、日付入り卒業式用立て看板、図書館学習室用椅子、学務窓口用記入台や文具類、体育館用時計を購入、寄贈し、学生たちの活動を支援いたしました。また、卒業生への記念品としてトートバッグを贈呈しました。課外活動援助費では、サークル活動や学園祭に対する多岐にわたる援助を行いました。具体的には、サークル活動への物品購入支援(24サークル)や大会出場の援助(53名)、大学院生対象に学会・研究会の参加費援助(99名)、学園祭のパンフレット作成費用などを助成いたしました。今年度もオープンキャンパスと学園祭の同時開催ということもあり、引き続き支援を行っています。

さて、今年度も8月8日に後援会総会を開催いたしました。夏の信州とはいえ気温30℃に迫る暑さの中、全国20都府県から200名を超える会員の皆様にご参加いただき、E1棟(SASTec:信州科学技術総合振興センター)3階の大会議室が満席となるほどの盛況となりました。総会では、予算と決算のご承認をいただき、充実したものとなりました。総会の中では香山学部長より、現在の工学部の取り組み

や今後の展望について、新しく「1学科1+9コース体制」への移行について詳細なご説明をいただきました。これにより、工学部の未来に対する期待も一層高まることと思います。

総会後には昨年に引き続きキャンパス特別見学会も行いました。各学科に分かれて、現在の進学・就職状況をお聞きするとともに施設見学が行われました。工学部で行われている最先端の研究の場を拝見する非常に貴重な時間となりました。また、今年度は6年ぶりに懇親会を開催することができ、120名以上の会員の皆様と、香山学部長をはじめとする教職員の方々が食堂に集まりました。立食形式で和やかに楽しく歓談することができ、参加された皆様にとって大変有意義な時間になったと感じております。

近年、世界は生成AI、ロボット、量子コンピュータ、脱炭素やクリーンエネルギーといった先端技術の急速な発展により、大きく変化しています。信州大学工学部もこうした潮流を積極的に取り入れ、教育と研究の最前線で取り組みを進めています。さらに、工学部はこれまでの5学科体制から脱却し、「1学科1+9コース体制」へと生まれ変わり、専門分野の垣根を越えた横断的な学びを促進しています。学生たちは複数分野の知識を融合し、未来の技術課題に挑むことが可能となります。変化の激しい現代社会において、幅広い視野と実践力を持つエンジニアの育成は不可欠です。諸先輩方に負けない研究者・技術者として成長できるよう、学生たちには日々有意義に学び、挑戦を続けてほしいと考えております。

私たち信州大学工学部後援会は、これからも信州大学工学部の未来を支え、共に歩んでいく後援会として、より一層の支援活動を展開して参りたいと思います。今後とも後援会活動に対しまして、同窓会員の皆様のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。信州大学工学部の今後の発展と皆様の益々のご健勝をお祈り申し上げます。

◆ 学部の近況 ◆

改組と広報

工学部 副学部長、広報室 室長
建築学科 教授 寺内 美紀子



令和8年度工学部改組が正式に決まりました。7月の香山学部長以下執行部の記者会見をテレビや報道でご覧になった方もいらっしゃると思います。これまでの5学科から1学科10コースへ、特に全国的にもユニークなふたつの分野を学びそれらの融合研究を目指す先鋭融合コースが新たに誕生します。さっそく、10月の総合型選抜Ⅰ試験で先鋭融合コース第1期生が決まります（同コースは11月の学校推薦型選抜Ⅰでも入試を行い、目安20名を募集します）。今の気持ちは「もう、やるしかない。」といったところで緊張しておりますが、どうか同窓会の皆様はじめ信州大学に関わるあらゆる皆様、そして地域の皆様の一層のご支援・ご協力をお願いしたいと思います。

さて、今回の改組をどのように位置付けるべきか、俯瞰して大学の工学部という組織がどうなっているのか、この場を借りて考察したいと思います。文部科学省では、大学の学科分類として「学科系統分類表」¹を定めており、大分類：工学には中分類として、機械工学関係、電子通信工学関係、土木建築工学関係、応用化学関係、情報工学関係、資源・材料工学関係などがあり、さらに小分類（学科に対応）まで分類されています。この分類は、大学の学籍データ収集や統計調査に用いられ、学部・学科の名称統一を図るために活用されているそうです。中分類には原子力工学、鉱山学、金属工学、繊維工学、船舶工学、経営工学、工芸学、その他まであり、我が国の工学の全貌を示すと言えるでしょう。初めてこの分類表をみましたが、小分類が実に多彩で、電子通信工学関係は最も多く167学科が該当します。工学部をもつ大学²が2025年現在97校（国立38校、公立8校、私立51校）であることを考えると、もはや電気通信工学に関する学びができる工学部は考えられず、むしろ1校に複数の電気通信工学関連学科をもつ大学も多いなかで、もう一步踏み込んだ魅力なり特徴なりをアピールできなければ、受験生から選ばれないと想像できます。ですが、学生定員の増減は非常にシビアな問題で、簡単には変えられません。産業界の要請や社会全般の趨勢、少子化に対応したい意向がある一方、教育の場に耐性がなくては本来の自由で人類の未来に貢献する学問は成り立たない、とも思います。変えられない・変えるべきで

はないなかで何をどう変えるか、工学部の改組は工学という学問ジャンルの将来を考える作業だと実感しました。

今回の改組の何よりも大きな特徴は1学科になることと、先鋭融合コースという専門を決めずに受験するコースを開設することです。そこで、工学部がひとつの学科である国立大学をネットで調べてみました（表）。2025年9月現在、12の国立大学工学部が1学科であり、その下に複数のコース、プログラム、分野等が構成されています。工学部は1学科10コースになりますが、それは全国では最多のコース数と言えそうです。新潟大学工学部は9コースで、人間支援感性科学プログラムという医工学のジャンルが含まれています。また、千葉大学や長崎大学では、工学部の他に情報・データサイエンス学部、情報データ科学部が併設され、工学ジャンルの一部である情報工学関連がより上位の枠組みで組織構成されていることが分かります。このように工学部の輪郭は変わり続けています。コース名やプログラム名をみたところ、「先鋭融合コース」はありませんでした。別のジャンルを工学部に融合したり、最新のジャンルに特化した学部を設けたりと、どの大学も新たな工学の充実を図っています。そのなかでも、先鋭融合コースはユニークで全国でも先駆けたコースだと分かります。ですが、先鋭融合コースの選択肢は基幹9コースなわけですから、この9コースの充実が結局のところ一番重要なと思います。

そして、工学部執行部の一員としてまた広報室室長として、改組広報の重要性を痛感しています。私立大学のような広報を専門に担う部署がほとんどない国立大学では、これまでの入試広報を踏襲するのが精一杯で、戦略的な活動が苦手です。工学部では開学以来、何度か改組を経ていますが、この度初めて改組および推薦入試を宣伝するポスターを作成しました（写真）。全国300程度の高校に送る予定です。このように一つ一つ手探りですが、教職員一丸となって新しい工学部づくりを進めています。そして工学部づくりには学生も巻き込むことが重要と考えます。信州大学工学部という場を、未来のものづくりの場として継承してゆくために、皆で力を合わせてまいります。どうぞ引き続きのご支援をよろしくお願い申し上げます。

表 工学部1学科の国立大学

工学部1学科*の国立大学

* : 工学課程を含む

大学名	学科名	学科の構成	特徴
宇都宮大学	基盤工学科	3コース	▲地域デザイン科学部
長岡技術科学大学	工学課程	5分野	
千葉大学	総合工学科	8コース	▲情報・データサイエンス学部
新潟大学	工学科	9プログラム	●人間支援感性科学プログラム
富山大学	工学科	5コース	▲芸術文化学部、都市デザイン学部
山梨大学	工学科	7コース	
三重大学	総合工学科	6コース	
奈良女子大学	工学科	2分野	
愛媛大学	工学科	9コース	
長崎大学	工学科	6コース	▲情報データ科学部
宮崎大学	工学科	6プログラム	
琉球大学	工学科	7コース	

▲ : 別学部に工学ジャンルがある ● : 別ジャンルが工学部にある

注) 日本の大学 <https://www.gakkou.net/daigaku/>より作成

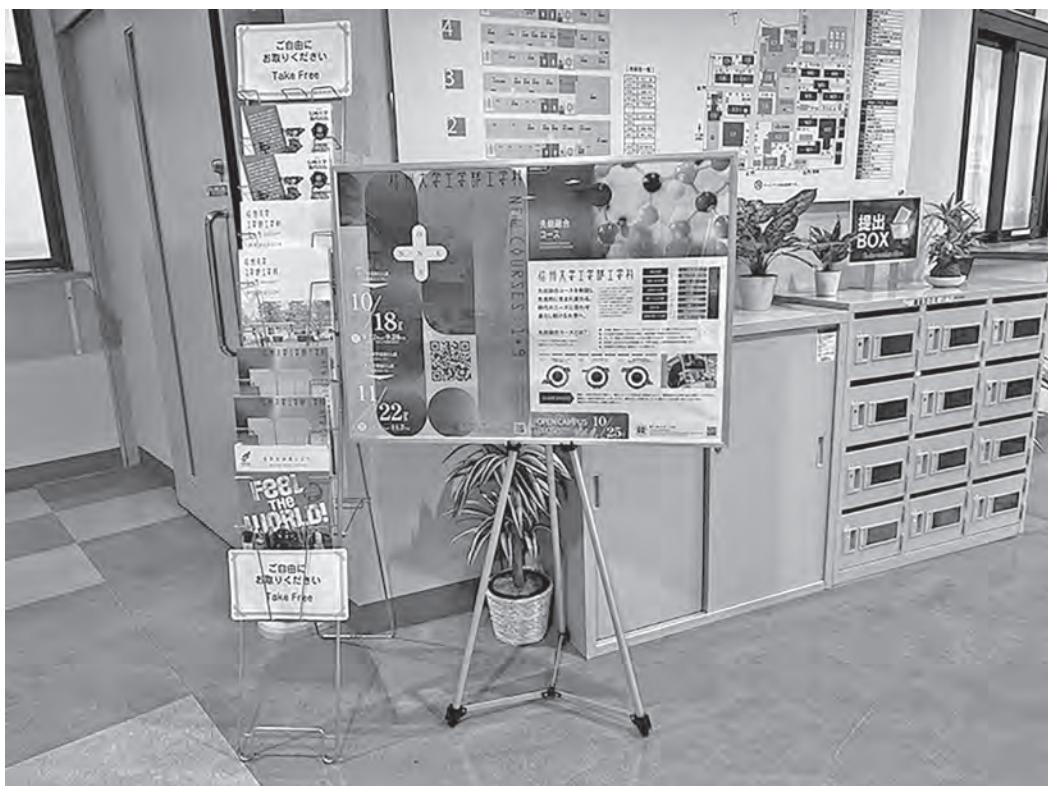


写真 改組・推薦入試のポスター

* 1 : 文部科学省

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/001/05122201/006/004/011.htm

* 2 : 日本の大学

<https://www.gakkou.net/daigaku/>

航空宇宙システムから空モビリティシステムへ ～信州大学航空宇宙システム研究拠点の活動を振り返って～

次世代空モビリティシステム研究拠点 特任教授 佐藤 敏郎



1. はじめに

飯田・下伊那地域と諏訪圏がそれぞれ独立に地方創生に取り組む中で本学に対し航空宇宙分野の研究開発と人材育成が強く要請されたことに端を発し、工学部研究センターを経て2019年4月に航空宇宙システム研究拠点が設置されました。

本文では航空宇宙システムのこれまでの取り組みをベースに「航空宇宙システムから空モビリティシステムへ」の経緯をご紹介します。

2. 航空宇宙システム研究拠点

当拠点は信州大学の中で特色ある研究を推進する先鋭領域融合研究群の第2期（2019年4月～2025年3月の6年間）に3研究所、3研究拠点の一つとして設置されました。飯田エスパードを拠点とする航空機システム部門では欧米に比べて産業規模の小さ

い航空機装備品の強化を目的とする研究開発と人材育成を担当し、工学専攻に設置された航空機システム共同研究講座の運営に実質的に参画するとともに2021年4月に設置されたJAXAとの連携大学院にも関わっています。テクノプラザおかやを拠点とする宇宙システム部門では諏訪圏の精密産業の底上げを目的に、ロケット開発をモチーフとする研究開発と人材育成を担当しました。長野市にある工学部を拠点とする基盤技術部門は航空と宇宙に跨る基盤技術開発と人材育成を担当し、3部門に跨る人材育成部門では現役学生だけでなく、小学生を対象とする理科教室やリカレント教育も担当しました。図1は航空宇宙システム研究拠点の概要を示したものです。工学系教員やJAXAや民間企業等を経て参画している特任教員で構成されています。

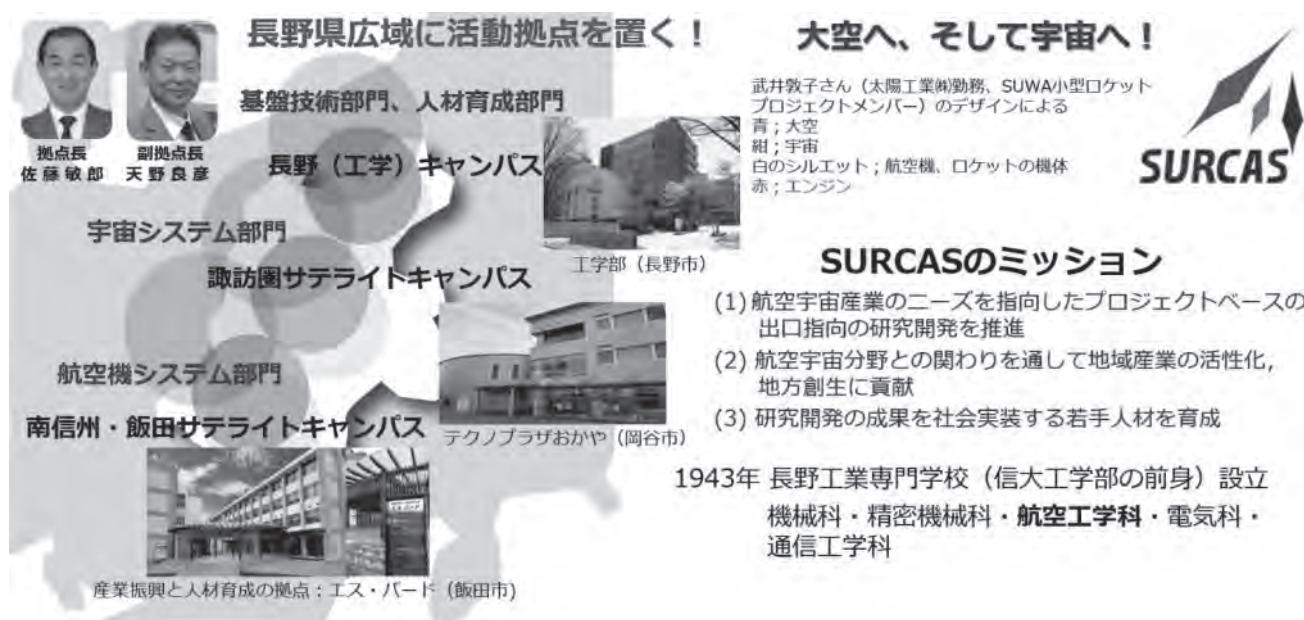


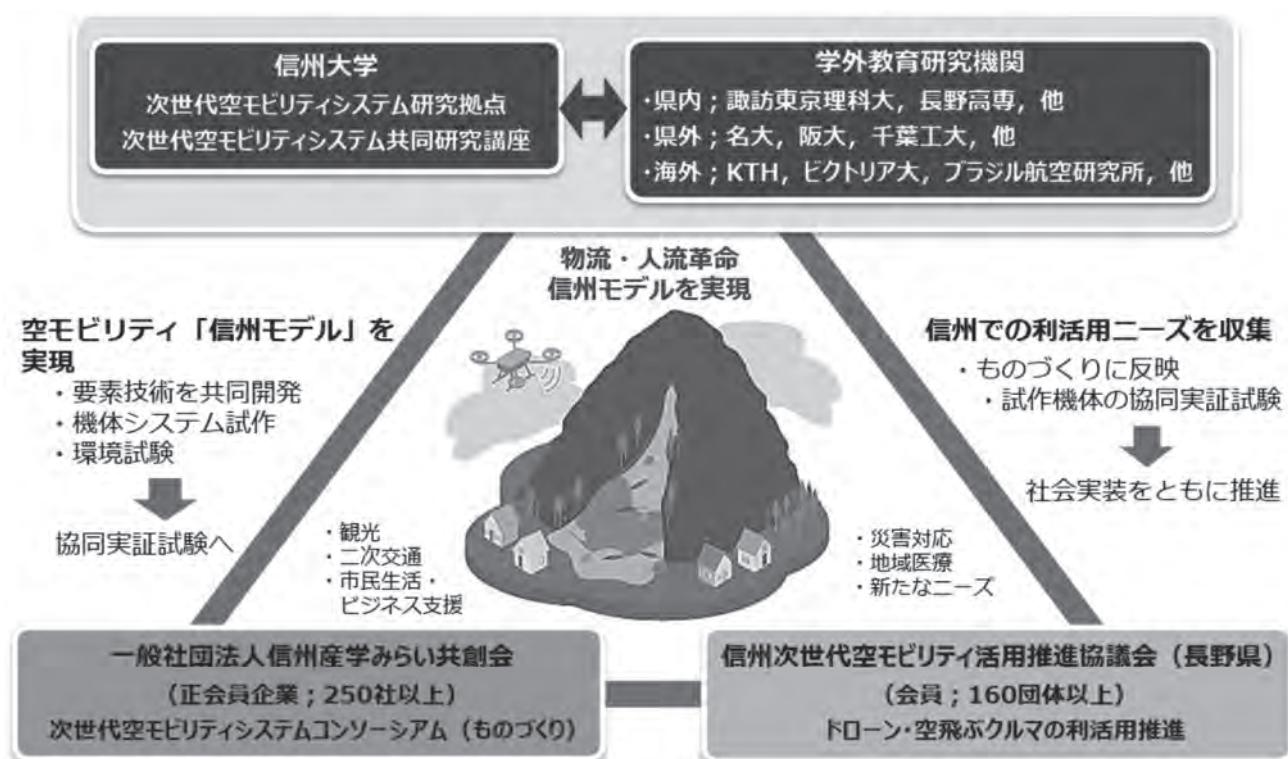
図1 航空宇宙システム研究拠点（2019年4月～2025年3月）

3. 航空宇宙から次世代空モビリティへ

航空宇宙システム研究拠点では航空機の電動化、ロケット用軽量高強度機体や固体燃料エンジン、さらには試作ロケットの打ち上げ実験を地域の自治体や企業と連携して推進してきましたが、これらをはいざれもドローンや空飛ぶクルマの次世代空モビリティに繋がる取り組みです。長野県を事務局とする次世代空モビリティ活用推進協議会や産学みらい共創会に設置された次世代空モビリティコンソーシアムと連携して「空の移動革命；信州モデル」を実現することを目的として「航空宇宙から次世代空モビ

リティへ」を掲げ、2025年4月に次世代空モビリティシステム研究拠点に組織整備されました。本拠点では機体材料・機体設計、推進動力システム、安全運航・無線管制システム、認証・環境試験の4部門と、機体開発を担うプロジェクト統括部門と人材育成部門で構成されています。図2に次世代空モビリティ；信州モデル実現プロジェクトの概要を示します。

新研究拠点の活動に対しまして同窓会会員の皆様の熱いご支援をお願いする次第です。



信州産学みらい共創会 創立30周年を迎えて

一般社団法人信州産学みらい共創会 専務理事 天野 良彦



令和7年5月29日にシャトレーゼホテルにて、信州産学みらい共創会の創立30周年記念式典並びに祝賀会が、関東経済産業局地域経済部長の杉山晴治様および長野県知事阿部守一様、信州大学長中村宗一郎様を来賓にお迎えして、盛大に開催されました。当会は、令和5年に一般社団法人として新しく法人格を持った組織として活発な活動を展開してきました。本会の歴史及び活動について、ここに紹介致します。

国立大学が産官学連携を推進する組織である地域共同研究センター（CRC）が1993年から各大学に設置され始めました。信州大学にも1994年に設置されたことに伴い、本会の前身であるCRC協力会が、1995年1月に発足しました。初代の会長にはシナノケンシ株式会社代表取締役会長の金子八郎様に就任頂きました。その後、会長がセイコーホームズ株式会社常務取締役の赤羽正雄様から、オリオン機械株式会社社長の太田哲郎様に交代され、2009年6月には、信州大学ものづくり協力会に名称変更を経て、2011年には信州大学ものづくり振興会へと組織変更がありました。その後2020年には会長を新光電気工業株式会社社長の藤田正美様にお願いし、信州大学みらい産業共創会と名称変更を経て、2023年からは法人格を持った法人へと大きく組織を変更しました。

発足当時は、文字通りCRC協力会という、応援団体的な活動を主体としていましたが、私がセンター長であった2011年から、会員企業様にとっても意義のある活動を行う組織へと様変わりさせました。この際には、役員一同が一泊泊まりでどのような会にしたら良いかについて、夜を徹して議論したことを記憶しています。この時には、名称変更とともに、活動内容も技術講演会や技術交流サロンの活動を年に17回行うなど、大変活発に活動を展開して、大学と企業をつなぐ役割をはたしてきました。その後ものづくり振興フォーラムとして、産学だけでなく会員同士の産業連携も視野に入れた活動も展開してきました。このように組織が様変わりすると共に、会員企業・団体も、発足当時は29団体であったものが、現在では300団体を超えるまでになってきております。

創立30年を迎えて、役員も新しくなり、さらなる

活動の展開を模索しているところです。会長にはエムケー精工株式会社代表取締役社長の丸山将一様をお迎えし、副会長には信州大学評議員の榎田誠一様と多摩川精機株式会社代表取締役社長の松尾忠則様が就任して頂いています。この正副会長のもとには、11名の理事と2名の監事が配置され、理事会にて会の活動や予算に関して協議を頂いています。

本会の活動内容について、特筆すべきものをピックアップして紹介します。この2年間で特筆すべきものとしては、GO-Tech事業の採択があります。昨年は3件の申請を行い、本年は2件の申請を行いましたが、すべてが採択という素晴らしい結果となっております。これも、会員企業様の熱意と、企業様をサポートしている優秀なコーディネーターの活躍の賜物だと思います。当会が管理団体として運営費を頂けることは、当会の活動を一層活発にしております。何よりも、本会の主要な目的である産学連携が促進されることの大変喜ばしいことです。本プロジェクトの採択は、信州大学の教員が連携教員として加わって成り立っており、大学と企業双方にとっても大変メリットがあると思います。現在では、信州大学にとどまらず、長野県の主要な高等教育機関にも参画頂いておりますので、近々にはこちらとの連携の成果も上がってくるかと思います。願わくは産学の1対1の連携ではなく、多くの組織が関わるコンソーシアムのような組織での新しい技術開発がなされることが期待されます。世の中はグローバル化して、世界の企業に伍して戦うためには、様々な組織が参画するオープンイノベーションの場が必要です。また、当会は長野労働局より「有料職業紹介事業」の許認可を頂いており、有為な人材の企業様への斡旋も行っております。これをお読みの同窓会の会員様にも、ぜひご活用いただけましたら幸いに存じます。転職を考えていらっしゃる方、退職はしたけどまだ自分の技術をどこかで活かしたいと考えていらっしゃる方には、ぜひお声掛けをお願いします。当会の発展、ひいては産学官連携による地域産業の活性化のためには種々のステークホルダーの方の協力が欠かせません。これからも本会にご協力、ご指導のほどをお願い申し上げます。

◆研究室紹介◆

信大クリスタル®が拓く未来社会

—フラックス法を核としたエネルギー・環境材料科学の挑戦—

(手嶋・萩尾・林・山田研究室)

物質化学科 教授 手嶋 勝弥 教授 萩尾 健史 准教授 林 文隆 准教授 山田 哲也



1. はじめに

当研究室は、これまで無機結晶材料の創製と応用に関する研究に邁進してまいりました。その歩みの中で、多くの企業や公的機関、そして学生・スタッフに支えられ、現在では教員陣（教授5名、准教授3名、助教3名）、博士研究員、研究員、事務員、そして40名以上（博士5名、修士22名、学部15名）の学生たちが集う、総勢約70名の大規模な研究拠点へと成長しました（図1）。

我々の研究の根幹には、高品質な単結晶を育成する「フラックス法」という技術があります。この技術で生み出される多種多様な機能性結晶材料を、我々は「信大クリスタル®」としてブランド化し、社会課題の解決に取り組んでいます。本稿では、基礎的な結晶研究から「信大クリスタル®」としての応用、そしてAIとロボットが織りなす未来の材料開発へと飛躍的に進化を続ける、我々の最新の挑戦をご紹介します。

2. コア技術「フラックス法」と「信大クリスタル®」の多彩な展開

「フラックス法」とは、高温で溶かした塩（フラックス）を溶媒として、そこに原料を溶かし、ゆっくりと冷やすことで高品質な結晶を育成する、シンプルかつ奥深い技術です。この手法の最大の魅力は、ルビーのような美しい宝石から、リチウムイオン電池の性能を左右する電極材料、太陽光で水素を生み出す光触媒まで、目的や用途に応じて結晶のサイズや形を精密にデザインできる点にあります。我々は、このフラックス法を駆使して、社会のニーズに応える様々な「信大クリスタル®」を創出してきました（図2）。

3. 研究を加速する新拠点「アクア・リジェネレーション機構」

我々の挑戦をさらに加速させるため、2024年に学内に「アクア・リジェネレーション機構（ARG機構）」が発足し、2025年7月にはその中核施設として「ARG共創研究センター」が松本キャンパスに開



図1. 研究室メンバー集合写真（2024年度）



図2. フラックス法のプロセスと、本手法で育成した多様な信大クリスタル®

所しました。このセンターは、多数の企業との共同研究を推進するオープンイノベーションの拠点であると同時に、次節で述べる我々の未来の研究開発を象徴する場所でもあります。

4. 未来の材料開発へ—AIとロボットが拓く自律実験ラボ

材料開発の世界は、AIとロボティクスの導入により、今まさに革命の時を迎えようとしています。この潮流を牽引すべく、ARG共創研究センター内に設置された「ロボラボ」には、60台以上のロボットが立ち並びます。ここでは、これまで研究者の経験と勘に頼ってきた試料の秤量・混合から、加熱、分析、後処理までの一連のプロセスを完全自動化します(図3上図)。これにより、実験速度は人手と比べて100倍以上に向上する見込みです。

この物理的なロボットシステムを頭脳として制御するのが、我々が独自に開発を進めているAIシステム(パッケージアプリ)です(図3下図)。このアプリは、「実験データ管理」「結晶材料探索」「結晶制御予測」をはじめとした10個の個別アプリケーションから構成されています。AIが1兆通りレベルにも及ぶ超巨大な探索空間の中から最適な材料や合成条件を予測・提案することで、結晶材料開発を



図3. ARG共創研究センターで稼働する自律実験ロボットシステムと、実験を支援する独自開発アプリ

強力にアシストします。我々は、これら両システムが連携する統合システムによって新しい結晶成長の時代を拓くことを目指し、今も鋭意開発を続けています。

5. おわりに

当研究室の研究は、「機能性結晶の探求」という基礎科学から始まり、「信大クリスタル®」という社会実装を見据えたブランドへと発展し、そして今、「AIとロボットによる自律的な材料開発」という新たなステージへと飛躍しようとしています。アクア・リジネレーション機構という新たな推進力を得て、我々はこれからも学術的探求と社会貢献の両輪を力強く回し続けてまいります。

同窓会の皆様におかれましても、我々の進化し続ける活動にぜひご注目いただき、ご支援、ご協力賜れますと幸いです。未来の材料科学を共に切り拓きたいという熱意ある学生の皆さん、そして新たな価値創造に挑戦したい企業の皆様からのご連絡を、心よりお待ちしております。

新たな表面・界面物理の発見で、見たことのない電子デバイスを (大原研究室)

電子情報システム工学科 助教 大原 正裕



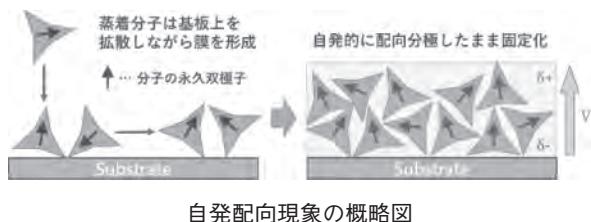
はじめに

大原研究室は2025年春に始まった新設の研究室です。助教の私（大原正裕）と学部4年生4人の未だ小さな研究室ですが、私自身、学生と年齢が近いこともあります。「先生」というよりはチームのリーダーとして上手く組織を運営していくべきと考えています。研究室全体としてはエレクトロニクスに用いられる有機半導体材料の界面電子構造に関する研究を行っております。本稿では研究の内容の一部と、我々の目指す研究のスタイルについてご紹介したく思います。

研究①：有機分子の自発配向現象の原理解明と制御法の開発

我々が普段扱う様々なデバイスの中で、有機分子を材料に作られているものの代表として有機ELディスプレイが挙げられます。今やiPhoneに搭載されているディスプレイはすべて有機ELに切り替わり、50インチを超えるような大型の有機ELテレビも年々価格が下がってきています。

そのような有機半導体デバイス作製で第一に重要なのは、有機薄膜の成膜方法と言えます。高品質な有機薄膜を製膜する際に、真空中に有機分子を昇華



自発配向現象の概略図

させることで基板に分子膜を生成する“真空蒸着法”という方法があります。通常真空蒸着法で薄膜を作製すると、分子はランダムに配置され非晶質（アモルファス）という状態になるのですが、近年、実は完全にランダムではなく、僅かながら分子が向く方向が揃っており（配向性がある）、有機ELデバイス性能に大きく関与していることがわかつてきました。

しかし、このような配向現象に関しては、未だその原理が完全に理解されているとは言い難く、制御法を確立してデバイス性能を向上させることが求められています。

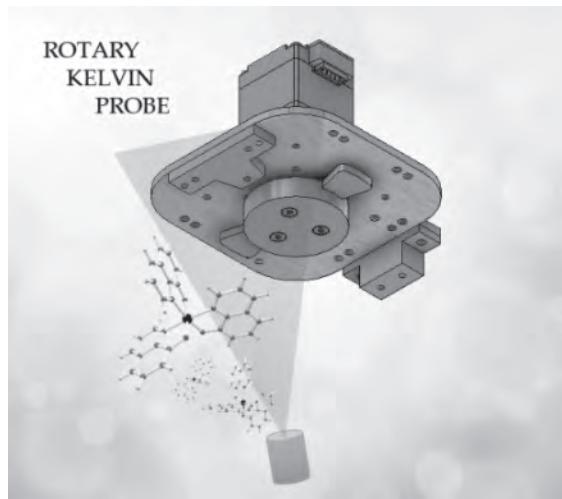
そこで当研究室では、分子の配向を発生させる鍵となっていると思われる、「成膜プロセス中の分子の挙動」に焦点を当てています。気体となって真空中に飛び出し基板に着弾した分子は、すぐに固定化されるのではなく、エネルギー的に安定な配置を探すように基板上を彷徨います。真空蒸着を連続的に行うのではなく、間に休憩を入れて分子が彷徨う時間を調整することで、分子の配向性をダイナミックに制御することが可能であることを発見しました。今後はこのようにして配向を制御した薄膜が、実際のデバイスにおいてどの程度性能を左右しうるかについて、検証していく予定です。

研究②：表面電位のリアルタイム測定を可能にする回転型 Kelvin probe 装置の開発

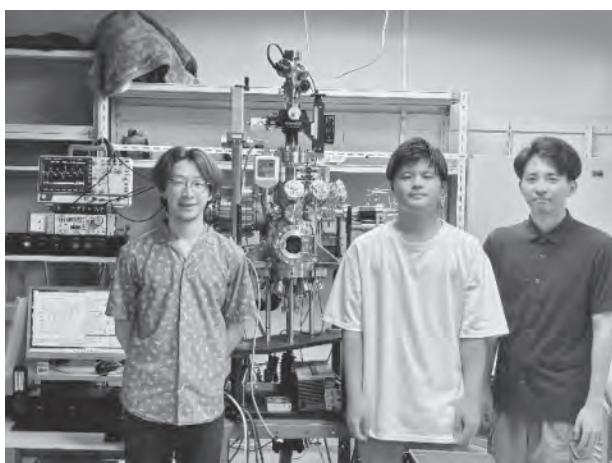
研究①における実験では、蒸着が継続している状態から停止した状態への遷移前後の表面電位（配向



研究室発足時の写真



回転型 Kelvin probe 装置の概略図



装置が初めて動いた時の記念写真

分極によって生じる膜表面の電位)を連続的に測定する必要があったため、典型的な表面電位測定装置である“振動型 Kelvin probe 装置”では不十分であり、表面電位の膜厚依存性の測定に特化した“回転型 Kelvin probe 装置”を開発しています。

この装置は、私の前所属で開発を続けてきたもので、国内の装置メーカーに技術を提供することで去年の夏に製品化されました。もちろん信州大学でも同じ装置を導入して研究を始めており、その際に数々の改良点を設計しなおすことさらに高精度な測定が可能なものになりました。このあたりの改良や、部品の製作など一部分を学生と協力して行うことができたのがよかったです。装置の稼働までに四苦八苦しましたが、複雑な回路や真空装置が実際に思い通りに動いた瞬間は、私にとっては安堵、学生にとっては歓喜、という感じだったと思います。

私が育ってきた実験系の材料科学の世界では、

「無い装置は自分で作る」が合言葉でした。ぜひ学生の皆さんにも、そんなマインドを持ってもらって、オリジナルな装置でオリジナルな発見ができれば研究の醍醐味を感じられるのではないかと思います。

おわりに

研究活動を通じて学生の方にぜひ分かってほしいことがあります。研究にはもちろん新たな発見や発明に対する悦楽がありますが、研究を通じた人との出会いや、それによる自身の成長に、研究そのものと同等以上の価値があるということです。尊敬できる人（先生、先輩後輩問わず）が見ている世界を追体験することで、学問を超えて人生全体に通用する哲学や、精神的な豊かさを得ることができます。

私自身も、これからもオリジナルな装置を用いて未知の物理現象を発見・解明し、世界に通用する研究を行うことを目指していきたいと思います。

「水の動き」から水環境・水防災を考える (豊田研究室) の紹介

水環境・土木工学科 准教授 豊田 政史



1. はじめに

豊田研究室は2008年度に発足し、今年度で18年目を迎えます。研究内容に関しては、2008年3月に退職された富所名誉教授から引き継いだ形をとっています。現在は、修士2年が1名、修士1年が5名、学部4年が6名の総勢12名で構成されています。

2. 研究内容の紹介

本研究室では、現地観測と数値解析を用いて、湖

を中心に河川・海洋といった水域の「水の動き」を研究しています。研究室発足以来、中心として研究してきた対象は諏訪湖です。本稿では、その一例を示します。

諏訪湖上に図1に示すように26点の観測点を設け、各点で2分間以上船を停止させて、風向・風速(写真1参照)、流向・流速(写真2参照)を観測しました。このとき、諏訪地方では西北西の強風が連続的に吹いていました。湖の上を吹く風(湖上風)

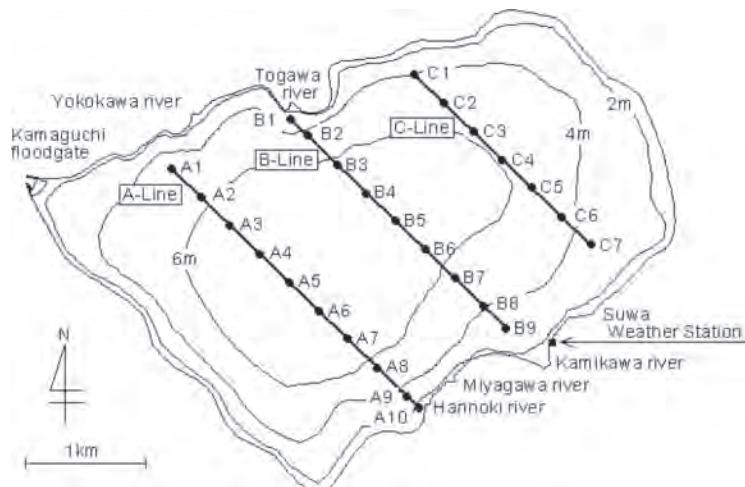


図1 諏訪湖上の風および湖水流の観測点



写真1 風向風速計



写真2 超音波ドップラーフロー流速計

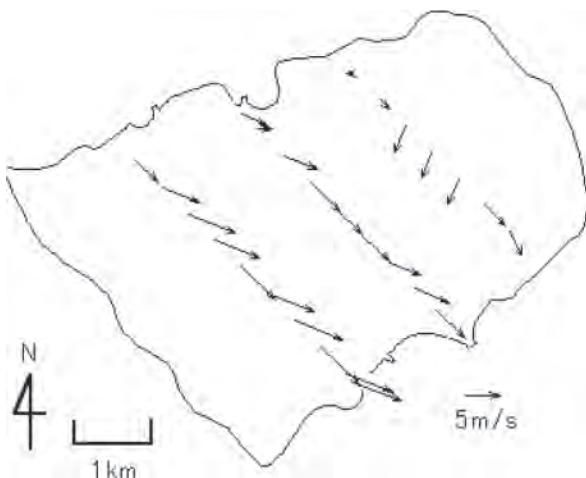


図2 西北西からの強風作用時の湖上風分布

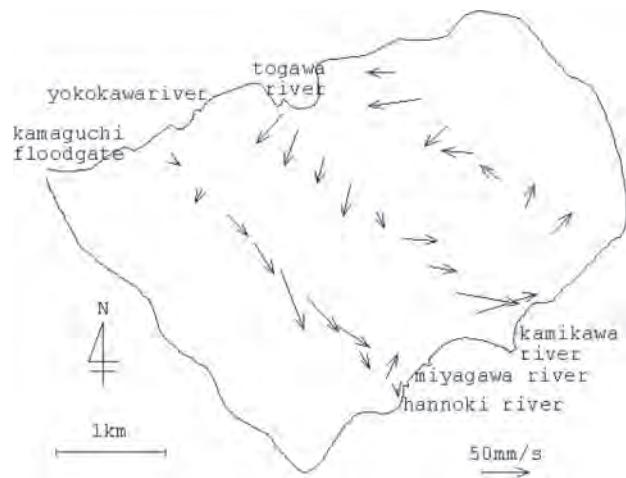


図3 西北西からの強風作用時の潮流分布

は一般的に周辺地形の影響を受けます。図2は、湖上風（湖面から約2m）の観測結果です。諏訪湖は周りを多くの山々で囲まれていますので、その影響を受けて湖上風はこの図に示すように、空間的に非一様（湖の北西部で風が弱く、湖の東部で風向が異なっている）になっていることがわかりました。図3は潮流（表層、水面から0.55m）の観測結果です。図2の湖上風の影響を受けて、湖の水は反時計回りに循環していることがみてとれます。このように潮流の特性がわからると、河川から湖へ流入した窒素やリンなどの栄養塩類や最近問題が顕在化してきているマイクロプラスチックなどが湖内をどのように動き、どのあたりにたまりやすいかを明らかにすることができます。また、われわれの研究結果を生物・化学的な観点をもつ方々（主に信州大学理学部）の研究結果とあわせることで、湖で生じているさまざまな現象解明に取り組んでいます。

現在、本研究室で取り組んでいる諏訪湖以外の研究対象水域は以下の通りです。

- ・野尻湖（水環境・土木工学科小松研究室との共同研究）
- ・与論島（総合地球環境学研究所の研究プロジェクト）
- ・千曲川、信濃川（長野大学、長野県水産試験場、長野高専などとの共同研究）

上記に加えて、昨年設立された流域治水研究センターの研究も、工学部内に設置されている小型気象レーダーの研究（日本無線との共同研究）を中心に、学内外の方々の指導を受けながら、少しづつ始めています。

3. おわりに

自然界の現象はきわめて複雑ですが、今後も学生たちと一緒に、自然界の偉大さを感じつつ、楽しみながら少しづつ解明していき、世の中が少しでもよくなることにつながるような研究をしていければと思っています。



写真3 現地観測風景（諏訪湖）



写真4 現地観測後の集合写真（与論島）

制御工学研究室(種村研究室)の紹介

機械システム工学科 準教授 種村 昌也



1. はじめに

当研究室は、千田教授と私の共同体制で千田種村研究室としての合同研究室になります。私は学生の時に信州大学工学部に入学し、修士課程および博士課程まで信州大学に在籍していました。実は大学の研究室の指導教員は千田教授であり、千田教授には学生の頃から現在まで長い間お世話になっております。現在、研究室の学生は博士課程2名、修士課程2年生が7名、1年生が9名、学部4年生が7名という構成になります。特に私が主担当の学生は修士課程2年生が2名、1年生が5名、学部4年生が4名となります。研究室では研究活動や学会参加はもちろんのこと、研究室内での交流も行っています。図1は5月にマレーシアから来た留学生と交流のために実施したサッカーのときの集合写真です。また、図2は7月に学生が企画してくれ研究室で地域のハーフマラソンに出場したときのものです。研究室の学生はしっかりしたコスプレをして出場していました。写真には私は映っていませんが、コスプレに渋っていた私に配慮してもらいました。このように普段から運動などでリフレッシュしながら日々の活動に取り組んでいます。

上記のような体制ですが、本稿では、私(種村)の研究室に焦点を当てて紹介したいと思います。研究室の名前にもありますように当研究室では「制御工学」に関する研究をしています。

2. 制御工学

制御工学とは、制御したい対象を設計者が思いのままに動かす(制御する)方法を探求する学問になります。制御工学で扱う制御対象は多岐にわたりますが、自動車、ロボット、航空機などがイメージしやすいかもしれません。また、身近なものでいうとエアコンも制御されることにより部屋の温度を一定に保つことができます。制御工学では制御対象を適切に動かす方法を構築する学問ですので、制御対象



図1 サッカーの集合写真



図2 ハーフマラソンの写真

のことをよく理解する必要があります。そのため、制御工学では制御対象を数式モデルで表し、その数式モデルをもとに制御則を構築します。この数式モデルが現実の制御対象を良く表現できていれば、構築した制御則も実環境でうまく機能します。ただし、この制御対象を数式モデルで表すというプロセスは、手間がかかったり専門知識を必要となります。

当研究室ではこの制御対象を数式モデルで表すと

いうプロセスをスキップし、制御対象の実データから直接制御則を構築する方法を研究しています。このように、制御対象を未知の対象のまま扱い、実データから直接制御則を構築する方法をデータ駆動型制御といいます。

3. 研究紹介

私の研究対象の一つに Human-in-the-loop system というものがあります。これは人間が制御ループの中に組み込まれており、人間はある目的をもって制御対象を操作しているシステムのことを意味します。例えば、自動車を制御対象として、自動車を人間が運転している状況も Human-in-the-loop system とみなすこともできます。また、図 3 は私の研究室で対象としているシステムで、人間が遠隔で複数のロボットを操作し、人間が立ち入ることが難しい環境（例えば被災地など）に人間の代わりにロボットを向かわせる状況を想定しています。現在は、図 4 のように実験室レベルの実験環境を構築中です。

機械が発明される前は全ての作業は人間や家畜によって行われていたと思います。その後、産業革命により自動制御が発明されて、機械を電子制御する方法が発達してきました。機械を電子制御することで人間だけでは困難であった作業を実現できるようになりました。一方で、より複雑な作業は機械のみ

で実現するのが困難な場合が多くあります。例えば、自動車の運転がそのよい例です。こういった場合に、人間が制御ループの中に組み込まれ、人間は機械を操作する制御器として機能します。

我々はこの Human-in-the-loop system を対象として、人間にとって操作しやすい機械システムの設計を目指しています。人間にとって操作しやすい機械システムを設計するためには、人間のモデル化が必要になりますが、人間を数式モデルで正確に表すことは簡単ではありません。そこで、人間を未知の対象として扱い、データ駆動型制御手法を用いて人間が実際に機械を操作した時系列データからその人間にとって操作しやすい機械の設計方法の構築を行っています。

4. おわりに

制御理論の発展や制御装置技術の向上に伴い、制御工学で実現できることが急激に増えていると思われます。それに伴い制御する対象の規模が大きくなり対象の複雑化が進んでいます。そういう状況に對して近年では大量のデータに基づいて制御則を構築する機械学習も注目を集めています。本研究室でもこういった現実の状況に對して、有用な制御方法を構築することを目指して、日々取り組んでいきたいと思います。

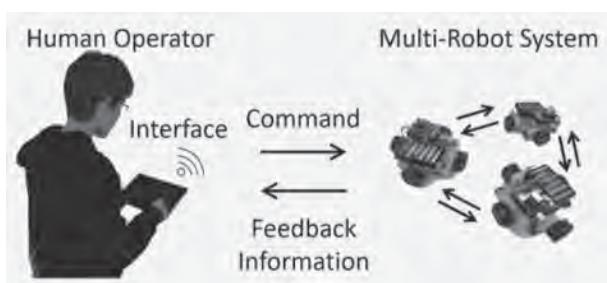


図 3 人間が遠隔でロボット群を操作する Human-in-the-loop system



図 4 構築中の実験環境

建築分野の気候変動対策研究

建築学科 助教 中谷 岳史



本研究室では、気候変動に伴う建築分野の課題に対して、主に「高温化」と「水害対応」を二大テーマとして研究を進めています。

まず、高温化についてです。現在重点を置いているのは公共建築、特に学校建築における対策です。近年の夏季の暑さは学習環境や健康に深刻な影響を与えており、科学的根拠に基づいた対策立案が急務となっています。研究の進め方は大きく三段階に分かれます。まず将来の気候予測に基づいた建物熱解析を行い、その結果を用いて対策の方向性を明らかにします。次に、現場での検証や行政・利用者との環境コミュニケーションを通じて、解析結果を実際の運用に結び付けます。さらに、得られた知見をデータベース化し、大規模な条件を網羅したシミュレーションデータ（現在約 200 万条件）を活用しながら、より実践的な判断材料を提供します（図 1）。断熱改修に関しては、予算制約の中でどの部位を優先すべきか、また地域ごとに改修をどのようなペースで進めるのが最も効果的かといった複雑な意思決定が求められます。そこで機械学習や多目的最適化を導入し、シナリオの不確実性に対してもロバストな方策を検討しています。例えば、最悪の気候条件下でも最低限の性能を満たしつつ、環境性能と費用対効果を両立させる最適解を探索しています。また、ライフサイクルアセスメントやコスト分析を組み合わせ、日本の主要 8 地域での比較検討も進めています。現在は、東京都板橋区や京都府宇治市と連携し、行政支援研究を展開しています。板橋区では、防水工事の際に断熱を同時に実行する方針が確定しており、約 70 校の小中高を対象に年間 3 棟のペースで改修が進められています。解析の結果、屋根の断熱改修が最優先であることが示され、実際の改修計画に反映されています。さらに板橋区では、解析に基づく実証研究も進行中です。機械学習の結果、校舎のエネルギー消費量を削減しつつ熱中症などの健康リスクを低減するには、屋根の断熱、次いで窓ガラスの日射遮蔽性能の向上が重要であることが明

らかになりました。これを受けて区内の中小学校では、屋根断熱工事や窓ガラスへの日射遮蔽コーティングを実施し、その効果を今年春から約 1 年間かけて検証しています。こうした解析結果、実証研究、そして行政との環境コミュニケーションを統合し、最終的には温暖地域の自治体が活用できる専門的レポートを作成します。エビデンスに基づく合理的な政策決定を可能にする取り組みであり、同様の課題を抱える全国の自治体にも波及効果が期待されます。

次に、水害対応についてです。本研究室のもう一つの柱は、水害後の建物の合理的な復旧に関する研究です。私は 2019 年の東日本台風で自宅が床上浸水し、荷物搬出、室内清掃、乾燥、壁の解体や洗浄、設備機器の処分と更新、建築工事に至るまで、一連の工程を実際に経験しました。水害復旧は行政や支援団体、建築業者など多様な主体が関わる複雑なプロセスであり、短時間で建物が有機物に汚染され、生物被害や構造体の長期的劣化を招くため、迅速かつ合理的な対応が不可欠です。これまで大規模災害の際には建築会社や団体から依頼を受け、技術支援や指導を行ってきました。近年は知見を体系化し、情報発信にも力を入れています。共同研究先の江原製作所とともに 2024 年には「水害復旧マニュアル（概要版）」を公開し、被災地で 2000 部以上が配布されました（図 2）。さらに、より具体的な行動手順を示す詳細版を 2025 年末までに刊行予定です。また現在は浜松市や磐田市など静岡県西部の行政や社会福祉協議会、地元 NPO、30 社の建築会社連合、ボランティア団体と連携し、技術指導や教育・講習を通じて水害対応の迅速化を進めています。加えて、2025 年 8 月の九州豪雨では、鹿児島県霧島市の行政支援を実施しております。災害直後から数週間後までに生じる多様な課題に対応するため、行政や議員を介して住民への情報提供、資機材の貸出、建築会社への応急処置支援を継続しています。エビデンスに基づいた水害復旧技術を確立する為、国内外の文

献調査を行い、私の専門である建築環境工学の視点からは床下の迅速乾燥手法、熱流体解析による乾燥過程のモデル化、カビ発生予測などのレジリエンスに資する研究に取り組んでいます。

このように、高温化と水害復旧という気候変動影響に対し、解析と実証、行政支援を一体的に展開し、気候変動対策に資する研究活動を推進しています。

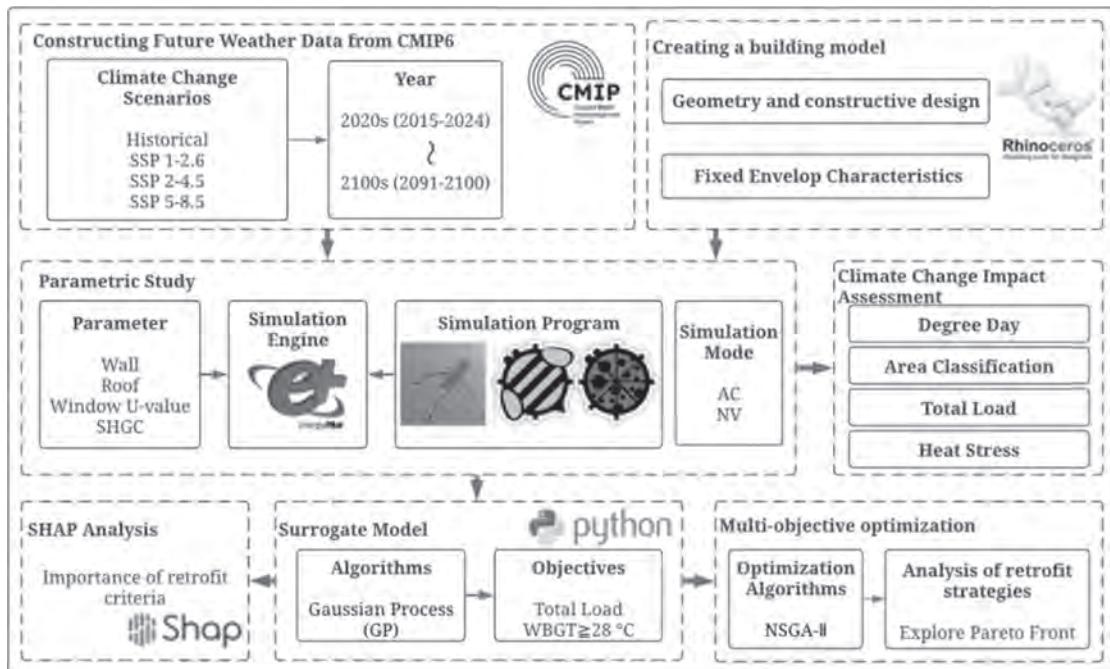


図1 気候変動に対応した建物改修戦略の探索 -建物熱解析とAIを用いたアプローチ

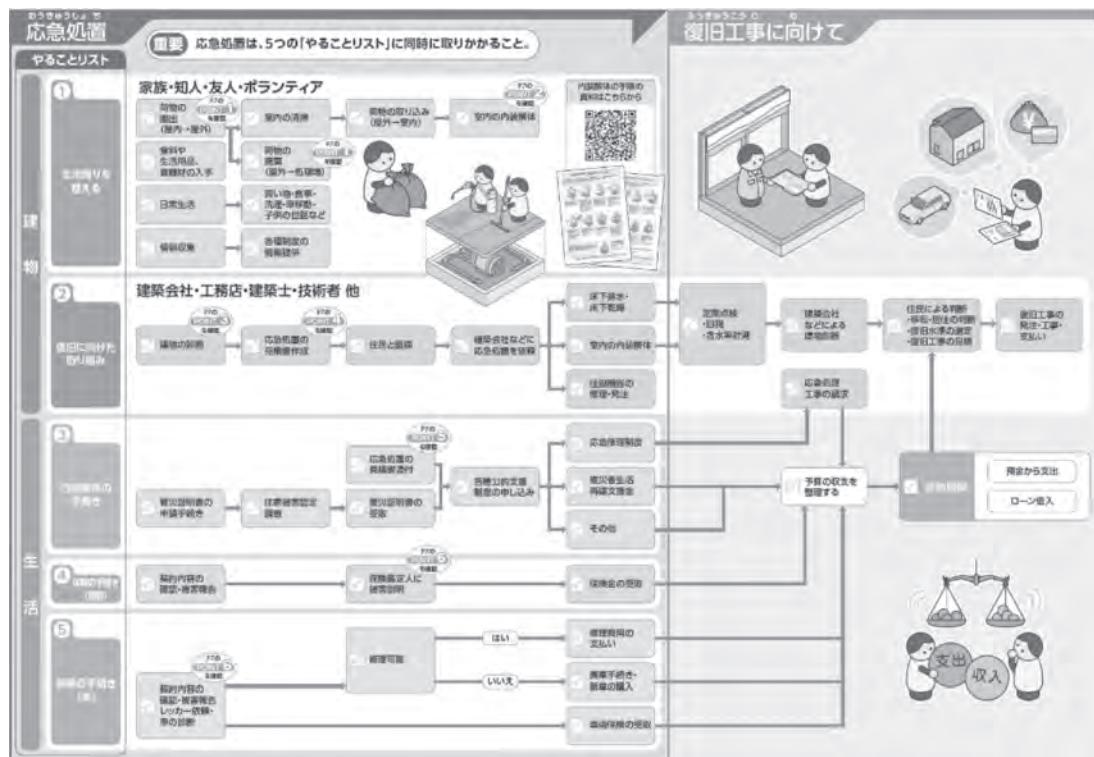


図2 レジリエンスの視点でみる水害後の応急処置と復旧プロセス

ようこそ先輩2024

卒業生による講演会「ようこそ先輩2024」が、本同窓会、(一財)若里会と工学部の主催、北陸信越工学教育協会長野県支部の共催で2024年11月1日(金)に、工学部の講義棟(C3棟)2階の200番教室とオンラインのハイブリッド形式で開催されました。清水会長の挨拶の後に、2024年4月から就任された香山工学部長の挨拶と2名の卒業生講師より講演が行われました。講師は常任理事会より推薦いただきました2名で、参加者は会場117名(うち学生89名、同窓生26名)、オンライン約17名(うち、学生10名、同窓生5名)でした。

ハイブリッド形式の開催に支援いただいた高村研究室の学生に感謝申し上げます。



写真1 挨拶する清水保雄 同窓会長



写真2 挨拶する香山瑞恵 工学部長

・講演会1 16:25~17:05

演題: 環境を軸につながる仕事

講師: 上田 里絵 氏

(社会開発工学科(建築) 平成7年卒業、
社会開発工学専攻(建築) 平成9年修士・
平成14年博士修了、博士(工学)
株式会社NTTアーバンソリューションズ
総合研究所 上席研究員

推薦者で常任理事、恩師の高村先生よりご紹介いただきました。講演は、『はじめに』、『会社紹介』、『卒業からの軌跡』、『環境を軸にしたきっかけ』、『つながる仕事』、『最近の取組み』、『ふり返って、いま伝えたいこと』の構成で、特に、学生の受講者に自らの進路選択および将来設計などを考えていただききっかけになればとの思いで講演されました。

卒業して28年になり、社会人大学生として博士の学位を取得したことでした。会社紹介では、NTTグループというと電話など通信事業が主ですが、会社は街づくり領域のシンクタンク、コンサルタントなどを通じて人が主役の街づくりの具現化を目指しており、建築学科を卒業してもその専門性は活かせることでした。特に印象深かったのは、ご自身の卒業から軌跡を縦軸にモチベーションで描いたグラフで、部署の移動や組織替えなどでこれまでに6回のピークと5回の谷があったとのことで、如何にモチベーションを回復して来たかを熱く語っていただき、たいへん有意義な講演となりました。



写真3 講師の上田里絵 様

・講演2 17:10~18:10

演題：これからの時代を生き抜くヒント

講師：藤岡 高広 氏

（精密工学科 昭和52年卒業・精密工学専攻
昭和54年修了）

愛知製鋼株式会社 代表取締役会長

藤岡氏は、精密工学科の田中道彦名誉教授（当時助教授）の研究室に所属され、恩師の田中先生もご参加いただきました。講演は、『田中研での想い出』、『次の時代を生き抜くキーワード』、『今を見つめて、将来へ』の構成で講演いただきました。

トヨタ自動車工業に入社されて、品質管理を担当され、同社の米国進出の準備、品質と生産のマネジメントから工場のマネジメントを行われ、愛知製鋼に移り社長、会長を歴任された略歴の紹介がありました。『田中研での想い出』では、当時の田中研での写真を交えて、英語とドイツ語などをゼミで猛烈に学習して修士論文（「一方向クラッチの有限要素

解析」）をまとめられたことや、硬式庭球部でも北信越大会のダブルスで準優勝して、工学部で初めてインカレ（全日本学生選手権）へ出場された思い出などを熱く語られました。また、『次の時代を生き抜くキーワード』として、大きく時代の潮流が変わって、「CN（カーボンニュートラル）」、「DX、IOT、AI」、「CASE：Connected（コネクティッド）、Autonomous/Automated（自動化）、Shared（シェアリング）、Electric（電動化）」、「地政学リスク」、「先読み」を挙げられて、個々について説明がありました。『今を見つめて、将来へ』では、特に、田中先生の教えが、その後、どのように役立ったかを三つの例を挙げ、上述の「英語とドイツ語などをゼミで猛烈に学習」が海外で働く駐在員の12年間に、実験室で何度も何度も繰り返した改善がトヨタ自動車での絶え間なき改善に、下級生の面倒見を頑張ることが、人材育成の大切さ、チームで仕事をすることの重要性に繋がったことなどを熱く語られました。

・懇親会 18:50~20:50

場所：シャトレーゼホテル長野

出席者数：17名

懇親会は会場を長野駅東口のシャトレーゼホテル長野に移して、香山工学部長を含め、講師の藤岡高広様と上田里絵様ほか、藤岡様の恩師の田中道彦先生（信州大学名誉教授）、同窓会役員などが参加しました。伊東副会長の挨拶の後、神田若里会理事長の乾杯で懇親会がはじまり、和気あいあいの歓談の中、盛会のうちに散会となりました。

（記 同窓会常任理事 楠 和彦）



写真4 講師の藤岡高広 様



写真5 多数の学生が集まった講演会場の様子
(挨拶は常任理事 高村先生)

令和6年度学生表彰「わかさと賞」

令和7年3月22日（土）10時30分から、信州大学長野地区卒業式・学位記授与式（教育学部・工学部の合同開催）が、ホクト文化ホール（長野県県民文化会館）において、今回から来賓も迎えて行われた。工学部の卒業生486名、修士修了生286名、博士修了生7名であった。

その後の12時から工学部内E3棟2階の第3会議室でわかさと賞授与式が行われ、学部長、同窓会会长、副事務長が出席し、各学科より選出された6名の学生に令和6年度学生表彰「わかさと賞」が授与され、表彰状とオリジナルレリーフ（工学部加工技術センターで設計・製作）が贈られた。

「わかさと賞」は、工学部卒業予定者のうち学業等において研鑽に励み、他の学生の範となつた者を表彰し、その栄誉を讃えるとともに、在学生の修学意欲を高め、励みとなることを目的とし、平成28年度に信州大学工学部同窓会により創設されました。令和3年度より学生数の多い電子情報システム工学科には2名に授与することになっている。

令和6年度受賞者

物質化学科	倉知 太貴	水環境・土木工学科	谷口 美月
電子情報システム工学科	大塚 貴良史	機械システム工学科	山口 知泉
電子情報システム工学科	牧野 雄希	建築学科	杵渕 江里子



[後列左より] 清水同窓会長、香山工学部長

[前列左より] 出席された受賞者の皆さん（杵渕さん、山口さん、谷口さん、牧野さん、大塚さん、倉知さん）

2025年度 基調講演会・総会・懇親会

2025年5月25日（日）、基調講演会・総会が工学部キャンパス内 総合研究棟（W2棟）1F 101教室で、会場・オンラインのハイブリッド形式で開催されました。ハイブリッド形式の開催に支援いただいた高村研究室の学生に感謝申し上げます。

基調講演会は、会場35名・オンライン34名の計69名（内 同窓生33名、在学生34名、他2名）にご参加いただきました（写真1）。

講師の佐藤敏郎先生（写真2）は、昨年度まで信州大学航空宇宙システム研究拠点の拠点長を務められ、同拠点が2025年4月より次世代空モビリティシステムの教育研究を国内外の機関と連携して積極的に推進する新たな組織「信州大学社会実装研究クラスター 次世代空モビリティシステム研究拠点」へと発展的に展開しております。また、佐藤先生は、今年3月まで工学部電子情報システム工学科教授であり、4月よりこの新拠点の特任教授となられました。

講演会では「航空宇宙システムから空モビリティシステムへ～信州大学航空宇宙システム研究拠点の活動を振り返って～」と題し、自己紹介の後に、

本学部の前身で昭和18年に設立された長野工業専門学校の5学科に、機械科、精密機械科、電気科、通信工学科と航空工学科もあったことが紹介されました。さらに、信州大学航空宇宙システム研究拠点について航空システム部門・宇宙システム部門・基盤技術部門・人材育成部門の四つの部門について詳しく説明の後に、「2025年度以降に向けて～航空宇宙システムから空モビリティシステムへ～」について、



写真2 講師の佐藤先生



写真1 講演会場の様子

熱くご講演をいただきました。ドローンや空飛ぶクルマによる「空の移動革命」が世界的な潮流になりつつあり、信州にも「空の移動革命」を行うために、2023年9月に長野県を事務局とする信州次世代空モビリティ活用推進協議会が設立されて、ご自身がこの会の会長となって、民間企業・団体125社を含む161団体の体制で取り組んでいることを報告いただきました。この中で、山岳高地や冬季の低温環境など厳しい自然環境の信州で空モビリティを社会実装する意義などの説明もありました。さらに、新しい研究拠点での組織や令和7年度の文部科学省概算要求に残念ながら不採択となったが、再挑戦することなどを説明いただき、卒業生の皆様への支援を求めて講演を締めくくられました。

参考 次世代空モビリティシステム研究拠点URL：
<https://www.shinshu-u.ac.jp/institution/surcas/>

総会（写真3）は、同会場・同形式で、会場25名・オンライン7名計32名の出席のもと開催され、すべての議案について審議の後ご承認をいただきました。



写真3 総会で挨拶する清水会長

懇親会は、会場をシャトレーゼホテル長野に移し21名が参加されました（写真4）。香山瑞恵工学部長と大久保圭事務長の大学関係者もご出席いただきました。香山工学部長の挨拶（写真5）に続いて乾杯のご発声をいただき、対面での懇親と歓談の時間となりました。

（記 同窓会常任理事 楠 和彦）



写真4 懇親会の様子



写真5 懇親会で挨拶する香山工学部長

2025年度 国際交流学生支援報告

工学部 国際交流室 室長 酒井 俊郎

1. はじめに

本年度も海外協定校である韓国・嶺南大学校の学生1名(4-9月)、スペイン・カタルーニャ工科大学の学生1名(4-9月)、タイ・マヒドン大学薬学部の学生3名(4-11月)、UPMの学生11名(5月)、タイ・タマサート大学の学生1名(5-7月)、タイ・チュラロンコン大学の学生4名(6-7月)、台湾・国立暨南国际大学の学生1名(7-8月)を受け入れ、若里会から学生に対してご支援いただきました。深く感謝申し上げます。本稿では、物質化学科酒井俊郎研究室にて受け入れましたタイ・マヒドン大学薬学部の1名の学生からの報告書の和訳を紹介いたします。

2. 薬学部5年生Ilada Prapasanobolさんの報告

私はタイ・マヒドン大学薬学部の海外研修プログラムとして信州大学工学部物質化学科酒井俊郎研究室にきました。薬学部の5年次は非常に忙しく、自身の研究や薬剤師国家試験に加え、期末試験にも追われていました。そのため、海外インターンシップの準備に充てる時間はほとんどありませんでした。

しかし、実際に酒井俊郎研究室に来てみると、十分な準備はしていなかったにも関わらず、研究室所属の学生が大変親切に指導してくれたため、非常に多くのことを学ぶことができました。エマルジョンについては多少の知識はありましたが、コロイド製剤を評価する実験を実際に体験しました。その中には、マヒドン大学では使用したことがない装置もありました。例えば、マヒドン大学では粒子径分布を測定するためにマスターサイザーを使用しましたが、信州大学ではゼータサイザーを紹介され、私にとって新しく興味深い経験となりました。また、マヒドン大学薬学部では乳化剤を使用したエマルジョン調製に超音波処理装置やホモジナイザーを使用していたことを思い出しました。

当初は医薬品と無関係に思えた実験も、学びを深めるうちに実は非常に関連性が高いと気づきました。特に、ナノ医薬品の応用拡大に伴い、超音波を用いたナノ粒子生成や錯体形成といった技術に興味を持つようになりました。

研究室での活動の他にいくつかの授業や活動、イベントに参加しました。毎週月曜日には、酒井俊郎研究室が独自で開講している英語クラスに学生と一緒に参加して、英語で自己紹介や実験の進捗状況を報告しました。また、英語の講師の先生宅でのWelcome partyにも参加しました(写真1)。



写真1：英語の講師の先生宅でのWelcome party

毎週木曜日には、大学院の「コロイド・界面科学特論」の授業に参加して、企業からのゲスト講師による授業を聴講しました。また、工学部コロイド&界面科学研究センター(CoLLIS)が開催した「CoLLIS第4回食品科学講座」にも参加しました。さらに、東京ビッグサイトで開催された展示会「第7回ファーマラボEXPO 東京 2025アカデミックフォーラム」の出展のサポートを行いました(写真2)。

このインターンシップで最も印象的だったのは出会った人々です。酒井先生と酒井研究室の方々は非常に親切で温かく迎えてくれました。おかげで多くの場所を訪れることができました。特に感銘を受けたのは、日本人は冷たいという固定観念があり、他の研究室にいるタイ人学生からも同様の話を聞いていたからです。しかし、酒井俊郎研究室では、研究室所属の学生皆が自分から話しかけてくれ、会話をしてくれました。そのおかげで、良い友人関係を築くことができました。研究室では所属学生が定期的にパーティーを企画して、私も参加させてもらえたことに心から感謝しています。たいへん楽しい思い



写真2：第7回ファーマラボEXPO 東京 2025アカデミックフォーラムへ出展（東京ビッグサイト）

出の一つです。また、多くのタイ人にも会えたことも驚きでした。新しい人間関係をつくることができました（写真3）。

長野は思ったより小さく、行く場所も多くなかつたので、よく長野駅や善光寺周辺の街をぶらぶら歩いていました。しかし、長野は美しく穏やかな場所で、私は長野が大変好きになりました。ここにいられることがどれほど幸せか。帰国すると、長野と長野にいる皆さんがとても恋しくなるでしょう。たくさんの友人と思い出をつくることができました。心から感謝しています（写真4）。



写真3：タイ・ナレースワン大学から来訪した研究者との交流会



写真4：インターンシップ報告会での発表の様子



支部長会 in 軽井沢

—緑の軽井沢で親交を深めました

寄稿：東信支部 副支部長 西 嘉一
承認：東信支部 支部長 白鳥 敬日瑚

令和7年度の支部長会は東信支部が幹事となつて、軽井沢での交流会を含めて行われました。

【経過】

2024年2月に銀座プロツサムに於いて行われた2024年度支部長会で、2025年度の支部長会は東信支部が幹事で5月頃に軽井沢で行われることになりました。この支部長会には東信支部から白鳥支部長が出席しましたが、「5月の軽井沢で会場を確保するには、1年前の予約が必要」という事で、早速3月に清水会長を交えた役員会を開いて対応を協議しました。

この役員会で、2025年度支部長会は5月24日（土）に「軽井沢プリンスホテル」で会食・宿泊し、5月25日（日）に長野へ移動して工学部で行う事と決まりました。また同日支部長会終了後に引き続き同窓会の総会を行うことになりました。さっそくその場で軽井沢プリンスホテルの宿泊用コテージ2棟・本館1室と会食会場の予約を行いました。

2か月前の3月には概要を確定したいということで、年が明けた2025年の2月に、東信支部の役員と清水同窓会長で軽井沢プリンスホテル・ウエストに出向き、担当者に案内して貰いながらコテージと会食会場の視察を行いました。会食会場の「プリムローズ」には団体用の個室が有ったので予約してきました。

【いよいよ5月24日当日】

軽井沢観光は、清水同窓会長・榎先生・各支部の支部長が参加し、総勢12名となりました。少々ハピニングが有りましたが、車2台に分乗して、最初に向かったのは「熊野皇大神社」、ここは本宮社殿が長野と群馬の県境にまたがって建つ珍しい神社で、江戸時代に中山道の難所と知られる旧碓氷峠にあります。この神社には樹齢千年以上と言われるご神木「しなの木」があります。

次に向かったのは「万平ホテル」、軽井沢の歴史を紡ぐ100年を超えるホテルです。ジョン・レノンが良く寄ったというテラスで休息中の一コマです。

最後に旧ソニー社長で声楽家でもある大賀典雄氏の私財によって建立された「大賀ホール」を見学して、夕方17時頃プリンスホテルにチェックインしました。



万平ホテルのテラスにて

【会食と懇親・交流会】

会食は18時からホテル内のダイニング・ラウンジ「プリムローズ」で行われました。会食から工学部の香山工学部長（兼、東信支部副会長）、天野先生他のメンバーが合流し、総勢16名となりました。会食しながら近況報告を行った後、コテージに移って懇親会・・話が大いに盛り上がって気が付けば深夜0時を回っていました。



プリムローズで会食

【工学部に移動して支部長会】

次の日はビュッフェ形式の朝食をとつてから、三々五々車に分乗して長野市の工学部に向かいました。そして12時から昼食を頂きながら支部長会を開催しました。支部長会から関谷北信濃支部長、松本長野支部長、宮入関東支部長が加わりました。支部長会では各支部から活動報告が有りましたが、特に関西地区について支部設立準備世話役の橋本氏から「支部設立会を開催し、支部会則などを決定した。10月以降に関西支部設立総会を開催する予定である」という報告がなされました。

今回、一泊の交流会を交えた支部長会は初めての試みでしたが、工学部の先生方とも胸襟を開いてお話ができましたし、新支部発足を控え支部間の交流も深まったと思います。楽しい時間を過ごさせて頂いた皆様に感謝申し上げます。

◆ 同級生だより ◆

今まで振り返って

高野 洋之 (情報 S60・修 S62)



【はじめに】

情報工学科8期生の高野（こうの）と申します。修士課程（情報工学専攻）を卒業し、システム会社に入社、定年を迎えた後は再雇用で仕事を続けています。今回、同窓生だよりに執筆することとなり、これを機会に今まで振り返ってみたいと思います。皆様に何かしら感じていただければ幸いです。

【学生時代】

一人暮らしがしてみたい！という思いで大学を選び、何か面白そう！と直感し情報工学科を選びました。（英語が2次試験に無かったというのが一番の決めてでしたが（笑））

研究室はパソコンがいっぱいある！（当時の私は高くて買えなかった）ということで中村八束研究室に入りました。

クラシックギターのアンサンブルのサークルを探していて、なぜかマンドリンクラブでマンドリンを弾き始めました。授業もそこに4年間真面目（笑）にマンドリンを弾いていた記憶があります。マンドリンに出会ったことと修士課程の2年間の研究室での経験が、特にその後の人生に大きな影響を与えたと思っています。

一人暮らしの経験で、掃除・洗濯・自炊も一通りできるようになりました。（笑）

【システムエンジニアとして】

野村コンピュータシステム（のち野村総合研究所と合併し社名変更）に入社し、基盤のエンジニアとして数々のシステム構築に携わりました。大学の研究室で「仕組みを理解すること」の大切さを教えていただき、そのおかげでベンダーの営業より製品について詳しくなったり、事業部の品質管理担当として障害分析の一人者になりました。また、事業本部内のSNS導入・運営を担当したりと、基盤エンジニア以外の仕事もなぜか回っていました。基盤だけでなくその上で動いているシステムの業務の特性を理解し論理的に進める、というやり方で成果を出してきたと思います。論理的な思考や分析のやり方が身に付いたのも、毎週土曜日のゼミにおける中村八束先生の指導の賜物ではないかと感謝しております。（金曜日は徹夜が多かったなあ。。。）

【音楽との関わり】

入社してしばらくは仕事が忙しくて楽器に触る機会はほとんどありませんでした。15年くらい前に大学のクラブの後輩から誘われてイルマーレマンドリンクラブに所属し、マンドリンを復活。また、大学の後輩からの誘いもあり、還暦祝いに自分でマンドラを購入し、PMOに入団してマンドラを弾いています。

駒ヶ根マンドリーノは大学の2つ上の先輩からの誘いで、年1回の演奏会に1年前から参加しています。

楽器をとおして、いろいろな方と知り合いになり、何かをやることで知り合いの輪を広げる、という楽しさを日々、味わっています。マンドリン弾き以外にも、フラメンコの踊り手、ハンドベル奏者ともお友達になりました。



3年くらい前からプロのマンドリニストのレッスンを受けたり、充実した毎日？です。ちなみに楽器演奏は認知症予防に効果あり、だそうです。

これで仕事をやめてもボケることはない！！



＜写真解説＞

左がマンドリン、右がマンドラです。弦は2本ずつ同じものが4コース、計8本張られています。調弦はバイオリンと同じでE、A、D、Gで、マンドラはマンドリンの1オクターブ下の音になります。

【おわりに】

私が所属している社会人団体のホームページです。もし興味がありましたらぜひ御覧ください。

- ・イルマーレマンドリンクラブ

<https://www.ilmare-mandolinclub.com/>

- ・Presto Mandolin Orchestra (PMO)

<https://presto-mo.com/>

- ・駒ヶ根マンドリーノ

<https://mandolino.sakura.ne.jp/>

信大から広がるご縁とクルマの音色づくり

山田 昌也 (機シH15)



リクルートで工学部に伺ったとき、当時教えていただいていた榎先生にお会いして「若里」への寄稿という大変貴重な機会を頂戴しました。せっかくのこの機会に、会社で推進していることなどについて紹介したいと思います。

私は卒業後、大手自動車部品メーカーに就職し、4年間生産技術者として勤務してから、株式会社セキソーという祖父が創業した自動車部品メーカーに入社、2020年2月より社長を務めております。この時期はちょうどCovid19の影響が出始めたころで、就任直後から稼働停止や労務問題に追われることになりました。技術畑を歩んできた私にとっては慣れない決断の連続でストレスのかかる毎日でした。しかし今振り返ると、経営者として自立するための良いスタートであったと感じています。

セキソーという会社を紹介しますと、トヨタ自動車様を最大の顧客とする自動車部品のサプライヤです。本社規模は300人ほどの企業ですが、国内5社、海外6か国に展開し、主なカーメーカー様とはTier 1として関係を築いています。創業の場所は岡谷市で、戦後に自動車産業と関わり愛知県に進出し、紙製の小物入れやドアの内張、空調のダクトなどを製造して提供するようになりました。その後樹脂技術の発展により、弊社も樹脂成形機を導入し、樹脂製内外装製品を製造・販売するようになっています。

2014年前後から、「クルマの音」に注力することを決め、3年ほど前からは、お客様の元トップ経営者のアドバイスも受け、「クルマの音のシステムサプライヤー」を目指そうと活動しています。この取り組みは、お客様からの情報に基づき部品単体の開発をするのではなく、最終的にクルマになった際の効果を我々自身が意識し、周辺部品も対象に入れて開発を進めるというものです。車一台が入り、精密に走行状態を再現して音を測定することができる無響室という設備を保有し、音の発生源からお客様の耳位置までの伝達、そしてどのように感じるかを研究し、具現化するアイテムを提案するようにしています。

クルマは電気自動車や燃料電池車などが伸びつつあり、クルマの構造自体が変化しています。それに伴い音も変化することで開発すべきことが多くあり、おかげさまでお客様と共同開発が増えてきています。製品素材は不織布の活用が多くなっているのですが、不織布の製造から成形など未知の領域ばかり



走行音の評価をする無響室

りでした。最初は生産技術出身として可視化して理解したり装置メーカーに教えてもらったりと、楽しく学びながら取り組んでいましたが、やはり独学ではいけないと思い、繊維学部の先生に開発内容や困りごとを話してアドバイスをもらうようになりました。やはり理論が加わると開発も進み、今では互いの強みを活かした共同研究につながっています。

お客様で信大出身の方がいるととてもよくもらっています。特に工学部の大先輩である愛知製鋼の藤岡会長(精密S54年修了)には大変お世話になっており、品質・開発・人事など様々なアドバイスや支援を頂戴しています。また、ありがたいことにトヨタグループの合同こまくさ会にも誘っていただき、我々のグループも参加させてもらっています。総勢100名を超える参加者が毎年集まり、新旧それぞれ信大での思い出を楽しく語り懇親を深めています。同期の仲間に再会してその活躍に刺激を受けることもありますし、他社のVIPの方とも知り合い、先輩・後輩問わず会社を見てもらってアドバイスを受け、仕事の相談にも乗ってもらっています。信大同窓生ということでのネットワークの広がりがとてもありがたく感じています。

今後は、もっと良い音色のクルマづくりで頼りにされる会社を目指すと共に、創業の技術で環境負荷の低い紙の自動車部品を復活させ、当社ならではの環境貢献もしていきたいと考えています。今、弊社には工学部の同窓生がまだ少ないため、一緒に働く仲間も増やしたいですし、工学部でも共同研究がやれるようになれば嬉しいですね。

最後になりましたが、信大そして卒業生の皆様のご活躍と発展をお祈りいたします。また、もしご興味をお持ちになった方がいらっしゃいましたら、お気軽にご連絡いただければ幸いです。

これまでを振り返って

小林 樹佳 (建築 H29・修 H31)



2019年度に総合理工学研究科工学専攻建築学分野を修了した小林です。この度は建築学科の高村教授よりお話を頂戴いたしまして、この若里への寄稿を行う運びとなりました。大学時代は高木研究室に属していましたが、社会人となってからリクルーターとしてのOB訪問を機に、この機会をいただきましたこと、誠に光栄に思います。

さて、今回は良い機会ですので、私の大学時代からこれまでを振り返らせていただければと思います。

私は2015年度に信州大学へ長野高専より3年次へ編入学致しました。高専では建築も学んでいましたが、メインが土木だったため、編入学時の大学1, 2年生相当の単位認定が少なく、2年間では学部卒業は難しいという現実にまずぶつかりました。しかし諦めが悪い私は、意地でも2年間で卒業してやろうと、2, 3年生の授業を同時に取る暴挙に走りました。2, 3年の設計製図を同時に取ったのは、我ながら無謀だったなと思いますが、幸いにして無事に目標である2年間での卒業ができ、大学院へ進むことができました。計3年間の研究活動では、高木研究室に所属していましたが、研究室に閉じこもって熱心に研究をやっていた学生ではなく、後述する活動を主軸にしながら楽しく研究をやっていたような学生でした。

勉学以外で夢中となっていたのは、TEDxShinshu University (以下、TEDxSU) とボランティアであり、私の学生生活を語るうえでは欠かせないものとなっています。このような活動をやるきっかけとなったのは、やはり編入学がありました。同じく編入学した友人をきっかけとして、留学生とも仲良くなったりですが、これが私を変えた大きな出来事だったなと今になって思います。というのも、今でも繋がりのあるこの時出会った仲間たちは私がそれまで通りの生活を送っていたら、出会わなかつたであろうタイプの人たちばかりだったからです。個性豊かで、なんでもチャレンジしてみようとするポジティブさを持っている人たちでした。

そんな仲間と一緒にTEDxSUを作り上げ、この活動を通して、長野県内の様々な講演会やボランティア活動を経験できました。コミュニケーション

能力が高くなかった私にとっては非常にハードルが高かったですが、大きく成長することができました。TEDxSUについては、ここでは説明を割愛させていただきますが、大きく言うと「信州から世界へ」をモットーに面白い人を発掘してアイデアを発信する"ということをしていました。

またそれ以外にも、出身地である飯綱町で色々とやっていました。小学生と川登りをやったり、ツリーハウスを作ってみたり…。これだけ書くと勉強はどうした?と思われるかもですね笑。院生のときにはボランティアとして、行政や企業と一緒に町おこし拠点の立上げに携わりました。私が主に担当したのは、拠点作りであり、商店街の建物のリノベーションのデザイン・建築でした。この活動は新聞の一面でも取り扱ってもらえるほどで、モノづくり・建物を作ることの楽しさ・やりがいを味わえたもので、これをきっかけに私は建設業界へ興味を持つようになり、今の会社(株)竹中工務店へ入社いたしました。

このように勉強だけでなく、大学外での活動にも積極的に、いや、むしろ大学外での活動をメインとした、忙しくも充実した学生生活を送っておりました。信州大学でのこの経験は人生の中でも特別な思い出となっています。

社会人になってからは、そういった活動とは縁遠くなってしまいましたが、建物を作ることの難しさ、楽しさ、やりがいを常に感じながら仕事をしています。某有名な商業施設や、奈良井宿の古民家の改修物件に設計として携わることができました。とくに現在は超大型物件の現場で施工管理をやっており、街づくりの一端を担えているのかなと思います。こうして振り返ると、忙しい中で気づくことができていませんでしたが、学生時代にまさにやりたかったことができており、執筆中のいま、幸せを噛みしめています。これからもたまには振り返りながら、やりたいことを全力でやっていきたいと思います。

最後に、ご指導いただいた高木名誉教授と、このような貴重な機会を与えていただいた高村教授に御礼を申し上げるとともに、皆様の今後のご発展を心よりお祈りいたします。

社会人になって思うこと

白数 優花 (物化 R4・修 R6)



2023年度に総合理工学研究科工学専攻物質化学分野を卒業しました、白数と申します。この度、同窓会誌「若里」への寄稿の機会をいただきありがとうございます。就職して2年と間もないですが、せっかくの機会ですので大学時代から振り返ってみようと思います。

私は、2018年に物質化学科に入学しました。大学1年生は、学業もサークル活動もとても充実していました。特に、ジャグリングサークルで練習に明け暮れた日々は懐かしく思います。昼間は同期と輪を作り、練習、授業が終わってからも練習と大会や部内発表会に向けて仲間と共に練習に励みました。大学3年生に上がるころには、新型コロナウイルスの影響で授業もサークル活動も思うように行かず、苦しい思いをしました。大学2年生から始めた光芒祭実行委員会の活動も、コロナウイルスの影響から対面開催は実施できませんでした。しかし、オンライン開催に切り替え、動画配信やSNSを使った企画を実施するなど、今までにない取り組みを一から行うという新しい経験ができました。今思うと、苦しい時代であったことに変わりないですが、新たな経験や価値観が得られたという意味では自分の糧になっていると思います。4年生からは、手嶋研究室にお世話になりました。私は、東日本大震災の経験からも放射性物質の除去に興味があり、選択吸着や重金属の除去など水処理の研究をしていた手嶋研究室を訪れました。手嶋研究室は実験設備も環境もとても整っておりのびのびと実験に励むことができました。配属直後は念願の吸着に関する研究テーマをいただきましたが、思うような実験結果が出せず日々奮闘していました。しかし、先生や先輩後輩、同期そして補佐員の方々に助けていただきながら、なんとか研究成果に繋げることができました。これらの経験から、①失敗を恐れず、最後までやりきるメンタル、②悩んだ時は1人で抱え込まず仲間に助

けてもらうことを学びました。

修了後は、パナソニックのアルカリイオン整水器や浄水器を扱う部署に就職し、製品に搭載されているデバイスの開発を行っています。入社して間もない頃は、寿命試験用の設備改善、大学と共同研究するなど新たな経験を積みました。これらの仕事は、一見研究内容と直結していないように思いますが、研究室で学んだ知識や経験は非常に活かされていると感じます。上司、先輩方は親身に相談に乗ってくださり、悩んだことがあると自分ごとのように一緒に悩み、助言してくださいます。また、私がやりたいことを伝えると、本質を捉え、実現に向けて次のステップを示してくださいます。そのため、日々悩みつつも不安もなく強気で仕事に取り組めています。今年からは、自分のテーマもいただくことができ、海外の開発センターとの共同開発や新しい寿命試験設備の立ち上げ、CADの習得に励むなど新たなことにチャレンジしています。今後も、大学時代に身に付けた経験を糧に、少しでも早く一人前の社員になれるよう頑張りたいと考えています。

終わりに、ご指導いただいた手嶋先生、林先生、山田先生をはじめとする先生方にお礼を申し上げると共に信州大学工学部の皆様のご健康と益々の発展を心よりお祈りいたします。



2合目の景色

曾根原 真秀 (水土 R4)

国土交通省



はじめに

私は、令和4年3月に水環境・土木工学科を卒業し、同年4月より国土交通省に入省しました。社会に出てまだ4年目なので、趣味の登山で例えると、まだ2合目のあたりを登っているところです。物事を俯瞰して見るには至らぬ点も多いかと思いますが、何卒ご笑覧いただきますようお願ひいたします。

仕事の信条

さて、何を寄稿しようかと考えたときに、私ならどんな内容に興味を持つだろうかと思いを巡らすと、ことあるごとに先輩へ「何を考えて仕事しますか」と伺っていることを思い出しましたので、この機会に私の仕事の信条を2点ご紹介させていただきます。

1つ目は、「現場を知らない者に真の課題解決は果たせない」ということです。前提として、国土交通省に技術系（土木）の総合職で配属されると、4年目に河川や道路といった専攻が定まるまでは、大学の専攻に寄らずあらゆる分野に配属されかつ、最初の2年間は地方配属となります。私の場合、1年目は北海道の港湾部門に配属となりました。長野県出身かつ、学生時代は河川を専攻していた私にとって、港湾は全くもってなじみのない分野であるとともに、北海道の土地勘もありませんでした。そのような状況では業務に身が入らないばかりか、思考も机上の空論になりかねないと危惧し、兎にも角にも、私は趣味のドライブを兼ねて、毎週のように道内の港湾を巡る旅に出ることにしました。港を訪れては、そこがどんな地理条件にあるかや、港の周りにはどんな街が形成されているかを自分の目で見て回り、時には漁の片付けをしている漁師さんにどんな魚介類が獲れるのか聞いてみたりしながら、各港の特徴を見つけることに努めていました。こうしている内に、知識の引き出しが増えて、それまでは聞き流していたような些細な話題もアンテナに引っかかったり、現場を知っているからこそ説得力が増したりするような業務上の効果を実感しました。次第に要領を得てからは、北海道の道の駅スタンプラリーという実益も兼ねた旅となり、1年目にして全道の直轄港湾と道の駅、市町村を制覇するに至りました。百聞は一見にしかずとはよく言ったものです。

2つ目は、「苦労は積める内に積んでおけ」ということです。現在、私は本省の建設業関係の部署に在籍しております。昨年4月に異動してからというもの、本省のイロハも分からぬまま、担い手3法の国会審議に突入し、6月に成立した以降も、今度は施行に向けた検討を行うためのワーキンググループを立ち上げ、目下、本年12月の全面施行に向けて検討を進めているところです。光栄なことに、私はこの一丁目一番地のコアメンバーに抜擢いただき、日夜、馬車馬の如く働いています。もちろん、改正法案件に携わっている時点で、一般的にはかなりの業務量であり、現に、局の平均残業時間は省内でも有数です。そのような状況でも、育児休暇の取得や病気療養による一時的な課内の欠員は、当然に生じるものですが、公務員というのは定員が決まっている都合上、期間工を足すことは容易でなく、基本的には課内の者でやり繰りするしかありません。このため、昨年、私は諸般の事情により、改正法案件の傍らで、10ヶ月間、育休や病休により勤務困難となった課員の分の業務も担いました。今となっては大変だったなと思いますし、局内で1番残業時間が多かったので、もう一度やってほしいと言われても、なかなか首を縊に振りづらくはありますが、結果として、この高負荷での業務経験が自分を急速に成長させたと実感しております。というのも、リアル「精神と時の部屋」と言いますか、1年間で3人分の業務を経験できたからです。これは、若くて体力があり、意欲的だったからこそできた所業であり、今後、家庭の事情等によっては、それができなくなることは容易に想像がつきますので、できる時に経験しておいて良かったと思っております。後悔しないためにも、若いときの苦労は買ってでもしろと思うものです。

おわりに

この度、本誌への寄稿の機会をいただきましてありがとうございました。冒頭の通り、私はまだ2合目のあたりを登っているところで、登り始めは心拍数が上がって当然です。今後、もう少し高いところまで登ったときの景色も共有できれば幸いです。末筆ながら皆様の今後の活躍を心よりお祈り申し上げます。

◆ 恩師からのたより ◆

バイオマス研究を学生と共に30年

信州大学名誉教授 天野 良彦 (元物質化学科 教授)



令和7年3月に、30年1か月教員として過ごしました工学部を無事卒業することができました。学生時代の学部4年間、修士課程2年間及び博士課程3年間を合わせると実に40年近くも工学部キャンパスにいたことになります。我ながら、だいぶ長いこと若里キャンパスにお世話になったなど、感慨深いものがあります。現在は、ARG（アクリアリジェネレーション）機構の特任教授として、ほぼ毎日工学キャンパスで働いております。今後もキャンパスでお会いしましたら、ぜひお声掛け頂けましたら幸いに存じます。

さて、この長いキャンパスでの生活を少し振り返ってみたいと思います。私は、1978年に工業化学科に入学し、学部生活を送りました。卒業研究では神田先生の研究室に在籍し、担子菌の生産する酵素の研究を行いました。当時は、工学部に生物系の研究室があることは大変珍しかったのではないかと思います。その後修士課程を修了して民間に就職したのですが、その時に信州大学に設置された博士課程に社会人学生として在籍し、博士の学位を取得しました。博士課程の1期生であり、学位の番号は第2号でした。その後縁あって、母校である工学部に1995年に奉職することとなりました。周りからは学位を取ってすぐに転職するとは何事かとお叱りを受けましたが、自分の職場では快く送り出して頂いたことを大変感謝しております。

大学では神田教授のもと助手として、10名弱の学生の指導にあたったと記憶しています。当時はまだ修士に進学する学生数もそれほどは多くなかった印象です。赴任後すぐに、国費の留学生が来るということで、いかに学位を取得させるかで苦労したことが記憶に残っています。その後、社会人の博士課程の学生も含めて、20名あまりの学生の学位を取得するために指導できたことは大変誇らしく思います。特に、私が在籍した30年間で、持ちあがりの博士課程の学生がいなかったのが、半年だけというの大変珍しいのではないかと思います。多くの博士の学位取得者が、今でも大学や公的な研究機関で活躍してくれているのは頗もしい限りです。研究としては、キノコの菌を扱っていますが、この菌は地球上で木質を最初に分解で

きる唯一の菌です。もしこの菌が生まれてこなかったら、現在でも大量の有機物がうず高く地表に蓄積していたことでしょう。このように、キノコ菌は地球の掃除屋さんと呼ばれ、現在の炭素の循環に大変重要な役割をはたしています。このような菌のポテンシャルを利用すれば、化石資源に頼ることなく、現在地球上で再生産されているバイオマスを利用した持続可能な社会が実現できるはずです。そのような夢に向かって研究を継続しています。実は、現在研究室で扱っている菌は、私の先々代のボスから80年以上にわたって引き継いでいる菌です。現在では遺伝子組換えによる酵素生産をメインとして研究をしています。地道ではありますが、継続は力なりという言葉をモットーに、世の中に貢献できる基礎技術を開発していきます。これらの研究は、現在では大変重要と認識されており、准教授時代から多くの国のプロジェクトに参画させて頂いています。研究予算がなくては研究は行えませんが、結構潤沢に獲得できたと思います。

教授に昇進した2005年からは大きな農水のプロジェクトを採択頂き、自ら実験をしていましたが、2010年ころからは地域研究センター長、評議員、工学部長、副学長を歴任し、准教授および助教の先生方に任せきりになってしまいました。管理職としては、工学部ですので、産学官連携を推進する施策をいかに行っていくかで、苦心しました。自分の研究領域が境界領域であったこともあり、学内の他学部の先生とも多く連携することが出来たことは、信州大学のために少しほは貢献できたかと思っております。私が工学部長時代に構想した学部改組も、ようやく文科省から認可され、次年度からは工学部工学科の1学科制がスタートします。18歳人口の継続的な減少により、大学は入学生の奪い合いをすることになります。高校生から選ばれる大学になるためには、特徴を前面に押し出し、優位な人材を育成する姿を見せなければいけないでしょう。

最後になりましたが、これまで多くの方にお世話になりました。この場を借りまして厚く御礼申し上げます。信州大学工学部が今後ますます発展することを願っております。

定年退職を迎えて思うこと

信州大学名誉教授 菅 博幸（元物質化学科 教授）



私は令和7年3月末をもって定年退職いたしました。平成10年1月1日付で大阪大学大学院理学研究科から信州大学工学部に転任して以来、27年あまりの間、工学部で教育・研究に携わらせていただき、大変お世話になりました。改めてお礼申し上げます。

授業では、有機化学Ⅱ、有機化学演習、有機立体化学、有機構造解析などの専門分野の授業を担当させていただきました。この分野は、大学入試においても化学の中で出題の対象となる主要科目であります。出題の傾向からすると、暗記科目との位置付けと考えられることが多く、大学で習得すべきこの分野の内容は、受験生の時と比べると、学生さんにとって随分異なる印象の科目のようです。入試問題としては、特定のよく出題される基本的な反応があり、使われる化合物名や構造式などを丸暗記しておけば、正解を解答できる場合が多いように思います。大学の授業の中であつかう有機化学においては、今や何千万という有機化合物が知られており、これらの化合物がかかる何千万もの反応があるので、これらを機械的に暗記することには無理があります。そこで、反応を体系化して理解するために、この分野では、訳本を含めて多くの教科書が出版されており、膨大で複雑な集積された知識に基づいて、反応の起こる仕組みを分子レベルで説明した反応機構によって順序立てて整理され、理解できるようにしてあります。在職中は、一人でも多くの学生さんが、実質的な内容を習得してもらえるよう、有機化学反応が起こる仕組みを反応機構によって理解し、考えてもらえるよう日々、努力して講義したつもりですが、思うように受け入れられなかつたことが心残りです。

研究においては、有機化学の分野で主に「1,3-双極性付加環化」と呼ばれる反応において、立体選択性の制御に関する研究を行いました。この内容は、

私が博士課程の学生であった時代に、独立して研究が行えるようになったら、当時はあまり報告例がなかった触媒を使う方法でやってみたいと考えた内容です。信州大学工学部に赴任して以降、やりたかった内容の研究をライフワークとして続けることができ、一定の成果を上げることができたことに感謝したいと思います。令和7年2月28日には、「1,3-双極性付加環化反応と過ごした40年余りの研究生活」と題した最終講義を開催いただき、卒業生や修了生に実際に研究テーマとして取り組んでいただいた内容を研究成果の集大成として講義させていただきました。また、当日は、実験を担当いただいた多くの卒業生や修了生が最終講義に参加していただきました。心より感謝申し上げます。



最終講義（令和7年2月28日）

定年退職後は、27年あまり過ごした長野を離れ、大学での教育・研究生活からは別れを告げ、広島県呉市の実家で年金生活を始めました。現在は、しばらく空き家になっていた実家で、高圧洗浄機での駐車場や玄関の掃除や庭の草むしりなど住居の整備で忙しくしており、予想外に充実した日々を送っております。

最高の「おおいなる寄り道」

片岡 正和（元物質化学科 准教授）



信州大学工学部同窓会の皆様、この度、同窓会誌「若里」に寄稿する機会をいただき、心より感謝申し上げます。私は2000年から25年、信州大学工学部に在籍しました、片岡正和と申します。

信州大学の多様性と「おおらかさ」

「同じ釜の飯」を食った仲間である同窓会は、人ととの距離を縮める、素晴らしいコミュニケーショングループです。同窓会組織として有名な慶應義塾の三田会のように、信州大学の工学部同窓会もまた、かけがえのないつながりです。

信州大学の大きな強みは、全国区の国立大学であることです。沖縄から北海道まで、日本全国津々浦々から集まった学生たちは、それぞれの地域の異なる文化に触れ合います。こうした多様性の中で育まれる「おおらかさ」こそが、信州大学出身者の持ち味ではないでしょうか。特に理系の学生は、研究室という密な環境で過ごします。その中で彼らが円滑な人間関係を築けるのは、しっかりした家庭教育に裏打ちされたコミュニケーション能力のおかげだと感じています。信州大学という全国区の環境が、そのおおらかさをさらに磨き上げているのでしょう。

私の研究人生と信州大学との出会い

私の研究人生は、一貫して基礎研究の道を歩んできました。大阪大学を卒業後、三菱化成生命科学研究所（現：三菱生命研）や国立小児病院研究所などを経て、2000年に信州大学工学部に着任しました。基礎研究において最も重要なのは、自由な発想で物事を考えることです。この自由な思考空間こそが、次世代の人材を育むアカデミアの使命だと信じています。

三菱生命研は、企業の基礎研究所としては世界でも類を見ない、研究者にとっての楽園でした。しかし、経済状況の変化とともに、企業が基礎研究から撤退する流れが加速。大学よりずっと科学に関して建設的だった三菱生命研もtranslational researchに舵を切り、選択と集中と言いだし、しかも総予算は減少。これって既視感がありますよね。そんな時、公募で目に留まったのが信州大学でした。長野キャンパスは新幹線が通り、東京へのアクセスが抜群。八重洲や丸の内で深夜まで呑んでいても座って帰れる便利さに惹かれ、遊び大好き人間の私は「ここしかない！」と、文字通り“落下傘部隊”的に単身

で信州大学に着任しました。当初は数年で他大学へ移るつもりでしたが、長野の住みやすさにすっかり魅了され、気づけば25年が経っていました。

25年間で育んだ研究と人材

信州大学では、生命科学研究室を立ち上げ、多くの学生たちと研究、究極の遊び、に励んできました。学部生106名、大学院修士49名、そして博士号を取得した4名を含む、将来有望な若者たちを社会に送り出すことができ、感無量です。

研究室のモットーは、「大学は機会を与える場であり、それ以上でも以下でもない」と、「殺すな」の二つ。特に在籍した大学院生のほとんどは、私よりもずっと大人で、彼らから多くのことを学ばせてもらいました。赴任当時は神経科学が専門でしたが、その後は微生物分子生物学、進化・合成生物学、そして現在はロボティクスや情報科学を駆使したシステム生物学に没頭しています。研究グラントも継続していただいており、今も現役の研究者として、次世代の育成と研究の最前線になんとか立ち続けています。

若里会への感謝とこれからの期待

信州大学に着任した当初は、研究資材が何もない「ここはどこ？ いったい、いつの時代？」という状況でした。しかし、前職の三菱生命研や大阪大学、そして多くの研究費助成機関からのご支援を多数いただき、何とか研究をスタートさせることができました。

特に忘れられないのが、全ての助成金に落ちてしまい裸んぼになった、たった一度の苦しい年です。その時、神田先生が理事長を務めていらっしゃった若里会からご助成をいただき、大学院生の学会発表費用等に充てることができました。このサポートのおかげで、学生たちの育成を途切れることなく継続でき、変わらぬ研究進展に繋げることができたのです。同窓会の皆様には、心から感謝しています。

現在、日本の国力は少しずつ下降気味で、将来を憂う声も聞かれます。しかし、信州大学工学部は、人材のインキュベーションセンターとして、これからも日本を支える人材を育み続けると信じています。「同じ釜の飯」を食った仲間として、卒業生と関係者からなる同窓会の皆様には、これからも後輩たちの強力な応援団として、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

卒業生・修了生のみなさんに向けて

信州大学名誉教授 佐藤 敏郎（元電子情報システム工学科 教授）



卒業生・修了生の皆様方におかれましては、益々ご活躍のことと存じます。私こと、令和7年3月31日をもって信州大学を定年退職いたしました。

平成8年9月に民間企業を依頼退職し、当時の電気電子工学科教員として着任いたしましたが、以来、28年7ヵ月にわたって信州大学の教職員ならびに学生の皆さんに大変お世話になりました。この間、山沢清人先生、三浦義正先生、曾根原誠先生と先端磁気デバイス研究室を主宰し、多くの卒業生・修了生を社会に送り出しました。令和7年3月1日には、曾根原誠先生が幹事役をお務めになられ、卒業生・修了生をお招きして定年退職祝賀会がホテル信濃路を会場に催されました。ご多忙の中、お集まりくださいました皆様に改めて厚く御礼申し上げる次第です。図1は祝賀会の記念写真です。卒業生・修了生のお元気な様子に感激するとともに、それぞれが様々人生を歩まれ、時の流れを実感した次第です。

小生が最後に籍をおいておりました電子情報システム工学科主催で令和7年3月25日に「最終講義（もどき）」が開催されましたが、（もどき）を付したのは定年を迎えるもなお浅学菲才を自認し、若い先生方に最終講義などの大それたお話は到底無理と思いまして、「人との出会いを中心に、皆様方の長年のご支援に感謝を込めて」といった趣旨でお話しさせていただきました。人生つつがなく送ってこられたのも信州大学をはじめ、学会や社会活動で出会った諸先輩、同世代の皆さん、若い方々との出会いがあつ

たからこそと強く思います。

卒業・修了生のご活躍は教員にとっても大学にとっても貴重な財産です。就職後に大学を訪問いただいた際に、勤務先でのご苦労や奮闘ぶりをお聞きするのはなによりの喜びのひとときでした。なかでも、「かつての研究室での生活を振り返ると、佐藤先生の日常のお言葉が強く残っていて、ものごとの思考の基準としていましたが、上司とぶつかり、勤務先の環境に我慢ならず、転職しました。」と一人の修了生から聞いた際には、自分のつたない言葉がその後の人生にそんなにも影響したのかと啞然としました。私自身が2回の転職後に信州大学に着任した身ですので、「これまでの経験が学生のみなさんに何らかの形で参考になってくれれば良いな。場合によっては反面教師と捉えて欲しいな。」という意図を込めてお話ししたつもりであります。教員のさりげない言葉が学生の皆さんにとっていかに重いかを実感します。

定年退職後は信州大学工学部および信州大学次世代空モビリティシステム研究拠点の特任教授として、工学部の片隅でひっそりと生活しております。工学部にお越しの際は、是非、お声がけください。

最後になりますが、同窓会の皆様は工学部にとって強力な応援団です。信州大学工学部は今後も様々な社会課題を解決する手段を提供してくれるものと期待しております。同窓会の皆様方におかれましては、引き続き応援をよろしくお願いする次第です。



図1 定年退職祝賀会（令和7年3月1日、ホテル信濃路）

工学部キャンパスでの日々と近況報告

松本 明人 (元水環境・土木工学科 准教授)



2025年3月をもちまして信州大学工学部を定年退職いたしました。1993年4月に赴任して以来、32年間、工学部キャンパスで過ごすことが出来ましたのは、教職員の皆様のご厚情のおかげと感謝しております。わたしは長い間、専任教員が不在であった衛生工学（上下水道）分野を担当すべく、社会開発工学科へまいりました。研究室の立ち上げ時から様々な面で支えていただきました富所五郎先生、そして研究を一緒におこなってくれた研究室の皆様に深く感謝いたします。

1999年4月から2002年3月までは工学部キャンパス内にある地域共同研究センターで、貴重な経験を積むことが出来ました。当時のセンター長 中村八束先生のもと、はじまりました創業支援事業はマスコミ等からの注目度が高い一方、支援は手探りでおこなうことも多かったのですが、センター長のすぐれたアイデアと実行力、そして申込者の方々への精力的な対応には感服いたしました。わたしも申込者の何人かの方とはその後も長くお付き合いさせていただきました。また、従来から続くセンターの主要業務である技術相談においては、前任の三島彰司先生や榮岩哲二先生、そして事務の羽田節子氏らが築き上げてくださった人的ネットワークのおかげで、学部を超えて多くの方に対応していただきました。お世話になりました先生そして技術職員の方々にはこの場を借りて御礼申し上げます。

三年間に及ぶ地域共同研究センターでの活動を通じ、多くの先生方とお付き合いさせていただいた結果、文部科学省の特色ある大学教育支援プログラム「環境マインドをもつ人材の養成」、地域再生人材創出拠点形成プロジェクト「ながのブランド郷土食」などに参加させていただきました。お世話になりました北澤公義先生ならびに天野良彦先生には心より感謝いたします。さらに水環境・土木工学科に所属していた関係で、革新的イノベーション創出プログラム「アクア・イノベーション拠点」にも関わらせていただき、巨大プロジェクトでの稀有な体験をさせていただきました。

わたしの場合、メンバーに誘っていただき、受動的にプロジェクトへ参加することが多かったのですが、数少ない主体的な活動としては第18回 日本水環境学会シンポジウムの開催があります。こちらは同じ学科の豊田政史先生に多くの仕事を担っていただきましたが、学内外の関係者と協力して、400名近くの参加者を工学部に迎え、シンポジウムを開催出来たことは望外の喜びでした。

さて定年後の生活ですが、地方自治体の各種委員会の仕事は学科の先生に引き継いでいただきため、気楽な生活を満喫しております。アルプスの山々を背景に安曇野が一望できる長峰山での花見を皮切りに、6月には大阪万博にもまいりました。大阪万博に対し、もともと関心は低かったのですが、中国館での甲骨文字から始まり、月面の砂、そして深海調査船、さらには中国人の一日の生活の映像に、中国の勢いをつよく感じました。また、アメリカ館ではアメリカで一緒に最先端の研究をしようという内容に、トランプ政権の方針とは真逆の内容を付度なしにおこなえるアメリカの懐の深さ、そして見事な盛り上げ方に、やはりアメリカは魅力的な国だなと感じ入り、最後には万博を満喫してきました。

現在、県内外を旅行しながら、あらためて感じるのは信州の魅力です。信州大学に転職する際、信州で生活できることがうらやましいと多くの人にいわれ、遊びにいくのではないとうそぶきましたが、北信の山々をはじめとする自然の豊かさ、そして縄文遺跡から松本城、さらには善光寺など現在につながる歴史の厚みに、いまだ観光客気分が抜けず、日々楽しんでおります。また大学生活を通じて、信州大学の様々な学部・学科の先生方と仕事をさせていただいた経験はかけがえのないもので、全国各地から集まる学生さんたちとの研究も楽しいものでした。これら多様性が信州大学の大きな魅力と感じております。

最後になりましたが工学部同窓会および工学部の皆様の益々のご健勝とさらなる発展をお祈り申し上げます。

小さな幸せを知る勇気ある挑戦者たちへのエール

杉岡 秀行 (元機械システム工学科 教授)



1. はじめに

“夢のような旅だった。遠い北の果ての…” 学生時代によく口ずさんだ曲が脳裏に浮かびます。皆様、お元気でしょうか？社会の荒波の中でも、きっとたくましく、人生を謳歌していることを願ってやみません。私自身は、本年2025年3月末で定年退職を迎え、自宅のある神奈川県に戻り、一人の人間として、企業研究者時代の30年、信州大教員時代の10年に続く、第3の人生を模索中です。思えば、「研究の喜び」を伝えるべく過ごした信大での10年間は夢のように楽しい日々でした。特に、研究室で学生たちと一緒に過ごした挑戦の日々は珠玉の思い出です。ただ、根底にある「小さな幸せ」の大切さはあまり強調できなかった気がします。ここでは、私の近況を伝えつつ、そんな思いを伝えられればと思います。

2. 健康と平凡な幸せ

4月には“先延ばししていた人生初の手術”を受け、簡単な手術にもかかわらず、あらためて「健康」と「限りある命」の大切さを痛感しました。また、「妻との早朝ウォーキング」や「孫との恐竜ごっこ」、「近くに住む娘夫婦や息子、母など家族との食事や団欒」など、何気ない幸せに感謝しています。学生たちには、学問以上に大事なことがあることを“心技体”という言葉で伝えようとしていたつもりですが、ワークホリックだった私の言葉に説得力がなかったかもしれません。

3. 生きていくために必要な事

これからの方は、社会の仕組みを科学の目で洞察し、新しい社会を切り開いていく必要があると考えます。下世話な話となります。私は今、スマフォ料金プランの仕組みを初めて知ったり、年金・健康保険・介護・相続・税金制度を学習したりするなど、第3の人生を生きるために必要な事への取り組みを開始し継続中です。こうした日常の些事も科学の目で見れば一種の最適化問題にすぎないはずですが、実にわかりにくく、AI社会への発展に必要な課題など、意外な発見もあります。また、退職後は、国際誌のレフリー活動や科研費の報告書作成の他、やり残しの研究をElsevier誌に掲載するなどの活動も行ってきました。これは、私としての社会奉仕であ

り、生きるために必要な他者貢献です。

4. 世界のトップと戦える信大の学生たち

自分の知る研究室の中の信大生は、人に優しく小さな幸せの価値を知りながら、企業や世界のトップ集団と戦える力を秘めた若者たちです。彼らの力は素晴らしい、26人の修士のほぼ全員が国際誌への論文掲載を果たし、約半数が2~6本の共著論文を含む研究業績で学科の上位となり学会賞を得、“やればできる事”を証明してくれました。特に、初期の学生たちは、何もない状態から、トップレベルの研究室の礎を築き、成果を上げ、後輩に繋げてくれました。また、続く、後輩たちも研究スキルを継承・発展させながら、新しい科学的概念を次々に証明し、設計論へと発展させてくれました。彼らは、私とディスカッションしながら、何度も何度も挑戦し、何度も失敗しながら、本質的なブレークスルーに辿り付きました。本当に素晴らしいと思います。

5. おわりに

残念ながら、世界は今大戦前と類似の状況と言われています。加えて、地球の温暖化はまたなしの課題であり、核戦争の脅威も無視できません。また、日本の平均年収は20年前にはアメリカとほぼ同水準であったものが今では1/3程度となり、経済の凋落は否定できません。なぜ、日本は壊滅すると分かっていた戦争を阻止できなかったのか？また、なぜ経済学の常識を無視し凋落に向かったのか？この先、世界は叡智を集め科学が予測する温暖化や全面戦争による滅亡の危機を克服し、日本は創意工夫と努力によって凋落を阻止し名誉ある繁栄を取り戻す必要があります。ここで、中心的な役割を担うのは、小さな幸せを知る、科学の力を身に着けた勇気ある挑戦者だと思います。そして、そうした力を持つと信じる信大関係の皆様のますますのご活躍と社会への貢献を願って、エールとしたいと思います。



みなさまいかがお過ごしでしょうか？

信州大学名誉教授 中村 正行（元機械システム工学科 教授）



2025年3月31日をもって、信州大学を定年退職いたしました。1988年3月1日より37年と1か月の長きにわたり、多くのみなさまの支えにより仕事を続けることができました。心より感謝申し上げます。

研究室OBOG会の報告。

昨年2024年10月には、研究室卒業生の数名が発起人となり、OBOG会を兼ねて「中村教授謝恩会」をホテルメトロポリタン長野にて開催していただきました。現役生、卒業生、修士修了生、博士修了生のOBOG、研究室事務補佐の約80名が参加する盛大な会となりました。最終講義の時間をとってもらい、10月なのでまだ早いと思いつつも、大学に着任してからの教育、研究、大学運営、行政など社会との協働、所属学生の多くが関わったアウトリーチ活動について説明しました。教育・研究では改組などにより所属学科が機械工学科、生産システム工学科、旧機械システム工学科、環境機能工学科、機械システム工学科へと変わったため、機械工学分野の数値解析、逆解析、最適化、設計関連へとテーマを少しずつ変えてきました。その時々の研究室所属学生との研究活動が、演台で話をしている途中に思い出され、会場からこちらを向いて聞いている懐かしい顔と相まって、大きな感動を覚えました。

このほか、数名のOBOGが仕事内容などの近況報告や研究室での思い出、私に関わるエピソードなどを語ってくれました。同窓会誌「若里」の編集を担当していたころ工学部中庭の池の周りで“えびす講”的花火を撮影していたとき、女性を連れたOBに会いました。私から「君にはまた会えるけど花火は今しか撮れない」と言われ立ち去ったとのエピソードは、研究室を卒業した約180名の卒業生の人生に多少なりとも関わっている立場を再度思い起こさせてくれました。

退職後の日常。

信州大学教育・学生支援機構の特任教授として、引き続き企業向けのリスクリキング講座2科目を担当しています。その内の一機械設計に関する講座では、CAEやAI適用の進展が著しく、最新情報を盛り込むべく、相変わらずマウスを片手に情報収集と講義資料作成に忙しい日々です。加えて工学部の特任教授として週2日ほど長野（工学）キャンパスに勤務しております。複数の企業との共同研究に参画させていただき、主に解析分野での経験を活用いただいているます。

2年ほど前から果樹栽培に取り組み、春先の剪定作業に始まり、摘花、摘果、草刈り、スピードスプレイヤー（通称SS）による防除作業、葉摘み、収穫、選果、贈答用の箱詰めと発送、市場やJAへの出荷、ジュース製造まで一通りこなしました。主にりんご数種類を栽培していますが、梨や桃、イチジクも試験的に育てています。しばらく休耕していた水田も再開に向けて準備作業に取りかかりました。気候変動の果樹への影響が顕著に現れる中、植物の環境への適応力の大きさを感じます。子どもの頃のお手伝いを思い出しての作業ですが、果樹生産者としては初心者ですので、気候変動に適応した育て方を模索しながら奮闘中です。顔写真には収穫間近のりんご・シナノスイートが写っています。今年も豊作です（摘果作業が甘く、実を多く残しすぎた）。

みなさまいかがお過ごしでしょうか？

最後になりましたが、同窓会誌「若里」に本文を掲載させていただいたことに感謝申し上げます。研究室卒業生修了生はもとより、この文章をお読みいただいた方、少しでも私を覚えておられる方、ご自身の近況やご一緒させていただいた頃の思い出など、機会がありましたらお知らせいただければ幸いです。maxnaka@nifty.com

10数年前、4月21日に長野でも希なまとまった降雪があり、工学部構内の咲き始めの八重桜が雪をかぶった写真を撮影し、「若里」の表紙に掲載しました。その際、編集後記に載せた一文です。[八重桜は人の手が入り選抜された品種でその歴史は古い。花言葉は“理知に富んだ教育、豊かな教養”。教養を身に着けるには時間がかかるが、教育と教養があれば気候変動にもしなやかに適応できる。]

同窓生のみなさまのますますのご健勝とご活躍を祈念しております。



2024年10月12日開催 謝恩会（撮影OB T氏）

工学部の発展を願って

山崎 公俊（元機械システム工学科 教授）



2012年9月から2025年3月までの約12年半の間、工学部機械システム工学科に所属し大変お世話になりました。任期付き助教から教授まで一通りの職位を経験させていただきました。在職中は多くの方のお力添えを賜りましたことに深く感謝申し上げます。現在は東北大学大学院工学研究科に所属し、新たな環境で教育研究を進めるため奮闘しています。仙台の気候は長野と似ており、周囲は理知的な人が多く、車の運転も皆丁寧で、今のところ落ち着いて過ごせています。

私の専門はロボティクスですが、着任した2012年当時は工学部に同じ分野の研究者がいない状況でした。また、県内には多くの製造系企業があり、知能ロボットの技術を自動化に活かしたい気持ちはあるものの、実際どうしたらよいかよくわからないというご意見が多かったように思います。研究成果のアウトプットを論文だけにしてはならないと考えていた身としては、地域に貢献できる機会をいただいたように思い、在職中は多くの企業様と関わりを持たせていただきました。共同研究だけでなく、北信・東信・中信でロボット技術に関する講座を持ったり、産学連携のワークショップを開催して若手技術者の横のつながりづくりを試みたりなど、大学らしい種まき的なことができたのではないかと感じています。コロナ禍の影響により難しい局面もありましたが、これらの活動の多くにおいて、ものづくり振興会やみらい共創会の方々には特にお世話になりました。この場をお借りして御礼を申し上げます。

また、昨年度1年間は学部長補佐を拝命しておりました。大したことはできないまま役割を離れてしまい、学部長を始め学部運営会議の構成員の皆様にはご迷惑をおかけしてしまい、申し訳ありません。一方、工学部の研究力向上に関するいくつかの考察や試みを通して、強く意識するようになった事柄は多くありました。その一つは、昨年度のウイークリー若里に書きました。ご存じの通り、わが国の大学を取り巻く環境は少子化を要因として今後15年で大きく変化していくと思われます。各大学を小さくする

のか、大学を統廃合していくのか、具体的な方向性はいち大学教員にはまだ見えていませんが、建設的かつ発展的であればよいと願うばかりです。

また、現在の国立大学は選択と集中を余儀なくされています。各大学の強みを活かすことは必要でしょうが、そうする中でも多様性を保っていく姿勢が重要と思います。今現在すぐれている部分を活かすために、ほかの部分の維持発展を阻害することは避けねばなりません。やる気や能力のある人が伸びていける仕組みが大切だと思います。

話が変な方向に入り込んでしまいました。流れを変えて、いくつか楽しかった思い出を振り返ります。工学部在職中は、信州ロボット研究会（ロボコンサークル）の世話を10年ほど務めました。優秀でやる気のある学生が集まる場所で、彼らの力によりNHK学生ロボコンへも何度も引率する機会をもらいました（ついでのよう恐縮ですが、若里会からは開発資金のご支援を賜りました。御礼申し上げます）。中には複数回の勝利を得た年もあり、試合終了時の会場の沸き上がりや学生が喜ぶ様子は忘れられません。また、研究室では国際ロボット競技会へも複数回参加してきました。ここでも学生のアイディアや努力に助けられ、受賞に至ったことが複数回あります。いずれのケースも私の役割はほとんど事務的なことに終始していましたが、彼らと一緒にそのような時を過ごせたことは大切な思い出です。

最後に私自身の心の変遷を。30代までは、強い研究チームを作り、よい研究開発成果を出すこと、副次効果として信州大学のアクティビティの高さをアピールすることに軸足を置いていました。ですが、40歳を過ぎたころから、チームの構成員に成長してもらうことも強く心掛けるようになりました。そして、博士号を取ってもらい、日本の科学技術を支えたり世界の維持発展に貢献してもらいたいとの思いが強くなりました。そのために選んだ現在のこの道が適切かまだわかりませんが、精進していきたいと考えています。地元である長野県への貢献も忘れませんので、引き続きよろしくお願ひ申し上げます。

◆ 追悼



故 土屋 良明 先生

土屋先生との思い出

土屋先生と初めてお会いしたのが、2000年春に信州大学に赴任する直前、多分2月の真冬だったかと思います。赴任のご挨拶と引越しの準備のための長野市来訪でしたが、夜に権堂の焼鳥屋でご一緒させていただき、そのあと先生が事前に予約してくださった「ホテルやま」に泊りました。先生から「ホテルやま」の名前の由来をうかがったのを、今でも鮮明に覚えています。先生と研究を一緒にさせていただいたのは先生が定年退職するまでの5年間でした。こちらの引越しの話をした時に、先生が「3回引越ししたことがある」とおっしゃって、住職をされていた龍澤寺が簡単に引越しもできないのではどちらが驚いていると、少し間をおいて「江戸時代に」と後を続けて、こちらの驚いているのを楽しんでいるご様子でした。ウイットに富んだ話だけでなく、いろいろ人生に関わるお話も多くいただき、駆け出しの私に「退職まであっという間だよ」と、ご自分の定年退職の時のお言葉は、忘れられません。今まで「だから頑張らなければいけないよ」という意味と思っていましたが、そのような忠告というより、人生に対するもっと深い達観が含まれているように今では感じられます。

先生は、昭和14年に長野県で生まれ、昭和38年3月京都大学工学部を卒業して昭和40年3月に京都大学研究科修士課程を修了、昭和40年4月に信州大学に助手として赴任し、信州大学講師、助教授を経て

機械システム工学科 教授 松原 雅春

昭和62年4月に信州大学教授に昇任され、平成17年3月に信州大学を定年にて退職されるまで、流体力学の実験、特に噴流について研究をされてきました。信州大学在職中は平成9年7月から平成11年6月まで工学部の評議員を務められ、平成17年4月に信州大学名誉教授になられています。長方形噴流に対する綿密な熱線計測結果をまとめた「On the spread of rectangular jets」(Experiments in Fluids, 4, 197-204, 1986) は183の引用があり、2015年からの近年の引用だけでも70の引用があります。発表から30年以上経ってからもまとまった引用があることは、この論文の真の評価かと思います。また、ダムに貯まる砂礫を除去する浚渫の技術として、サイフォンの原理と水撃を利用した方法もご提案しており、2002年に特許登録もされています。

先生が退職された時、実験室に多くの装置を残していました。そのうちの一つである二次元噴流装置は今でも現役で、その装置を使った実験で流体力学の一流誌での公表もできましたし、現在進めている研究の重要なヒントも得ています。「先生とお会いしなければ噴流の実験をしていなかったな」と回顧するたびに、先生がよく繰り返しあっしゃっていた「一期一会」という言葉が頭をよぎり、人生での出会いというチャンスの意義について感謝の気持ちとともに思いを巡らせております。





故 木村 盛茂 先生

木村盛茂先生のご逝去を悼む

信州大学工学部 特任教授 河邊 淳

信州大学工学部で長年教鞭を取られ、本学名誉教授であられた木村盛茂先生が令和7年4月11日、ご逝去されました。享年80歳でした。心よりお悔やみ申し上げます。

木村先生は、昭和21年1月1日に満州国で生を受け、昭和44年3月京都大学工学部数理工学科を卒業、昭和46年3月京都大学大学院工学研究科修士課程数理工学専攻を修了、同博士課程を経て、昭和48年8月京都大学工学部に助手として奉職後、昭和49年7月信州大学に講師として着任されました。その後、助教授を経て、平成6年4月に信州大学教授に就任され、平成23年3月に定年により退職されるまで、36年9ヶ月の長きにわたり、力学系の研究とその工学への応用ならびに学生の教育と指導に情熱を注がれ、平成23年4月に信州大学名誉教授の称号を授与されました。その間、昭和54年9月に学位論文「Studies on Quadratic First Integrals of Dynamical Systems (力学系の2次第1積分に関する研究)」により、京都大学から工学博士の学位を授与されました。

木村先生は、教育者として、工学部における数学基礎教育をほぼ網羅する数多くの授業を担当され、学部および大学院における数学の基礎教育に力を注がれました。また、大学院工学系研究科博士後期課程では、無限次元システム解析に関する授業を担当されました。一方、教職専門科目の「教科教育法数学」の授業担当を通じて、信州大学工学部から数学教員を社会に送り出すことにも寄与されました。木村先生の教育にかける熱意には並々ならぬものがあり、分かり難い個所の解説や、例題の補充、関連事項の補足のために多くのプリントを作成し、授業中に配布するなど、学生の習熟度を把握し、そのレベルにふさわしい教授法を工夫されていました。また、工学部では必須の学習項目である微分方程式の理論と解法を詳述した教科書「微分方程式概説」(共著)を著すなど、授業教材の充実にも寄与されました。木村先生の授業を受講した卒業生は、少し甲高い声で情熱をもって授業されていた先生を懐かしく思い出されるのではないかでしょうか。

木村先生は、力学系の研究とその工学への応用に長年取り組んでこられました。力学系とは、一定の規則に従って時間の経過とともに状態が変化するシステムを記述する数学的モデルのことです。その中でも、力学系の研究で重要な役割を果たす2次第1積分 (QI) を精力的に探究され、顕著な成果を挙げられました。また、力学系の理論の工学への応用にも力を注がれ、離散時間時不变線形動的システム (DILDS) の最適状態推定と最適制御や、代数リカッチ方程式の逐次解法である倍化アルゴリズムの収束性を精力的に研究され、連続時間代数リカッチ方程式の求解に応用されました。

木村先生は日本数学会などで正会員として活躍されるとともに、米国数学会が発行提供する世界の数学文献・数学論文をカバーするレビューデータベース Mathematical Reviews の執筆者としての活動にも長年寄与されました。また、高校大学数学教育研究会でたびたび講演し、高校での数学教育と大学教育・入試との連携や、信州大学工学部への入学後の学習状況などについて、継続的な意見交換を行なうなど主体的に活動されました。管理運営面でも、信州大学保健管理センター運営委員会委員、共通教育分科会委員(数学)、専門科目I分科会委員数学専門部会委員などを務められ、保健管理センターの運営や、教養部解体後の混沌とした状況下での工学部数学カリキュラムの整備に貢献されました。

このように、木村先生は信州大学の発展充実に尽力されるとともに、研究者として卓越した識見と情熱をもって力学系の研究とその工学への応用を精力的に推進し、教育者として多大な熱意をもって学生を教育されました。そのご功績は誠に顕著であったことから、それを称え、ご命日にさかのぼって死亡叙勲が授与されました。木村先生のご生前を飾るものとして、ご遺族やご友人たちの大きな慰めになっていることと存じます。

今でもいつも穏やかな笑みを浮かべた先生のお姿が思い出されます。木村先生、長い間、本当にありがとうございました。先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

◆◆支部会員特別寄稿◆◆

165万ボルト試験用変圧器を、世界にない構造で設計せよ

茨城支部 顧問 小林 英一 (電気S32)

1 学問への事始め

小林少年が10歳の昭和19年2月、大東亜戦争の戦火を避けて、東京から信州の田舎：旧地名の上水内郡三水村（信越線・牟礼駅から5キロ離れた寒村）に疎開し、食料を確保して生き抜く為にその地に住むことになった。

昭和24年、新制中学3年生迄は、農業で生きる覚悟をたてていたが、これからは『電気の道で生きてゆくべし』との先生の勧めもあって、長野工業高校・電気科に3年間学んで就職する覚悟で入学した。

(1) 【入学時の数学難問】

担任の先生は数学専門の新進気鋭の『T先生』で、入学早々目を白黒させる難問を出された。其れは、『底辺の長さがaなる三角形がある。両端の角度が α 、 β としたとき、その三角形の面積を求めよ』であった。

(2) 【小林少年の質問】

敗戦前後の混乱期を過ごした田舎の中学生には、三角関数も習っておらず分からぬ。小林少年は先生に対し『先生！高さも言わぬで三角形の面積は求められない。先生の問題が間違っている！』と先生に囁きついた。

(3) 【大学進学への方針転換】

今まで農業で生き延びようと覚悟していた少年が、長野工業高校に入学してから、急に数学の面白さに目ざめて急速に数学の勉強をし始め、高校2年生の夏に『大学進学への方針転換』を周囲に申し出た。

2 信州大学・工学部・電気科での修学

(1) 【生活命題としての学ぶこと】

敗戦後の混乱期を乗り切る手段としての中学→高校生活が基礎である故、疲れを感じることが在っても、『勉強が嫌！』と言う生活や学業の概念は生まれようがなかった。一方、昭和31年当時の信州大学は、新制大学切替え時から7年目で、歴史が浅い。日立製作所への就職試験資格が与えられておらず、学校側が動いたのであろう…昭和31年度から受験できるように許可され、小林青年が初めて就職試験を

受験できる運びになった。幸運の一語に尽きる。

(2) 【電気科教授の一丸となった指導】

日立製作所に入社できるためには、担任の教授ほか一丸となって動かされた記憶が残る。

① 電磁気学現象の物理的意義の指導

日立に入社すれば、帝大出の強者達に混じって技術を競うことになる。見掛け倒しの『丸暗記式の知識』を駆使しても太刀打ちできない…との配慮から、物理的意義の指導を戴いたことが、後々の行動の助けになった。例えば、『漏洩リアクタンス』で言えば、物理的な意義を解説戴いたのだ。自ら計算式を算出する技術に加えて二次関数の積分方程式を駆使できれば、難関課題にも応用できるのだ。

② 電磁気現象に関する実験データの検証

知識の詰込みではなく、電気機械の特性を繰り返し評価する訓練を通して、『机上計算のみで安心しない検証習性の訓練』が卒業論文で鍛えられた。

3 【165万ボルト試験用変圧器を、世界にない構造で設計せよ！】の命題

(1) 50万ボルト送電の国家的建設気運

昭和30年代初期から、日本国内で50万ボルト送電の気運が高まり、開発機器の試験設備として『165万ボルト試験用変圧器』の必要性が生じた。昭和32年4月に日立製作所に入社し、1年間基礎的業務経験を経て、上司から画期的な設計業務の指示を与えられることになった。

(2) 設計担当は小林君へ！の上層部の業務指示

10人近い経験在る気鋭の技術者が存在していた中で、経験の浅い小林青年に、超難問の課題が与えられた。普通の技術者であれば、怖さが先行して辞退する。だが、小林青年は【承知しました。やってみましょう…】と受諾したのだ。上層幹部は驚いたに違いない。

(3) 受諾できた理由の整理

特別に知名度のある学生でもなく、更に入社後1年程の経験では、技術レベルは浅い。恐らく、『信

州大学卒・学生の新技術突破力を確認してみよう…』で在ったのではないか…?と推察される。処が、
① 信州大学で『電磁気学・現象の物理的意義』の
科外教育を受け、計算力も若干自己訓練していた
こと。

- ② 高校時代に積分方程式活用の教育を受けたこと。
③ 『特殊巻線構造の漏洩リアクタンス』計算に長
けていて、構造の小型化に着想できたこと。
④ 寮生活で小林が電磁気計算を実施していたこと。
⑤ 製作現場での責任者の協力が多大であったこと。

等々が総合的に結合し、様々な困難な命題を解決しながら機能を満たす製品を期限までに完成させることができた。

(4) 完成後の成果

- ① 4年後に性能発揮して完成。上司と連名で電気学会に発表できた(図1)。
昭和37年度・日本電機工業会の技術賞を受賞。
メダルを戴くことになった。
② 50万ボルト送電機器の開発に試験設備で寄与。
③ 単一技術の成果のみでは事を為さず、【システム的に複合総合的技術が事を為す】事例だ。

4 【先達の言葉と行動は永く生きている】

(1) 価値ある事とは

昭和25年から昭和37年まで大凡12年間に起きた学業や製品開発の事柄を述べた。65歳迄勤めた企業生活で経験した様々な業務の中で『教訓的な言葉』或いは『励ましの言葉』を数多く戴いた。その中でも特に小林の肉体の一部に変換されていると感じている事柄を整理する。言葉は『精神:心の表現』であるが、学校の先生や教授の方々の言葉に行動が伴うことによって、受けた人の肉体の一部に転化され且つ骨格を為しているように理解している。

(2) 165万ボルト試験用変圧器開発の難問の克服

次に取り上げた4項目が技術的な解決策であったが、隠れた因子として、『機能・性能に影響する漏洩リアクタンス値を自由に計算可能にした電磁気現象の物理的意義の理解と計算技術力』に依ることが大であった。

- ① 日本の得意な製造技術である『碍子製造』に着
目したこと。高圧ブッシングの碍子、支持架台の
絶縁碍子、本体を収納する容器まで碍子製にする
…という三種類の異なる製品を一体化する着想を
『円筒形碍子容器』の形で実現したこと。直径

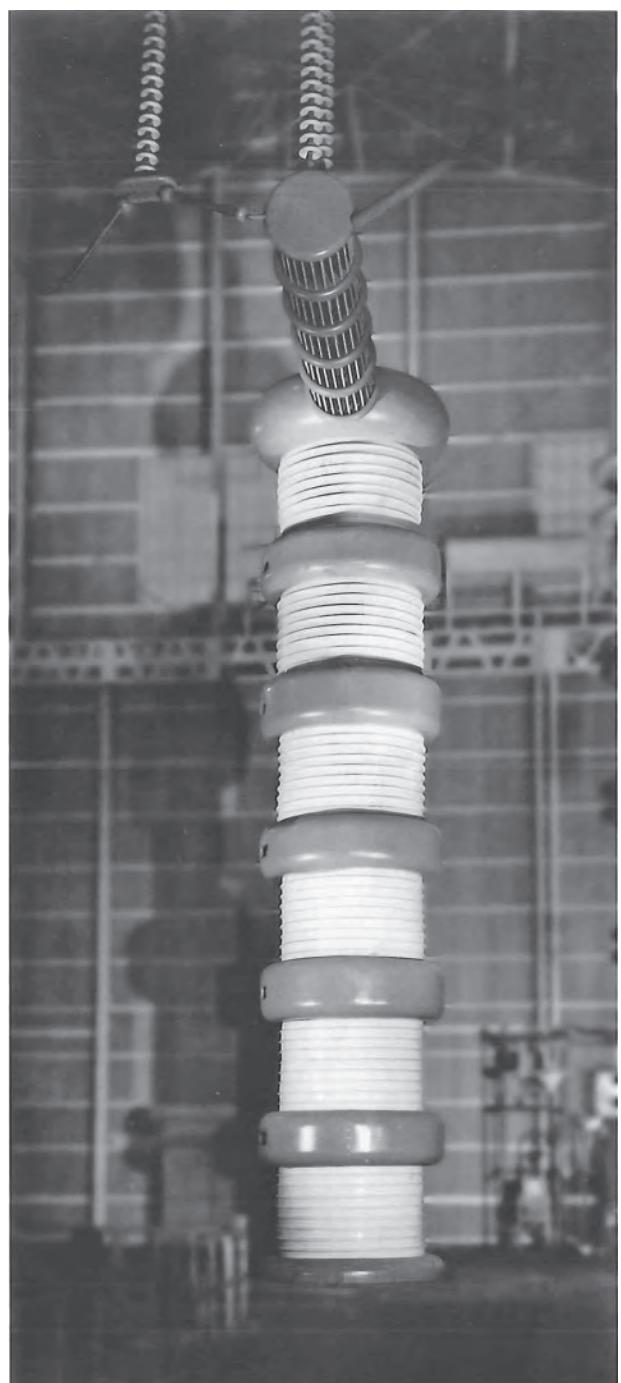


図1 昭和36年に完成した1650KV試験用変圧器の外観
世界初の構造を実現(高さ12.5m・床面積4.5×4.5m)
発生電圧で世界有数、種々新構造搭載

2mにおよぶ記録品を日立製作所・自社製で可能にしたこと。

- ② 鉄心の中央構造物に対して、周囲に六脚放射状ヨークを設置する『円形小スペース型鉄心』を工夫し、円形状碍管内収納に適した構造を案出したこと。
③ 高電圧巻き線の全体構造を2分割化して、鉄心に対する電位差を1/2にし、絶縁設計を容易にする構造を案出したこと。
④ 『円筒型碍子容器』内の鉄心の電位を55万ボル

トの1／2の電位を与える為に『絶縁用支持碍子』上に配置する構造を案出したこと。

(3) 業務遂行上特に難問解決に当たる為の着眼点

業務の種類を問わず求められる考え方の基本を整理したい。

① 全ての業務においても、行動に基本がある。

考えただけでは不足で、『考え方』が大切。解決策やヒントが見つかるまで、放り投げないことが肝要だ。必ず『あっ！』と膝を打つ発見のヒントが見い出せる。

考え方を『行動』に移す事が重要。『言葉』は大切であるが、言葉の実行動への変換がどのような場合でも大切だ。思い付きの単発ではなく『継続』することだ。継続には身体的な健康保持力も関係して総じて個人個人の『自己管理力』に直結している故だ。計算結果だけで安心せず、『検証』することを見落とさない事だ。計算結果が全て実測値に一致するとは限らない。何れに誤謬があるのかを確認することが、技術者には必須要素だ。

技術者はこの段階を踏むと勇気に繋がる『確信』を必ず得る事ができる。勇気と言う概念は、手に取ることはできないが、『考え方』→『継続』→『検証』→『確信』の手順を踏むことによって、到達できる。

② 大きなプロジェクト業務の場合

『機械品』『電気品』『制御装置』『建設工事』『ケーブル布設』等々複雑多岐な業務の集合体に関わることが生じる。専門の技術知識上の『智慧』以外に『人其のものの活動突破力』が求められる。経験を経て技術力が付く毎に【得意な専門技術力】【他に自分を置き換える対応力】【危機察知力】等々が複合的に関連して求められる。

③ 人の命に直接関係する業務の場合

企業内活動では、製品の設計活動で『製品の表面的機能達成』ばかりでないことを経験できた。例えば『交通・車両用機械品電気品』や『原子力発電所用製品』に関わる場合、機種そのものの信頼性ばかりでなく、運転する制御システムの信頼性の比重が大きく関わってくる。

(4) 技術変革と流転

小林の得た教育の根幹は昭和20年代後半から30年代の技術立ち上げ時代であった。現在はそれから60年以上経過して、技術内容やその水準も様代わりしている。社会の要求事項も変遷することは致し方無い。技術者の根幹を成す『物理的意義に即した基礎の考え方や応用技術』は確と存在する。基礎技術を生かし今後起こり得る技術革新に勇気を持って立ち向かう学生諸君のご発展と活躍を期待している。



同窓会常任理事 若林信一氏（合成 S48）が、2025年5月23日に（一社）エレクトロニクス実装学会より学会賞を受賞されましたので、ご報告いたします。

エレクトロニクス実装学会は、我が国のエレクトロニクス産業のコア技術である実装技術に関する学会であり、日本学術会議登録学術団体です。産学の第一線で活躍する研究者・技術者約2,400名が参加しており、この分野の研究開発や技術者の育成に大きく貢献しています。

同学会の「学会賞」は、エレクトロニクス実装分野における学術的・技術的な進歩に顕著な貢献をした正会員1名に贈られるもので、2025年は若林氏が『副会長（2010年6月～2012年6月）として学会の発展・活性化および運営に尽力された功績』により受賞されました。さらに若林氏は、1975年に新光電気工業㈱に入社以来、半導体パッケージや実装技術開発とともに半導体パッケージ用の金めっき・銀めっき技術の研究開発にも従事され、半導体実装に不可欠なめっき膜の機能性向上およびその生産性改善にも取り組まれました。これらの功績も高く評価されています。そのほか、IMAPS : Fellow of the Society Award、SEMI Technology Symposium Award、MES 2005 ベストペーパー賞、IEEE CHMT : Outstanding Paper Award、中国電子学会突出貢献賞、長野県知事賞、表面技術協会賞、エレクトロニクス実装学会創立20周年記念功労賞など、多数の賞を受賞されています。

また、1993年には信州大学工学部において、第1号となる工学博士号（分析化学・電気化学・材料科学専攻）を取得されました。

以下に、若林氏から同窓会会員への受賞メッセージをご紹介いたします。

（記 編集委員長 榊）



若林 信一
(合成 S48・修 S50・博 H5)

すでに、同学会から功労賞をいただいていたこともあり、まったく予想していない受賞でした。退職し、第一線から離れてかなり時間もたっていますので、懐かしい皆さんから、おおい、元気か？と声をかけていただいた気分です。

私は大学を卒業して会社に入るにあたって、勝手にいくつかのことを思っていた。

○会社の中だけの世界がすべて、はやめよう

○会社に雇われるのではなく、会社の目指すもの、こと、に賛同して参加するつもりでやろう

○テーマは自分が面白いもので、会社にとって必要なもの、をやろう

○その時々の自分がしていることを論文や特許など客観的な証拠で残そう

○30過ぎたら、インプットに対するアウトプットの比率を徐々に高めよう

○会社以外での活動場所を持つなどである。実際かなりの程度にこれらを実践してきた。

会社では、リードフレームやセラミックパッケージ、プリント基板技術を使った高機能パッケージの開発や材

料、プロセス開発に従事した。特に金、銀の高速めっき技術やフォトリソグラフィー技術を使った微細配線形成、銅めっきビアフィル技術の開発では技術確立に寄与できたものと考えている。私の入社した新光電気工業の光延社長は、会社の発展は新しい技術開発にかかっているとおっしゃっていた。新しい技術を開発し、その先端技術を組み込んだ製品を作り、営業がそれをお客さんに使っていただく努力をしていれば、必ず会社は発展する。そういう意味を込めて技術開発による「限りなき発展」を私たちに説いていた。私はそれを忠実に実行してきたつもりである。

それが半導体技術や半導体産業の発展にいくらかは寄与することになった。それを今回学会賞の形で皆さんに評価していただいた。過分なことと言わなければならない。関係の皆様に感謝するとともに、同窓の皆さんに受賞の報告ができるることは大きな喜びである。皆さま、本当にありがとうございました。



エレクトロニクス実装学会賞 2025年5月23日 於 常盤橋タワー（古河電工 本社）
(写真左から) 若林 信一 氏、会長 藤崎 晃 氏

3人だけの 今年の集い

岸田 安穂 (通信 S30・修 S36)

本誌72号・73号と、連続して昭和30年卒の電気・通信同期会について、経緯や会合の実施状況などを紹介させていただきましたが、今年も何とか6月25日（水）～26日（木）に開催出来ました。

開催場所は年老いた参加者に判り易いようにと、このところ昨年・一昨年と、2回利用した湯河原温泉の『万葉荘』にしました。参加者は、昨年参加の5名のうちの3名になりましたが、傳田さん・下里さんともにお元気で、遠路長野と佐久から去年と同じ時刻の新幹線と東海道線を乗り継いでの参加でした。

少人数の会合にはなってしましたが、級友は懐かしく、楽しかった時代の話題は尽きず、一緒に過ごす時間の言うに言われぬ楽しみは、同級生ならでは味わえぬものがありますね。

そこで気になるのは、戦後80年経過の今日、何とか続けてきた国際間の平衡状態が崩れかけて来たこと、国際連合が機能しにくくなってしまっていることですね。

さて、それぞれが卒寿を過ぎて2～3年、戦時下であった昭和、米国の占領下で過ごした昭和、社会人としてそれぞれの分野で精一杯仕事に励んだ昭和の後半、定年・還暦を迎えた平成、その後友人が黄泉の国へと旅たち始めた令和と、それぞれの時代を顧みるとき、電子機器などの技術の進歩のスピードには目を見張るものがあり、われわれの活躍した時代の新技術は今やもう骨董品と化し、現代のスマートフォンのアプリの多さとAIなどなど、それらの個別条件への対応は、われわれ卒寿を過ぎた高齢者では出来なくなっているのが実情ですね。

この技術の進歩で得られた生活の便利さや快適化に比べ、人類のモラルの低下が心配の種です。

それは、

まず、80年近く続いた平和ボケ、戦争が起きてても止められないこと。

つぎは、地球温暖化に対する対策が全然進んでいないこと。

これらは、人類が総力をあげて取り組まなくてはならない問題でしょう。

また、大国の指導者達が自国の利益のみの追求に専念し、世界の人類のためになる施策や事業をしようとしたこと。

などが大きな問題点ですね。

これから10年20年いや100年先の世界を、そしてわが国をどのような姿にしたいのかは、これから日本を背負ってゆく世代の人々と、日本の国会議員諸氏に真剣に考えて活発に議論し、方向づけをして貰いたいです。

ところで、今回の寄稿に当たって、久しぶりに連絡のついた方、時々電話で話をしている方は、下記で、私を含め10月現在13名が元気で暮らしておることの確認が出来ました。

皆さん、耳が遠くなったり、目が見え難くなったり、足腰が不自由になったりで、各人それぞれ年齢相応の体調不良個所をお持ちの様子ですが、今のところまだまだお元気の様子を伺いました。わたしも心臓と腎臓の不調を抱えており、また外出の時は、杖が離せなくなりました。

久しぶりに連絡がついて話の出来た方（以下敬称略）北沢徳夫、小池亮一、森 義彰。直接できなかつたがお元気な様子が確認できた方、松沢良朋、高橋正人。時々電話で話をしている方、小池 坦、小林 武、田島悦良、一之瀬恒雄、下里勝啓、鈴木一彦、傳田幸男の方々です。

また、電話した方々には、いろいろと定年退職後のご活躍について伺ったのですが、紙面の制約もあり、紹介させて頂けなくなったことを最後にお詫びして、筆を擱きます。



R7.6.26 湯河原駅前

昭和36年電気科卒業生10回目の同級会報告

幹事 北村 暢朗・丸山 征一 (電気S36)

コロナの影響で休止していた、昭和36年電気科卒業生の、5年振りの同級会を令和6年11月1日～2日に8名（青沼昭伸、伊藤實、加藤忠、北村暢朗、久保田克城、鴇沢一男、丸山征一、水野明治）が参加して開催した。今回の開催目的は母校の進展振りの確認と松代温泉での懇親であった。

11月1日14時に同窓会事務局に集合し、まず、最初に電気電子工学科の曾根原准教授の案内で工学部構内を徒歩で研究棟、学生講義棟を見学した。

所狭しと、並ぶ高層ビル群は63年前に、我々が学んだ木造平屋建の校舎とは大きな違いを感じた。また、曾根原先生より、自分の専門の薄膜デバイスの開発の紹介を頂いた。

次に15時から1時間、天野良彦前工学部長の講話を拝聴した。前半は遠藤守信、特別栄誉教授の開発されたナノカーボンRO膜の高い革新性について技術的解説を頂いた。この優れた技術は米国化学学会誌にも掲載され、海水淡水化装置に於いて低压操作が可能でコストが安く、性能も高く、サウジアラビア、中国、アフリカ等で実用化が進んでいる事が紹介された。

後半は令和8年より発足する斬新な工学部組織改革について紹介された。従来の機械システム工学科等5学科から1学科（先端融合コース）+10コースに、改組され、未来に向けての工学界の進展に沿った改組であり、今後の発展が期待される。

次に16時25分より「ようこそ先輩2024」の講演を拝聴した。演題は「環境を軸につながる仕事」と題し、(株)NTTアーバンソリューションズ総合研究所の上田里絵氏（博士）が40分間講演した。彼女は社会開発工学科（建築工学科の一部）出身で51歳の予持ち研究技術者であり、入社から現在までの主婦と研究技術者としての二刀流を自分のモチベーションで評価し、グラフ化表示して見せた。また、都会空間に存在する建築物の屋上や近隣敷地に水や植物を配置し、その蓄熱効果による低温化を図る事を実

現化した事を発表した。

上田里絵氏の講演後、15時30分に宿の送迎バスで松代温泉の松代荘へ向かった。

新築したばかりの平家建ての松代荘で黃金色の湯に癒され、疲れも取れ、楽しい懇親会は19時から開始した。元麒麟麦酒社員の鴇沢一男氏の愛飲している瓶詰め一番搾りで乾杯し、懇親会は始まった。学生時代の思い出や身近な話で盛り上がり、話は尽きず、最後は参加者全員の今後の幸せを祈り万歳三唱で宴会は終了した。

11月2日は激しい雨降りの為、松代城の見学を中止し、10時に松代荘の送迎バスで長野駅に向かい、次回の同級会での再会を約束し別れた。

尚、清水保雄同窓会長及び同窓会事務局の宮坂さんに大変お世話になりました。厚くお礼申し上げます。

(丸山 征一 記)



第10回S36年電気科同級会参加者写真

(令和6年11月1日～2日)

(後列 北村、水野、鴇沢、青沼)

(前列 丸山、伊藤、久保田、加藤)

精密工学科12期(S52年卒)古希同窓会

精密工学科第12期 同窓生一同 (精密S52)

同窓生が古希を迎えるにあたり、卒業以来47年ぶりの同窓会を開催しました。工学部13時集合で、ほとんどがメニューの豊富さに感心しながら学食で昼食をとり、その後、工学基礎部門 松岡准教授にキャンパスのご案内をして頂きました。

まず国際科学イノベーションセンターの屋上から市内を眺め、ホクト文化会館も無かった当時からの長野市の変遷に驚き、その後、研究室や最先端の分析装置を見学させていただきました。続いて図書館、旧精密工学科（現物質工学科）研究室棟など見学して、最後に売店に立ち寄りジャムや信大ロゴ入りマグカップなどのお土産を買って、宿泊先の「うるおい館」に向かいました。

宿では温泉につかりビールを部屋飲みしてから宴会開始となりました。宴会では、各自の近況報告や、この同窓会の言い出しちゃべがコロナの後遺症で参加

できなくなったことからLINE動画で繋がって話をしたりして、あっという間の2時間が経過しました。

最初は緊張気味の面々でしたが、幹事部屋に集まりあの頃、あの時の話題で盛り上がり、幹事部屋では笑い声が絶えませんでした。

翌日の朝食をもって同窓会はお開きとし、善光寺参りや親睦ゴルフへと散開しました。

今回の同窓会開催にあたり、ご案内くださった松岡先生、同窓会事務局の宮坂様には大変お世話になりました。

本当にありがとうございました。

最後に、コロナ後遺症で療養中だった桂光孝君が今春他界されました。

心よりご冥福をお祈り致します。



精密工学科13期(1978年卒)同期会を開催しました

直井 泰男 (精密 S53)

[同期会の開催日] 2024年9月30日

[場所] 奈良市 旅館「飛鳥荘」

[参加人数] 17名

同窓会事務局の皆様にはいつもお世話になり、本当にありがとうございます。また今回の同期会開催にあたり、ご支援を頂いたことを感謝いたします。

我々は1978年（昭和53年）に卒業した、精密工学科13期生です。同期生は全39名で、現在、連絡先が判っているのは29名です。今から47年前の卒業の年にあった主な出来事としては、キャンディーズの解散、成田空港の開港、映画「スター・ウォーズ」第一作の公開などがあります。当時は景気があまり良くなく、就職状況も厳しかったことを覚えています。

若い間は仕事等で忙しく集まる機会も無かったのですが、年齢とともに時間に余裕が出てきたことも

あり、今は隔年で同期会を開催しています。最初は長野県在住の有志が呼びかけてくれて県内で開催していましたが、前回は東海地方に移り、今回は関西での開催となりました。ご存じのように、信大には東海地方や関西から多くの学生が集まっており、今回は幹事の一人が在住する奈良市で開催しました。

奈良は修学旅行以来で数十年ぶりというメンバーもいて、近隣の法隆寺、薬師寺、唐招提寺等を訪れたり、関西の友人と会うなど、それぞれプランを立てて訪れた人たちもいました。

会場の旅館に集合し、夕食前にマイナス一次会で盛り上がり夕食を挟んで二次会と、あちこちでグループができ、しばらくぶりの積もる話に花を咲かせました。大いに歓談したあと、最後は皆で春寂寥を歌って締めとしました。



学生出身地の変化

	1978年卒	2023年入学		2024年入学	
		精密工学科	機械システム	工学部全体	機械システム
長野県	33.3%	15.7%	19.4%	18.8%	18.7%
東海3県	23.1%	8.8%	14.5%	11.9%	13.6%
近畿6府県	20.5%	16.7%	9.7%	9.9%	11.4%
関東7都県	5.1%	24.5%	21.4%	30.7%	25.2%
その他	18.0%	34.3%	35.0%	28.7%	31.1%
合計人数	39名	102名	496名	101名	492名

二日目は希望者で東大寺を訪れましたが、大仏殿の大きさを改めて実感した人もいたようです。二月堂まで坂道や階段を上りましたが、まだまだみんな元気な様子でした。そのあと昼食を食べて解散となり、思い思いに帰路につきました。

先に皆で春寂寥を歌ったと書きました。学生時代はコンパのたびに歌った春寂寥ですが、同期会を始めたころはほとんどのメンバーが忘っていました。

この会報を御覧の皆さん、春寂寥を覚えているでしょうか。幹事の一人が寮歌好きで、毎年、松高・信大寮歌祭に参加していることもあります。歌詞を配付して春寂寥の再興に努めている次第です。

信大の学生出身地についても少し触れたいと思います。参考までに、我々同期生および2023、2024年入学生の出身地方別の人数比率を、表にしてみまし

た。1978年当時は三分の一が長野県の出身者で、東海、近畿を合わせると全体の四分の三を占めていました。一方、現在は上記3地方の出身者比率が低下し、関東地方およびその他の出身者が多くなっています。以前より信大には多地域の学生が集まる傾向がありました。現在はより広範囲から来ていることを、改めて実感しました。最近は地元の学校に進学する人が増えている中、全国から学生を集めているのは素晴らしいことだと思います。

来年は関東地方の同期生が幹事を担当してくれるので、再会を楽しみにしています。

連絡が取れていない同期生で、この会報をご覧の方はぜひご連絡ください。同窓会事務局に連絡をいただければ、取り次いでもらえるようにしています。

ぜひお会いしましょう。



信州大学工学部機械科昭和52年入学_同級会 開催記

多田 耕三 (機械 S56)

この号がでる頃は、すっかり寒くなっているわけですが、まだまだ暑かった初秋に公営国民宿舎「松代荘」（長野県松代町東条3541）にて、信州大学工学部昭和56年卒（52年入学）同期生による同級会を開催しましたので報告いたします。

前回が2022年でしたので、今回はおよそ3年ぶりの開催です。最初に名簿整備を兼ねてみんなの意向を確認すべく、行き先や時期、予算などのアンケートを実施し、集計結果が「秋・温泉・2万円前後・観光もできる」ということで、評判よく宿泊費も手頃な松代荘に決め、2025年9月6日（土）で予約をいれました。

同級会一日目（9月6日）



なったりしてはいましたが）な参加者が、笑顔で再会を喜んでいました。余談：一人の遅刻者もなく会費もおつりなくぴったりで、もちろん当日ドタキャンなく受け付けが完了したことについてちょっと驚き、ああそうか、オレたちは昭和世代だったのだと実感したのは若い人には内緒の話。



同期会は午後6時からですので、それまで温泉や部屋での会話で過ごします。松代温泉は鉄成分が含まれる泉質で、酸化した鉄分で湯が黄色く染まり、黄金の湯と呼ばれており、当日は台風が通りすぎたあとで風が涼しく、爽快な露天風呂を楽しめました。幹事部屋には参加者がちらほらやってきて、昔話に花が咲き、あっという間に会食の時間となりました。

今回恩師がご欠席でしたので、幹事が挨拶と乾杯の音頭をとり、その後しばらく料理とビール、日本酒で会が進行し、頃合いをみて参加者の近況報告を始めました。現役で企業を経営している同級生もいれば、フルマラソンを3時間そこで完走する超人や、生還率3割の重病を克服して生還した人、孫が三人のおじいちゃんになったとか、妻と二人でぼちぼちやっていますみたいな話が、引け目も気負いもなく話せる雰囲気は同級会ならではとしみじみ感じていました。



業界秘話（笑）が披露された近況報告では、みんな一様に表情を引き締めて話を聞く姿に、やっぱりオレたちは根っからの技術者なのだと再認識し、また、信大の経営に関わる仕事をしている同級生から「信大のユニークさはそこら辺の大学の比ではないぞ。」との力強い発言にはみんな頷き、納得していました。



健康面ではそれなりに病気や不調を抱えている我々ですが、実は同級会の開催時点で、ただの一人も欠けていません。東京在住の同級生から「僕の会社同期なんかは、もう一割は死んでしまっている。」という話を聞けば、なるほど無事之名馬を地でいくクラスだったのだと改めて思いました。



1次会の時間はあっという間に過ぎて、少しの休憩を挟んで二次会に突入です。幹事部屋に全員集合し、昔話と今話で盛り上りました。



8時半に始まった二次会は、下宿部屋でぎゅうぎゅうに詰まって馬鹿話で笑い転げた学生の頃に戻ったかのようでした。勢いはそのまま日付が変わるまで続き、ほっとくと朝までいきそうな雰囲気でしたので、翌日を心配した幹事が締めに進めます。次回同級会の時期と幹事決めの話題に振り「教養を過ごした松本もいいよねえ」と誘導して、半ば強引に指名する形で幹事二名えらびました。二年後の開催を確認して二次会は散会となりました。



同級会二日目（9月7日）

翌日は松代史跡観光です。都合が合わない先発組を見送り、観光組は車で松代荘を出発して、真田邸と文武学校に向かいました。優れた戦略と先見で戦国から維新まで生き延びた真田家の歴史を感じることができ、また歴史に詳しい同級生からの解説もあり、有意義な時間を過ごせました。その後、竹風堂で早めの昼食をとり、松代城趾を見学して同級会の全日程は終了となりました。

二日間良い天気に恵まれ、体調不良もなく無事に会を終えることができたことに感謝し、名残を惜しみながら二年後の再会を誓って解散しました。あー、楽しかった。



2025年9月10日 幹事記

信州の雪と山を愛する仲間たち

遠藤 智久 (機械 S57・修 S59)

卒業して40年を超え、今なお毎年集まりを続ける60代の仲間たちの報告です。

私たちが入学したのは1978年、この年は国立大学の受験制度が変わる直前で、私たちは受験勉強から解き放たれ運命に導かれて信州に集まつたのでした。入学後、映画のスター・ウォーズが日本公開になり、ニューミュージックという新ジャンルの音楽がCMで飛び交っていました。世の中が好景気に向かう中で、スキー、テニスなど、多感だった私たちはよく学びよく遊び、やがて4年後には自動車、電機を始め様々な分野へ巣立ちました。



卒業後は、およそ10年毎に同窓会を開催し毎回多数が集まりました。8年ほど前に第4回目を晩秋の塩尻で開催したときに、「登山でもしようか」と美ヶ原へ登山し、寒い山頂で料理を楽しみました。夜の宴席では「学生時代の様に今度はスキーも行こうか」と県外組と県内組のスキー好きが意気投合して、そこから野沢温泉でのスキー合宿が定例化しました。そして今年は全員が65歳に達したのを機に、ラインで連絡が取れる者の中でプチ同窓会の案が出ました。永田君が会社OBとして素晴らしい山荘を手配してくれ、9月の蓼科で登山、星空観察、ゴルフも織り交ぜて11名参加で開催しました（16名予定でしたが5名が都合や急用で来れず）。



当日、登山組は9時集合で北八ヶ岳の縞枯山と坪庭を軽く周遊。大のアルプス好きや百名山経験者もいますが曇りのため軽めで下山。いつもどおり屋外でホルモンと焼肉を料理して、昼食後は早めに山荘に到着。さっそく温泉入浴と部屋呑みしている間に続々と参加者が集結し、思い出話や最近のアクシデントなどで盛り上りました。夕食が豪華とのことで、ツマミをセーブしつつも楽しい語らいでした。

夕食は前評判どおりの和風コース料理を堪能し満腹、でも部屋呑みに戻らないのがこのメンバーです。外へ出て星空観察。ここに高価なデジタル望遠鏡がすでに準備されており、まるで天文写真の様な美しい星雲群の観察に一同感嘆。「星のソムリエ®永田君 恐るべし！」の星空メニューでこちらも満腹。さらに深夜2時に再び起きて皆既月食を肌寒い屋外で1時間以上も楽しみ、まるで若者の様に興じました。プチ同窓会のはずが立派なメニューのグラン同窓会でした。



さて、「なぜこんなに集えるのか」、家族や周囲の人に話すと珍しいと言われます。エンジニアとして会社生活も様々で、海外赴任や出向、会社の構造改革、病気を経験した者、今も勤務している者、ゆっ

くりしている者など、当然いろいろありました。ただ変わらないのは、今なお信州の雪と山への愛着があり、信州で過ごした若者の思いが続いているからでしょう。県外組にとっては懐かしい場であり、県内組としては誇れるホームグラウンドです。ですから、回を追うごとにいろいろな提案や協力、もてなししが生まれより良いものになってきている感があります。今回もさっそく次の野沢温泉スキー合宿の日程を決めて、蓼科の集いは幕を閉じたのでした。

最後に、今回私たちの報告をさせていただきましたが、同窓生の皆様も久々にお互い声をかけあって、何か催しを企画してみて下さい。きっと話の尽きない集まりになると思います。同窓会でもサポートいただけると思いますので、事務局の方に連絡してみればと思います。今回も直前の寄稿にも関わらずサポートいただきました。たいへんありがとうございました。



合成化学科昭和59年卒(1984年卒) 同窓会

前田 宗徳 (合成S59)

昭和59年3月（1984年3月）に合成化学科を卒業しました前田宗徳と申します。

ご縁がありまして、昭和数えで100年の本年に、昭和59年（1984年）合成化学科卒の同窓会を企画させていただきました事になりました。実に半世紀近く41年ぶりの皆が集う会になりました。会場は、ご当地長野市のホテルJAL City長野にて8月23日（土）2F志賀の間に開催しました。

合成化学科？と思われる卒生の皆様も多いかと思います。

歴史を紐解きますと合成化学科は、昭和43年（1968年）に設置され、平成元年（1989年）の工学部改組に伴い物質工学科に、更に平成28年（2016年）に物質化学科として進化しております。そして来年2026年4月～令和の大改編で新たに船出するようですね。応用化学コース・環境エネルギー材料コースでしたか。明るい未来に向け益々進化しますね。素晴らしい。頼もしいです。

さて当時の合成化学科卒業同窓生の皆様は32名でした。うち残念ながら亡くなられた同窓生は3名いました。総勢29名中、今回参加者は23名と、参加率の極めて高い同窓会になりました。信大愛の強さにあらためて感慨深い思いでした。会場内は全国から長野に集った同窓生で熱気ムンムンでした。

当時の研究室としては、旧合成化学科棟の1F有機化学研究室・2F無機化学研究室・3F工業触媒研究室・4F機器分析研究室とありました。

恩師（当時の肩書）は、有機化学研究室は、小山教授・竹内助教授・三谷講師・土田さん、無機化学研究室は、田草川教授・北島助教授・山上助手・上原助手、工業触媒研究室は、松崎教授・中嶋助教授・三島助手・北田さん、機器分析研究室は、根津教授・金子助教授・篠原講師・小山助手、の先生方で錚々たる布陣でした。

学問をするうえでこの上ない環境の下、勉学に勤しみ充実した時間をすごさせていただきました。

会は冒頭故人に対しご冥福を祈る『黙祷』からスタートしました。『乾杯』の音頭があり、歓談へと進行しました。40数年前の懐かしい話で大

いに盛り上りました。

当時の長野駅は善光寺を模した駅で、非常に風情があった事、松本教養時代の新入生歓迎コンパでのハチャメチャな様子。（現在では考えられませんが、非常に活力、熱気がある様子でした。）こまくさ寮の様子。試験勉強の為に、アップルグリムで夜中まで真剣に勉強した事。研究室の実験で長時間に亘る化学変化観察での徹夜が長く続いた事等々、青春の1頁の皆の記憶が鮮やかに蘇っていました。

歓談の後は、皆さんお一人お一人の『スピーチタイム』の時間です。皆さんそれぞれ卒業から半世紀近く経過していますので、山あり谷ありの人生を歩んできています。信大の思い出話・現在の仕事の事・家族の事・健康の事等々です。

ここで記念写真をご覧ください。年齢でいいますと63歳～66歳で集った同窓ですが、若いと思いませんか？私は確信しています。まだまだ活躍できる年齢だと…

そして最後は『中締めの挨拶』で数年後の再会を約束し終了しました。

半世紀近い41年ぶりの同窓会でしたが、皆さんそれぞれの分野でそれぞれ活躍されておられました。信州大学工学部合成化学科で培った人間力と学問の探求心は、今後ますます社会に貢献されるであろうと確信した有意義な楽しい同窓会でした。

最後になりますが、ご協力いただきました信州大学工学部同窓会事務局の宮坂様ありがとうございました。御礼申し上げます。

尚、会運営にて、一部会費余剰金が発生しましたので、同窓会一同名で、日本赤十字社に全額寄付させていただきましたことを最後にご報告致します。



機械工学科1982年(昭和57年)入学 同級会報告

榎 和彦 (機械 S61・修 S63)

1982年(昭和57年)に機械工学科へ入学した同級会を、工学部の学園祭「光芒祭」に合わせて、2024年10月12日(土)に開催しました。工学部内の見学と懇親会を行い、盛会となりました。

卒業後しばらくして諒訪で一度集まって以来の開催となります。母校に勤務している私が、いつかは企画せねばと思い続けておりましたが、コロナ禍の収束と還暦を迎えたことを機に、ようやく実現しました。連絡網はLINEを活用し、数名の協力を得てつながりを広げることができました。卒業生45名(写真1)と翌年以降の卒業生も含め約55名のうち、現在のLINE登録者は27名です。往復はがきでやり取りしていた時代から比べると、便利な世の中になりましたと実感します。

当時の機械工学科(定員50名)は、現在の100名規模に比べ小人数でした。その分クラスの結束は固く、ソフトボール大会やスキー旅行、光芒祭でのディスコ出店など、顔と名前が一致する濃い人間関係を築いていました。

当日は、まず旧機械工学科棟(現:機械システム

工学科北棟)の私の研究室に13名が集まり、工学部や学科の近況を紹介した後、キャンパスを案内しました。久々の再会でも互いの面影はすぐにわかり、和やかな雰囲気となりました。記念撮影は、38年前の卒業・修了記念と同じ機械棟前で行いました(写真2)。学内の建物の変遷や、当時の機械加工実習で使った旋盤、今も新たに導入されている工作機械などを見学し、懐かしさと新鮮さが入り混じった時間でした。

その後、長野駅前の居酒屋に会場を移して懇親会を開催し、思い出話や近況報告に花を咲かせました。二次会にも全員が参加し、交流を深めた後、散会となりました。定年後も新たな職場で活躍する仲間が多い一方、体調を理由にリタイアされた方もおり、還暦を過ぎて「若くない」ことを改めて実感した次第です。

次回は、2025年11月3日(月・祝)の銀嶺祭(松本)に合わせて再会する予定で、さらに多くの仲間が集まることを楽しみに、準備を進めています。



写真1 昭和60年度機械工学科 卒業・修了記念
(1986年3月16日 機械工学科棟前で撮影、
卒業生45名、修士8名、手前などに教職員17名)



写真2 機械システム工学科北棟前での記念撮影
(写真1と同じ建物ですが、2000年前後と機械棟の改修工事(総合研究棟(W2棟)の新築も同時に)で玄関の位置が西側より中央に変更)

◆◆ 支部だより ◆◆

長野県内 [長野・北信濃・東信・中信・南信]
長野県外 [関東・茨城・中京(発足準備中)・関西(2025年12月発足)]

—————

長野支部

2025年度に実施した事業内容を報告いたします。

1. 幹事会、総会等の開催

(1) 幹事会

日時：2025/7/17 (木) 18:30より

会場：宴席油や

(長野駅善光寺口 ウエストプラザ長野 9階)

長野支部役員にお集まりいただき、2025年度講演会・総会・懇親会の開催について実施計画を検討しました。総会に諮る提案事項（議案）については、主に、以下の内容を検討いただきました。

① 会則の変更について

- ・副支部長の定員について、現状に見合った員数の変更表記のこと
- ・支部設立当時の暫定的運用方法の記載を削除すること

② 会員への諸通知方法について、郵便はがきを利用しないこと

更に、今後の事業活動等に関して検討いただきました。会議後の食事会では、他支部の実施企画の紹介等々、様々な情報交換ができました。

(2) 2025年度基調講演会・総会・懇親会

期日：2025/9/6 (土) 14:00より

会場：JA長野県ビル12・13階

(長野市北石堂町1177番地)

① 基調講演会 [12I会議室 (12階)]

講師 村松 寛之 氏

信州大学工学部

水環境・土木工学科 准教授

演題 「二重カーボンナノチューブの研究と展望」

② 総会 [12I会議室 (12階)]

総会の議事に先だって、清水同窓会長にご挨拶をいただきました。議事では各議案について熱心に審議いただき、特に、今年度予算案（第3号議案）および会則変更（第4号議案）では、提案内容に修正を加えて可決いただきました。

<議案に対する修正可決内容>

第3号議案 2025年度支出予算のうち、交通費額 0円を10,000円とする。

第4号議案 副支部長2ないし3名を3名以内と

する。

③ 懇親会 [しなの木 レストラン「トレド」(13階)]
昨年度と同じ会場で開催しました。

また、昨年に引き続いて同窓会本部の「暑気払い」を兼ねて、本部役員にご参加いただきました。元工学部長の大石修治先生にもご出席いただき、ご在任当時のエピソードを興味深くお話しいただきました。

遠方より支部の枠を超えて、北川順一さん (H19物質・京都市に勤務) がご参加くださいました。実は、昨年参加を予定されたのですが、台風10号の最接近で新幹線が計画運休したため出席を断念、今回、念願がかなったのです。実務上の様々な情報共有をしたいと参加くださったこと、本当にうれしく思いました。

出席者各位から近況を報告いただき、それぞれの貴重な体験談や健康に関するお話から、ご拝顔して歓談することの大切さを再認識しました。次回の再会を約してこの会を閉じました。

2. これからの課題

総会等のご案内に、会員からご出欠のご返事を頂戴した中に、「高齢のため参加できない」、また、ご家族から「(会員が)亡くなった」等、昨年と同様な現況報告をいただきました。今後のため、会員各位の掌握、有効な連絡手段としての名簿整備がますます重要になっています。今年度の総会において、各種ご通知を主にE-mailを用いることが決議されたこともあり、E-mail Addressの収集に注力した



懇親会にて集合写真 出席者一覧 (敬称略)

<後列左から>

寺澤 昭彦 [S62精密] 天野 良彦 [S57工化]
轟 一郎 [S47通信] 大石 修治 [元 工学部長]
若林 信一 [S48合成] 富田五一郎 [S47精密]
窪田 悟 [H1電子]

<前列左から>

白川 達男 [S41通信] 松本 進 [S47工化]
清水 保雄 [S45機械] 村松 寛之 [H16電電]
北川 順一 [H19物質] 伊東 一典 [S46通信]

いと思います。新規取得や、変更の際に同窓会本部にお知らせいただければ幸いです。会員各位への様々なご連絡にE-mailを活用するとともに、本部事務局のホームページを通じてもお知らせします。

大勢の方が参加したいと思う、魅力的なイベント開催を企画することはもとより、連絡手段の環境整備にも注力したいと思います。

今後も、会員皆様の変わらぬご協力とご指導をいただきたくお願い申し上げます。

長野支部長 松本 進（工化S47）

—————

東信支部

この1年間、東信支部では2つの大きなイベントがありました。1つは総会に合わせた講演会において、KDDI共同創業者で長野県参与でもある千本偉生氏による講演会を工学部の学生に対して行ったこと、もう1つは支部長会の幹事支部として支部長会前日の軽井沢交流会を含めて支部長会対応を行ったことです。支部長会については、別稿で本号に掲載しますので、本稿では講演会について詳述します。

1. 役員会

2024年7月に長野市駅前の「油や」に於いて、役員5名で総会対応の打ち合わせを行いました。結果、白鳥支部長が懇意の千本氏に講演をお願いする。また、せっかくの講演なので工学部で開催し、学生が聴講するという形式に出来ないか香山工学部長（兼、東信支部副支部長）が調整するという事になりました。

2. 途中経過

千本氏との交渉を白鳥支部長が行った結果、講演を快諾して頂きました。通常千本氏の講演費用は高額なので、千本氏も会員である国際ロータリーが企画、信州大学工学部が主催そして長野県が共催することで無償の講演会として頂きました。

講演会を11月15日（金）とし、信州大学工学部電子情報システム工学科3年生授業「電子情報システム特別講義」での講演とすることになりました。

各部署と調整した結果、長野県の他に、信州大学工学部同窓会・東信支部、諏訪東京理科大学、長野工業高等専門学校が共催、北陸信越工学教育協会長野県支部で後援してくれることになりました。

3. 東信支部総会

講演会の都合で金曜日の14時から、会場を工学部「SASTecラボ2」からのオンライン方式としたことで、参加者は多くありませんでしたが、講演会と支部長会の予定を報告し、事業報告・決算と事業計

画・予算を承認して頂きました。

4. 講演会

講演会は、授業時間に合わせて16時20分から行われました。講演会は、ハイブリッド方式で工学部W2棟101教室でのリアル聴講の他に長野県関係部署、諏訪東京理科大学、長野工業高等専門学校、信州大学工学部同窓会にWeb配信されました。会場には学生約200名、長野県関係者、ロータリー関係者などが集まりました。

千本氏は「誰でも人生には三度チャンスが巡ってくる」というタイトルで「世界に出てみるとトレンドが見えてくる。起業するにはトレンドと潮目が変わるタイミングを逃さないことが大事、タイミングは早すぎても遅すぎてもダメ」と1時間半に渡って質問に答えながら熱く語って頂きました。学生にも大変好評で、アンケート答えた学生の9割以上が「満足」という結果でした。

その後、千本氏を囲んで工学部同窓会関係者、長野県関係者、ロータリー関係者で慰労会を行いましたが、阿部長野県知事も出張先から駆けつけて頂きました。（電車の中で講演会配信を聴講していたそうです）また、翌日の地元紙（信濃毎日新聞）にも講演の様子が掲載されました。



講演する千本氏

東信副支部長 西 嘉一（電気S46）記
東信支部長 白鳥 敬日瑚（工化S56）承認

—————

中信支部

＜令和6年度の活動概要＞

令和6年度は、当初、総会に併せて1泊2日で、安曇野地区の美術館巡りと温泉に浸かっての親睦会を計画しましたが、参加希望者が少なかったため、イベントを断念し、オンラインでの総会のみ実施しました。

活動経過は下記の通り

2/10(土) 支部長会議参加／銀座ブロッサム（東京都中央区銀座2-15-6）

3/19(火)～4/13(木)

支部幹事に、メールで事業検討依頼

5/16(木) 支部役員会議 事業計画策定

碌山美術館・安曇野山岳美術館見学と
AMBIENT安曇野ホテル泊、総会・懇親会

7/9(火) 支部役員第2回会議 事業計画修正

総会／碌山公園形成ホール、昼食会／蕎麦店、美術館見学、宿泊・懇親会はオプション

9/10(火) 事業中止、オンライン総会メール案内

9/28(土) 総会 16:00～16:30

方法：Zoomミーティング

議事：令和5年度事業会計報告

令和6年度事業計画会計、役員承認他

参加者：7名

＜令和7年度の活動概要と予定＞

今年度は、支部事業として、長野県工業技術総合センター精密・電子・航空技術部門（岡谷市）の設備見学会を計画しています。同センターは、研究開発や県内企業への様々な技術支援をしており、工学部出身の皆様には、興味深い機器や、有益な情報が得られるものと思います。

活動概要は下記の通り

3/24(月) 18:00～支部役員オンライン会議（Zoom）
R7年度事業検討

4/5(土) メールにて支部幹事に事業計画案アンケート

4/5～6/30 LINE、メール等で事業計画検討

5/24(土) 信大工学部同窓会支部長会in軽井沢に
支部長参加

5/25(日) 信大工学部同窓会支部長会、総会、講
演会に支部長参加

7/7(月) メールにて支部会員に事業・総会案内
11月7日（金）

15:00～19:00 事業・総会

15:00～16:30 長野県工業技術総合センター精
密・電子・航空技術部門見学
(岡谷市長地片間町1丁目3-1)

17:00～17:30 総会（イルフプラザ3階
カルチャーセンター 研修室）
(岡谷市中央町1丁目11-1)

※会場とオンライン（Zoom）のハイブリッド開催
17:30～19:00 懇親会（イルフプラザ4階
レストラン「湖苑」）

＜会員の皆様へのメールアドレス連絡のお願い＞

中信支部では、総会と併せ、上記のような事業を毎年開催していますが、メールで連絡できる会員が

全体の1割に満たず、情報が皆に伝わらない状況です。会員の皆様には、信州大学工学部同窓会事務局宛（kdoso@wakasatokai.jp）メールアドレスのご連絡を頂きますよう、お願い申し上げます。

中信支部長 竹田 圭吾（電子S49）

—————

南信支部

【南信支部 休会のお知らせ】

2017.11.4の総会以来、浦野正敏、小平正八、松原正弘の3名で8年に亘り、支部活動に尽力致してきましたが、迫り来る高齢の波には責任が重すぎ、3名ともに退任し、後継者にその任をお願いする事としましたが、その任を承諾下さる後継者が居ず、仕方なく暫時休会とする事としました。従いまして、南信支部同窓会各位への配信、事務局からの配信は、残念ながら致しかねますので、申し訳ありませんが宜しくお願いします。休会届は本年6月1日に清水会長、事務局宛に提出してあります。

尚、本部より頂きました支部活動資金の残額は返金したく思いますので、御指示を頂きたく思います。

本部、事務局、各支部の皆様には、今まで何かと大変お世話様になりましたが、これも時代の流れ、世の中の移り変わりか、と残念ながら推察いたします。後継者が出来るまで暫時休会と致しますが、何かとお世話になることがあるかと思いますが、何卒、宜しくお願いします。

同窓会の御繁栄と皆様の御健康をお祈り致します。

南信支部長 松原 正弘（通信S46）

—————

茨城支部

茨城支部（こまくさ会）の活動につき、報告いたします。

1. 2024（R6）年度活動報告

No.	名 称 期 日	内 容
1	支部助成金申請 4.15（木）	所定の様式により申請書提出。 (5/29振込確認済)
2	R5年度支部 総会開催 6.24（水）	R5年度茨城支部総会「こまくさ会」開催 第1部（見学会）；原研大洗研究所見学 第2部 総会・懇親会at泉山クラブ
3	総会反省会 5.12（日）	総会反省幹事会atふれ坂会議室
4	第1回幹事会 8.4（日）	・幹事4名出席。R6総会開催時期は11/中頃 とし、会則の見直し（制定時と合わない箇所 多々あり）を今年度主として行う事とした。

5	「支部だより」への投稿 8.19 (月)	「若里73号支部だより」へ茨城支部活動原稿を本部へ送付。(11/15の校正時、総会開催時期をR7-2/中に変更)
6	第2回幹事会 R7-1.13(月)	・幹事5名出席atふれ坂会議室。総会第1部の見学先は日立製作所大みか事業所とし、総会第2部の懇親会は大みか事業所の厚生施設である「泉山クラブ」、開催日を2/26(水)に決める。
7	第3回幹事会 2.9(日)	・幹事5名出席atふれ坂会議室。総会参加者状況確認、未回答者へはFAX、TEL等で引き続きF.uすることとした。
8	第4回幹事会 2.23(日)	・幹事4名出席atふれ坂会議室。総会第1部参加者10名、第2部参加者11名。総会当日(2/26)の役割分担、準備資料等の確認を行う。
9	R7こまくさ会 総会 2.26(水)	・第1部：見学会(15:00～16:40) 見学場所：日立製作所大みか事業所 清水会長、野村支部長他8名、事業所紹介映像、制御装置製造ライン・プリント基板製造ライン、史料室等を見学。 ・第2部：総会、懇親会(17:00～20:00) at泉山クラブ 清水会長、野村支部長他9名が参加。 会長より工学部はR7年度より学科制より1学科10コースに改編となる旨の紹介があった。
10	第5回幹事会 3.9(日)	・総会、懇親会の反省並びにR7年度活動に向けての議論を行った。(こまくさ会出席者の促進等に注力)



R6年度総会 第1部 見学会 日立製作所 大みか事業所見学会
記念撮影 (at 本館玄関前) 2025(R7).2.26 (水)



R6年度総会 第2部 総会・懇親会 泉山クラブにて

2. 2025(R7)年度予定

R7-11月/中頃 R7年度総会を予定 (第1部・2部方式は踏襲)。

- ・会員名簿の見直しを予定。
- ・幹事会を1回/1～2月を予定。

茨城支部長 野村 精志 (通信S38)

—————

関西支部

下記により、関西支部設立総会・記念講演会が開催されました。

1. 日時 2025年12月6日(土) 14:00～17:30
2. 会場 ホテル阪神(大阪市福島区福島5-6-16)
3. 総会 14:00～15:20
 - (1) 開会の辞
 - (2) 挨拶 支部設立準備委員会代表 橋本卓行
信州大学工学部同窓会長 清水保雄
 - (3) 議長選出
 - (4) 議事録署名人選出
 - (5) 支部設立準備委員会の活動経過報告
 - (6) 議事

第1号議案：関西支部規定について

第2号議案：支部役員の選出について

第3号議案：2025年度事業計画(案)および

収支予算(案)について

- (7) 関西支部長就任挨拶

- (8) 閉会の辞

4. 懇親会 15:30～17:30

- (1) 開会の辞

- (2) 関西支部設立記念講演

講師 信州大学工学部長

教授 香山瑞恵 先生 (情報H3卒)

題目 「1+9」の工学部、始まる!

—地域と共に、学びも大学も育つ時代へ—

- (3) 記念撮影

- (4) 信州大学経法学部同窓会長 挨拶

- (5) 乾杯 信州大学工学部同窓会長

- (6) 懇親会

- (7) 閉会の辞

訃報

謹んでお悔やみ申し上げます

氏名 (敬称略)	学科・卒年	御逝去日
西沢 隆二	通信・昭和34年	平成5年1月10日
野村 真実	機械・平成4年	平成12年9月5日
関谷 宏	電気・昭和25年	平成21年5月
三石 茂	土木・昭和31年	平成28年
中澤 實	機械・昭和23年	平成29年10月
鳥羽 正司	工化・昭和45年	平成30年7月26日
小林 貞司	精密・昭和42年	平成30年10月21日
古川 卓功	電気・昭和38年	平成30年11月
三井 直	機械・昭和34年	平成31年4月30日
土屋 捷造	機械・昭和36年	令和2年4月17日
内藤 茂	精機・昭和22年	令和2年
堀 昭次	電気・昭和24年	令和2年
高木 勢三	土木・昭和45年	令和3年3月15日
佐合 覚	合成・平成4年	令和3年5月3日
上條 厳水	土木・昭和28年	令和3年頃
宮澤 泰彦	土木・昭和54年	令和4年1月25日
村松 伸幸	機械・昭和52年	令和4年6月16日
赤野 松太郎	精機・昭和20年	令和4年7月29日
林 良男	工化・昭和44年	令和4年8月7日
長田 金治	機械・昭和23年	令和4年10月7日
村松 秀基	情報・平成6年	令和4年10月30日
林 晴基	通信・昭和31年	令和4年12月4日
竹内 隆造	電気・昭和38年	令和4年頃
星野 徳信	通信・昭和28年	令和5年2月15日
早川 敬太郎	電子・平成2年	令和5年4月
西沢 利定	機械・昭和23年	令和5年5月17日
桜井 厳	機械・昭和23年	令和5年8月20日
上野 三安	機械・昭和29年	令和5年10月13日
佐藤 孝一	通信・昭和29年	令和5年11月
赤沼 政信	工化・昭和38年	令和5年11月
峰村 裕信	電気・昭和47年	令和5年12月6日
関清 隆	機械・昭和42年	令和5年12月17日
飯田 一	機械・昭和33年	令和5年12月28日
市川 洋	機械・昭和40年	令和5年12月
佐藤 恵信	通信・昭和39年	令和5年
瀧田 比斗志	電子・昭和50年	令和6年2月1日
宝珠山 敏朗	通信・昭和36年	令和6年2月4日
篠田 公夫	土木・昭和43年	令和6年3月3日
小倉 正	電気・昭和43年	令和6年3月4日
花岡 修三	情報・昭和57年	令和6年3月6日
桑原 昭雄	電気・昭和36年	令和6年3月16日
西澤 一誠	電気・昭和38年	令和6年3月30日
松木 清和	電子・昭和63年	令和6年4月5日
井上 雅有	電気・昭和38年	令和6年4月9日
奥村 正昭	電気・昭和35年	令和6年4月13日
佐藤 勉	機械・昭和40年	令和6年4月15日

氏名 (敬称略)	学科・卒年	御逝去日
庄司 正男	土木・昭和50年	令和6年6月8日
島田 忠明	土木・昭和43年	令和6年6月17日
北野 祐輔	社建・平成18年	令和6年6月23日
一色 耕治	電気・昭和51年	令和6年6月27日
岡 雄治	土木・昭和26年	令和6年7月3日
小林 唯見	電気・昭和22年	令和6年7月7日
林 幸司	土木・昭和48年	令和6年7月24日
中村 豊久	工化・昭和38年	令和6年7月26日
笠井 雄一	土木・昭和44年	令和6年8月2日
菅 郁宏	情報・昭和58年	令和6年8月6日
内田 皓	工化・昭和39年	令和6年8月8日
麻林 光夫	土木・昭和50年	令和6年8月22日
傳田 恒明	電気・昭和41年	令和6年8月24日
徳武 文徳	土木・昭和42年	令和6年8月
田中 七郎	機械・昭和31年	令和6年9月13日
菅沼 利明	電気・昭和48年	令和6年9月19日
谷 敏昭	精密・昭和47年	令和6年10月2日
竹内 茂文	通信・昭和47年	令和6年10月14日
宮島 俊文	土木・昭和47年	令和6年10月17日
野上 繁喜	電子・昭和55年	令和6年11月5日
岩本 安利	精機・昭和20年	令和6年11月15日
二谷 一雄	土木・昭和33年	令和6年11月27日
竹内 喜代数	通信・昭和37年	令和6年11月28日
渋沢 研一	土木・昭和43年	令和6年12月3日
荒井 直彦	電気・昭和33年	令和6年12月8日
池田 利政	土木・昭和31年	令和6年12月8日
湯本 泉	機械・昭和38年	令和6年12月13日
青木 祥	通信・昭和30年	令和6年12月20日
田村 昭二	精機・昭和22年	令和7年1月13日
降旗 建治	精密・昭和45年	令和7年1月14日
上杉 信之	土木・昭和39年	令和7年2月9日
清水 常男	電気・昭和31年	令和7年2月12日
青木 香	通信・昭和37年	令和7年3月11日
竹内 昭二郎	土木・昭和23年	令和7年4月28日
佐藤 安雄	電気・昭和45年	令和7年5月12日
木村 隆幸	情報・昭和63年	令和7年5月16日
重野 正志	精密・昭和45年	令和7年5月22日
井上 紘二	土木・昭和42年	令和7年5月31日
内山 誠	機械・昭和38年	令和7年8月9日
森下 四郎	電気・昭和23年	
春原 陽	通信・昭和28年	
宮下 周夫	土木・昭和32年	
山崎 英樹	土木・昭和32年	
原田 金二郎	電気・昭和35年	
池田 満支	通信・昭和43年	
湯浅 友博	機械・昭和61年	

(令和7年8月受付迄)

*同窓生の方でお亡くなりになられた方がおられましたら、事務局までお知らせください。

TEL/FAX : 026-266-8209 E-mail : kdoso@wakasatokai.jp

◆◆ 役員名簿 ◆◆

信州大学工学部同窓会

2025年度役員（敬称略）

（2024年度～2025年度）

会長 清水 保雄 ／機械 S45

副会長 伊東 一典 ／通信 S46
[総務] 清水 茂 ／土木 S49
[涉外、会員サービス、キャリア支援] [編集]

常任理事 脇若 弘之 ／電気 S46
[講演会企画運営] [編集] 若林 信一 ／合成 S48
[会計]

山本 博章 ／情報 S55
[広報・HP] [編集] 楠 和彦 ／機械 S61
[編集統括]

高村 秀紀 ／建築 H8
[講演会企画運営統括] [編集] 曾根原 誠 ／電電 H14
[講演会企画運営] [編集]

[12名]

監事 蕁 一郎 ／通信 S47 松岡 浩仁 ／精密 S61 [2名]

理事 宮入 裕夫 ／機械 S37 池田 敏彦 ／機械 S44 野村 義和 ／機械 S50
丸山 六男 ／機械 S52 西木 直巳 ／機械 S56 遠藤 智久 ／機械 S57
永田 利雄 ／機械 S57 中村 正行 ／機械 S57 松森 徹 ／機械 S60
鬼頭 宏和 ／機械 S61 梶山 尚久 ／機械 S61 櫻井 雅史 ／機械 H2
佐藤 運海 ／機械 H4 橋本 卓行 ／生産 H5 藤田 雄二 ／精密 S45
富田 五一郎 ／精密 S47 関谷 俊生 ／精密 S50 寺澤 昭彦 ／精密 S62
野村 精志 ／通信 S38 干川 圭吾 ／通信 S42 花井 雅昭 ／通信 S43
松原 正弘 ／通信 S46 遠藤 守信 ／電気 S44 西 嘉一 ／電気 S46
土屋 寛 ／電気 S49 竹田 圭吾 ／電子 S49 田宮 秀英 ／電子 S50
中澤 達夫 ／電子 S52 畠田 悟 ／電子 H1 有賀 良夫 ／土木 S46
木田 仁 ／土木 S52 清水 治彦 ／土木 S53 関根 邦彦 ／土木 S53
月原 光昭 ／土木 S55 廣田 祐司 ／社土 H5 五十嵐 健二 ／社環 H17
松本 進 ／工化 S47 小林 壯 ／工化 S51 白鳥 敬日瑚 ／工化 S56
馬場 文明 ／合成 S48 布施 美千栄 ／合成 S52 戸田 泰行 ／合成 S54
矢口 秀昭 ／合成 S60 山口 朋浩 ／物質 H6 [編集] 片桐 規貴 ／物質 H7
手嶋 勝弥 ／物質 H7 宮寄 敬 ／情報 S55 不破 泰 ／情報 S56
前田 政人 ／情報 S57 和崎 克己 ／情報 H3 梅干野 成央 ／社建 H14 [51名]

名誉会長 香山 瑞恵 ／情報 H3 (工学部長)

顧問 小沼 義治 ／電気 S34 北澤 文教 ／土木 S35
神田 鷹久 ／工化 S38 南雲 忠信 ／工化 S44

※「氏名／学科・卒業年」[担当] を示す。

※ 正副会長・常任理事・監事・理事の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する総会の終結の時までとする。

一般財団法人信州大学工学部若里会

2025年度役員（敬称略・五十音順）

（2024年度～2025年度）

理 事 長	神田 鷹久	／信州大学 名誉教授
副 事 長	中澤 達夫	／長野工業高等専門学校 名誉教授
理 事	若林 信一	／元新光電気工業(株) 取締役
	榎 和彦	／信州大学工学部 教授
	清水 信孟	／元上田日本無線(株) SE部部長
	白川 達男	／元富士通メディアデバイス(株) 代表取締役社長
	南雲 忠信	／横浜ゴム(株) 相談役
	山本 博章	／信州大学 名誉教授

[8名]

（2024年度～2025年度）

監 事	轟 一郎	／元(株)NTTデータ信越 代表取締役社長
-----	------	-----------------------

[1名]

（2024年度～2027年度）

評 議 員	天野 良彦	／信州大学工学部 教授
	小林 壮	／元新光電気工業(株) 開発統括部主席部長
	小林 光征	／元信州大学工学部 学部長 ※2025.6.30付退任
	干川 圭吾	／元NTTLSI研究所 主幹研究員
	町田 正信	／オリオン機械(株) 常務取締役

（2022年度～2025年度）

評 議 員	大石 修治	／元信州大学工学部 学部長
	岡本 正行	／元信州大学工学部 学部長
	清水 保雄	／信州大学 名誉教授
	半田 志郎	／元信州大学工学部 学部長

[9名]

※ 理事及び監事の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとする。

※ 評議員の任期は、選任後4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとする。

◆◆ 2024年度事業・会計報告/2025年度事業計画・予算書 ◆◆

信州大学工学部同窓会

2024年度事業報告 (2024年4月～2025年3月)

1. 常任理事会（第1回～第6回）
2. 2024年度理事会（2024年5月11日・オンライン会議）
3. 2024年度総会・基調講演会
(2024年5月25日・工学部総合研究棟・オンライン併用)
演題：「動力機構高度化への挑戦」
講師：矢野和美氏
(機械S55／TPR(株)代表取締役社長兼COO)
4. 2024年度懇親会（2024年5月25日・シャトレーゼホテル長野）
5. 2024年度支部長会
(2024年2月10日・銀座プロッサム(東京都)・オンライン併用)

6. 編集委員会（2024年6月6日）
7. ようこそ先輩2024
(2024年11月1日・工学部講義棟・オンライン併用)
演題：「環境を軸につながる仕事」
講師：上田里絵氏（社建H7卒・H9修・H14博／(株)NTTアーバンソリューションズ総合研究所 上席研究員）
演題：「これから時代を生き抜くヒント」
講師：藤岡高広氏
(精密S52卒・S54修／愛知製鋼(株)代表取締役会長)
8. 会誌『若里』73号（2024年12月）
21,100部発行
9. 卒業記念品贈呈（2024年9月・2025年3月）
学部生・学位記ホルダー贈呈

10. 学生表彰「わかさと賞」(2025年3月)
学部生6名、賞状・レリーフ贈呈
11. クラス会補助
2024年5月・9月・10月／計3件

2024年度会務報告 (2024年4月～2025年3月)

【常任理事会】

第1回：4月24日（水）15:30～17:00

■報告：①2023年度支部活動報告・2024年度支部助成申請 ②信州大学同窓会連合会役員会 ③令和5年度学生表彰「わかさと賞」授与式 ④卒業生・修了生連絡先登録状況 ⑤茨城支部「こまくさ会」総会 ⑥「ようこそ先輩2024」講師 ⑦2025年度支部長会の予定

■議案：①2023年度事業報告・収支決算報告 ②2023年度会計監査報告 ③2024年度事業計画（案）・収支予算書（案） ④次期役員選任

第2回：7月3日（水）16:30～17:50

■報告：①2024年5月定例行事 ②信州産学みらい共創会・定時総会 ③Ax-C-PF第6回総会、第13回講演会・懇談会 ④松高・信大寮歌祭 ⑤第30回信土会総会 ⑥2024年度編集委員会 ⑦信大検定への掲載 ⑧長野支部2024年度総会・開催予定 ⑨中信支部2024年度総会・開催予定 ⑩信州大学入学手続きオンライン化の新システム導入

■議案：①ようこそ先輩2024 ②2025年5月定例行事 ③保有資産の管理 ④メール一斉配信の対応 ⑤会誌「若里」工学部教職員への再配布 ⑥会誌「若里」広告依頼 ⑦2024年度暑気払い

第3回：8月7日（水）17:00～18:10

■報告：①第40回信州大学同窓会連合会役員会 ②北信濃支部2024年度総会・開催予定 ③関東支部2024年度総会・開催予定 ④「ようこそ先輩2024」準備状況 ⑤会誌「若里」広告・新規依頼状況 ⑥会誌「若里」送料改定

■議案：①保有資産の管理 ②2025年5月定例行事・講演依頼

第4回：10月23日（水）15:30～16:30

■報告：①長野支部2024年度総会 ②中信支部2024年度総会 ③関東支部2024年度総会 ④日経新聞「工学部記事」への広告掲載 ⑤精密S52同級会・キャンパス案内 ⑥電気S36同級会・キャンパス案内 ⑦東信支部2024年度総会・千本倅生氏講演会 ⑧技報「こまくさ」22号、会誌「若里」73号の進捗状況 ⑨会誌「若里」広告依頼状況

■議案：①ようこそ先輩2024 ②長野県債グリーンボンド投資表明 ③2025年度基調講演会の講師 ④「信州大学同窓会連合会賞」候補者推薦 ⑤賛助会員推薦状文面の検討 ⑥2024年度忘年会 ⑦（一社）信州産学みらい共創会・有料職業紹介事業

第5回：12月11日（水）16:00～17:10

■報告：①「ようこそ先輩2024」実施報告 ②東信支部2024年度総会 ③千本倅生氏講演会（共催）実施報告 ④賛助会員推薦状文面（令和7年度推薦入学者用） ⑤令和7年度2月信州大学東京同窓会 ⑥2025年度支部長会 ⑦2024年度忘年会参加者

■議案：①「令和6年度信州大学同窓会連合会賞」候補者推薦 ②令和6年度学生表彰「わかさと賞」推薦依頼 ③会誌「若里」73号・配布対象

第6回：2月19日（水）16:00～17:40

■報告：①「令和6年度信州大学同窓会連合会賞」候補者推薦 ②令和7年度入学生用推戴状 ③2025年度支部長交流会in軽井沢・会場視察 ④令和7年2月

信州大学東京同窓会 ⑤茨城支部「こまくさ会」令和6年度総会・懇親会 ⑥会誌「若里」73号、送付状況・学内配布実施

■議案：①令和6年度学生表彰「わかさと賞」表彰候補者 ②2025年度事業計画（案）・収支予算書（案） ③卒業生・修了生への連絡先登録依頼 ④修士課程新設授業〔後期〕での「ようこそ先輩」実施（案）

【2024年度支部長会】

2月10日（土）10:30～12:30

■議案：①2023年度支部活動状況 ②2024年度支部助成方針 ③中京および関西地区の支部設立準備状況 ④「ようこそ先輩」講師 ⑤次期2025年度支部長会の開催

【2024年度理事会】

5月11日（土）13:05～14:40

■議案：①2023年度事業報告・収支決算報告 ②2023年度会計監査報告 ③2024年度事業計画（案）・収支予算書（案） ④役員改選（案）

【2024年度総会】

5月25日（土）16:10～16:55

■議案：①2023年度事業報告・収支決算報告 ②2023年度会計監査報告 ③2024年度事業計画（案）・収支予算書（案） ④役員改選（案）

【編集委員会】

6月6日（木）13:30～14:30

■議案：①会誌「若里」73号編集・発行 ②技報「こまくさ」22号編集（発行/（一財）若里会）

.....*.....*.....*.....*

2025年度事業計画

(2025年4月～2026年3月)

1. 常任理事会（隔月に1回（年6回）開催）

2. 2025年度理事会（2025年5月17日・オンライン会議）

3. 2025年度基調講演会・総会

（2025年5月25日・工学部総合研究棟・オンライン併用）

演題：「航空宇宙システムから空モビリティシステムへ」～信州大学航空宇宙システム研究拠点の活動を振り返って～

講師：佐藤敏郎先生（信州大学工学部、信州大学次世代空モビリティシステム研究拠点、特任教授）

4. 2025年度懇親会

（2025年5月25日・シャトレーゼホテル長野）

5. 2025年度支部交流会・支部長会

（2025年5月24日軽井沢～25日工学部内SASTec）

6. ようこそ先輩2025

（2025年11月20日・工学部総合研究棟）

信州大学工学部 同窓生・在学生・教職員交流会

演題：「技術開発を通じた、新しいことへの挑戦」

講師：田中真子氏（物質H18・修H20／エア・ウォーター（株）エネルギーソリューションズグループ グリーンイノベーション開発センター長）

演題：「165万ボルト試験用変圧器を、世界にない構造で設計せよ」

講師：小林英一氏

（電気S32／株日立製作所 元日立土浦工場技師長）

7. 会誌『若里』74号発行（2025年12月）

8. 卒業記念品贈呈（2025年9月・2026年3月）

学部生、記念品…学位記ホルダー

9. 学生表彰「わかさと賞」（2026年3月）

学部生、記念品…賞状・オリジナルレリーフ

10. 会員サービス

クラス会補助、キャリア支援

正味財産増減計算書

(2024年4月1日～2025年3月31日)

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減	備 考
I 一般正味財産増減の部				
1 経常増減の部				
(1) 経常収益				
正会員会費収入	1,317,500	1,041,300	276,200	121 件 ※前年度：127 件
賛助会員会費収入	9,990,000	10,920,000	△ 930,000	333 件 ※前年度：364 件
懇親会参加会費収入	160,000	180,000	△ 20,000	総会、ようこそ先輩、暑気払い、忘年会
広告収入	190,000	160,000	30,000	『若里』73号広告掲載 15社 ※前年度：13社
事務受託収入	1,000,000	1,000,000	0	(一財)信州大学工学部若里会
創立記念事業基金収入	366,000	222,000	144,000	29 件 ※前年度：22 件
雑収入	141,823	101,080	40,743	受取利息
経常収益計	13,165,323	13,624,380	△ 459,057	
(2) 経常費用				
事業費				
卒業記念費	(7,924,366)	(7,128,060)	(796,306)	
学生表彰費	335,500	322,080	13,420	学位記ホルダー 500 部 ※前年度：480 部
在学生交流事業費	48,076	51,243	△ 3,167	「わかさと賞」記念品
クラス会補助	144,288	97,410	46,878	ようこそ先輩 2024
キャリア支援	30,000	40,000	△ 10,000	3 件 ※前年度：4 件
信大同窓会連合会会費	0	0	0	
渉外費	70,000	70,000	0	拠出金
支部助成費	31,004	45,123	△ 14,119	東京同窓会（日当・旅費、御祝儀） 信大祭歌祭（日当・旅費）
会議費	1,090,446	943,556	146,890	支部運営費・事業費・総会祝金、本部役員日当・旅費
手数料	375,481	558,633	△ 183,152	役員日当（監査、常任理事会・編集委員会 他）、Zoom 年間ライセンス料、総会・基調講演会・懇親会設営費 ※前年度：2024 年度支部長会分含む
「若里」発行・発送費	65,343	69,938	△ 4,595	会費入金手数料
印刷費	5,471,635	4,579,584	892,051	「若里」73号印刷・封入・発送費
広報費	107,655	257,715	△ 150,060	トナー、プリンタ用紙 ※前年度：会費払込用紙・会費用封筒印刷代含む
管理費	154,938	92,778	62,160	サーバーレンタル料、HP 更新作業料、日経新聞広告 掲載料、セキュリティソフト更新料
若里会寄付金	(9,009,374)	(9,145,666)	(△ 136,292)	
通信費	2,000,000	2,000,000	0	(一財)信州大学工学部若里会
事務用品費	500,634	514,257	△ 13,623	送金手数料、ネット EB 利用料、郵送料、電話料
光熱費	60,724	34,488	26,236	文具、OA 用品 他
旅費	165,959	167,000	△ 1,041	事務室電気料・ガス料
事務手当費	105,570	525,163	△ 419,593	役員旅費（常任理事会、総会 他）※前年度：2024 年度支部長会分含む 事務員通勤手当
福利厚生費	5,017,785	4,778,254	239,531	事務員 2 名、（一財）若里会事務受託
名簿資料管理費	834,313	732,608	101,705	社会保険料、退職金積立
減価償却費	35,200	35,200	0	名簿データ保守料
顧問料	56,876	100,533	△ 43,657	プロジェクト、web 会議用カメラ
雑費	154,150	152,500	1,650	会計事務所、社会保険労務士事務所
経常費用計	78,163	105,663	△ 27,500	講師謝礼、講演会設営謝礼 他
当期経常増減額	16,933,740	16,273,726	660,014	
2 経常外増減の部	△ 3,768,417	△ 2,649,346	△ 1,119,071	
(2) 経常外費用	0	0	0	
経常外費用計	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	△ 3,768,417	△ 2,649,346	△ 1,119,071	
一般正味財産期首残高	125,452,678	128,102,024	△ 2,649,346	
一般正味財産期末残高	121,684,261	125,452,678	△ 3,768,417	
正味財産期末残高	121,684,261	125,452,678	△ 3,768,417	

収支予算書

(2025年4月1日～2026年3月31日)

(単位：円)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減	備 考
I 事業活動収支の部				
1 事業活動収入				
正会員会費収入	1,500,000	1,500,000	0	
賛助会員会費収入	11,000,000	13,000,000	△ 2,000,000	
懇親会参加会費収入	300,000	300,000	0	
広告収入	200,000	200,000	0	『若里』74号広告代
事務受託収入	1,000,000	1,000,000	0	(一財)信州大学工学部若里会
創立記念事業基金収入	400,000	400,000	0	
雑収入	100,000	100,000	0	受取利息 他
事業活動収入計	14,500,000	16,500,000	△ 2,000,000	
2 事業活動支出				
(事業費)				
卒業記念費	350,000	350,000	0	学位記ホルダー
学生表彰費	50,000	50,000	0	わかさと賞記念品
在学生交流事業費	100,000	100,000	0	ようこそ先輩交流会
クラス会補助	50,000	50,000	0	
キャリア支援	50,000	50,000	0	
信大同窓会連合会会費	70,000	70,000	0	拠出金
涉外費	100,000	100,000	0	信州大学東京同窓会 他
支部助成費	1,000,000	1,000,000	0	支部運営・事業助成費、総会祝儀、本部役員参加経費
会議費	500,000	500,000	0	日当(常任理事会・編集委員会 他)、総会・懇親会設営費 他
手数料	100,000	100,000	0	会費入金手数料
「若里」発行・発送費	5,500,000	4,700,000	800,000	『若里』74号
印刷費	250,000	250,000	0	封筒印刷、トナー代 他
広報費	200,000	200,000	0	サーバーレンタル料、HPメンテナンス料 他
事業費支出計	8,320,000	7,520,000	800,000	
(管理費)				
若里会へ寄付	2,000,000	2,000,000	0	(一財)信州大学工学部若里会
通信費	500,000	500,000	0	送金手数料、郵送料、電話料
事務用品費	100,000	100,000	0	文具、OA用品 他
光熱費	180,000	180,000	0	事務室電気代・ガス代
旅費	350,000	350,000	0	役員旅費(総会・常任理事会 他)、事務員通勤手当
事務手当費	5,200,000	5,100,000	100,000	事務員2名、(一財)若里会事務受託
福利厚生費	800,000	800,000	0	社会保険料、退職金積立 他
名簿資料管理費	50,000	50,000	0	名簿データ保守料
顧問料	150,000	150,000	0	会計事務所、社会保険労務士事務所
雑費	100,000	100,000	0	慶弔費、講師謝金、証明書発行手数料 他
管理費支出計	9,430,000	9,330,000	100,000	
事業活動支出計	17,750,000	16,850,000	900,000	
事業活動収支差額	△ 3,250,000	△ 350,000	△ 2,900,000	
II 投資活動収支の部				
1 投資活動収入				
特定預金取崩収入	11,000,000	10,000,000	1,000,000	運営資金振替 ※終身会員会計より一般会計へ
投資活動収入計	11,000,000	10,000,000	1,000,000	
2 投資活動支出				
特定預金積立支出	8,580,000	11,730,000	△ 3,150,000	積立振替 ※賛助会員会計より終身会員会計へ
備品購入支出	300,000	300,000	0	
投資活動支出計	8,880,000	12,030,000	△ 3,150,000	
投資活動収支差額	2,120,000	△ 2,030,000	4,150,000	
III 予備費支出				
当期収支差額	1,432,536	1,235,752	196,784	
前期繰越収支差額	△ 2,562,536	△ 3,615,752	1,053,216	
次期繰越収支差額	2,562,536	3,615,752	△ 1,053,216	
	0	0	0	

(注記) 資金の範囲 本会計の現金預金

一般財団法人信州大学工学部若里会

2024年度事業報告 (2024年4月～2025年3月)

- 理事会 (第1回～第2回、臨時、メール審議第1回～第6回)
- 2024年度定時評議員会
(2024年5月25日・オンライン併用・工学部同窓会事務室)
- 研究助成選考委員会 (第1回～第2回)
- 2024年度研究助成 (2024年7月)
信州大学工学部教員 2名
- 学部・学科助成
学生団体KARURAプロジェクト (2024年4月)
工学部 電子情報システム工学科 (2024年8月)
工学部 水環境・土木工学科 (2024年10月)
工学部 機械システム工学科 (2024年11月)
信州大学工学部 (2025年2月)
- 大学祭助成 (2024年10月)
光芒祭 (長野工学キャンパス)
- 国際交流学生支援助成
マレーシア プトラ大学13名 (2024年5月)
タイ マヒドン大学 2名 (2024年5月)
タイ カセサート大学 1名 (2024年9月)
マレーシア マラッカ技術大学 3名 (2024年10月)
- ようこそ先輩2024
(2024年11月1日・工学部講義棟・オンライン併用)
演題:「環境を軸につながる仕事」
講師:上田里絵氏 (社建H7卒・H9修・H14博／株NTT
アーバンソリューションズ総合研究所 上席研究員)
演題:「これからの時代を生き抜くヒント」
講師:藤岡高広氏
(精密S52卒・S54修／愛知製鋼株代表取締役会長)
- 技報『こまくさ』22号 (2024年10月)
400部発行

2024年度会務報告 (2024年4月～2025年3月)

【理事会】

- メール審議: 4月8日(月)～4月11日(木)
■議案: 2024年度研究助成募集案
第1回: 4月24日(水) 13:30～15:20
■議案: ①2023年度事業報告・収支決算報告 ②2023年度会計監査報告 ③2024年度事業計画(案)・収支予算書(案) ④役員改選(案) ⑤助成申請 [KARURAプロジェクト]
メール審議: 4月26日(金)～5月7日(月)
■議案: 国際交流学生支援(一次締切分)助成申請
臨時: 5月25日(土) 10:50～11:20
■議案: 理事長および副理事長の選定
メール審議: 6月14日(金)～6月19日(水)
■議案: 2024年度研究助成選考結果
メール審議: 7月18日(木)～7月25日(木)
■議案: 電子情報システム工学科(電気電子工学分野)助成申請
メール審議: 10月3日(木)～10月9日(水)
■議案: ①機械システム工学科助成申請 ②水環境・土木工学科助成申請
メール審議: 10月4日(金)～10月10日(木)
■議案: 国際交流学生支援(二次締切分)助成申請
第2回: 2月19日(水) 13:30～15:30
■報告: ①大学祭助成 ②2024年度国際交流学生支援
③「技報こまくさ」22号発行 ④日経新聞・工学部記事への広告掲載 ⑤ようこそ先輩2024 ⑥2024年度学部助成申請 ⑦公益目的支出計画完了予定事業年度・延長申請手続きの保留
■議案: ①2025年度事業計画(案)・収支予算書(案)
②修士課程新設授業[後期]での「ようこそ先輩」実施(案) ③2025年度国際交流学生支援事業実施(案)

- ④2025年度定時評議員会・開催日程 ⑤今後の運営方針

【2024年度定時評議員会】

5月25日(土) 10:00～10:30

- 議案: ①2023年度事業報告・収支決算報告 ②2023年度会計監査報告 ③2024年度事業計画(案)・収支予算書(案) ④任期満了による理事、監事、評議員(一部)の選任

【研究助成選考委員会】

第1回: メール審議 3月22日(金)～4月4日(木)

- 議案: 2024年度研究助成、募集要項・スケジュール

第2回: 6月13日(木) 14:00～15:00

- 議案: ①2024年度研究助成候補者選定 ②選考結果通知・目録贈呈 ③2025年度スケジュール

.....*.....*.....*.....*

2025年度事業計画

(2025年4月～2026年3月)

1. 技術情報誌の発行

本財団の技術情報誌である『こまくさ』第23号を発行し、関係会員並びに産官学を含め、各市町村関係企業に配布し、もって産官学の共同研究・技術振興に役立てる。

2. 講演会開催助成事業

大学関係者のほかに一般の方々も参加する講演会の開催を助成する。

3. 学部・学科助成事業

近年、企業や自治体、関係団体等との共同研究開発が盛んになっている。大学並びに在学生と企業・社会との密接な関係は今後も更に発展していくと考えられる。大学の研究紹介や広報活動の支援を含め、学部・学科助成事業を積極的に行う。

4. 研究助成事業

科学技術立国を目指す日本にとって、これから日本を背負う若者を育てる大学の教育・研究に大きな期待が掛けられている。しかし、現在の教育・研究環境は少ない研究費・不充分な施設・設備などに見られるように大変厳しい状況にある。これらのこととを鑑み、大学の教育・研究に携わる若手教員を対象として、教育研究活動を支援するために、平成7年度より研究助成を開始しており、これを継続する。

5. 国際交流学生支援事業

信州大学から多数の学生を派遣している協定校との公平な協力関係を築き、本学工学部のグローバル化教育推進のため、協定校からの外国人学生に対し支援を行う。同時に本学工学部在学生の海外留学も含めて支援を行う。

6. 「ようこそ先輩2025」開催

工業界の第一線で活躍する同窓生を講師に招き、工学部同窓生及び在学生、学部内教職員などを対象とした講演会を開催する。

7. 大学祭への助成

工学部大学祭(光芒祭)は、工学部ならびに工学部学生と地域・市民との交流を深める行事として定着しており、その継続的な活動を支えるために助成を行う。

8. 国際会議等助成事業

国際会議など広く世界的な学術研究の展開を図るべく開催される学会等に対して助成を行う。

正味財産増減計算書

(2024年4月1日～2025年3月31日)

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減	備 考
I 一般正味財産増減の部				
1 経常増減の部				
(1) 経常収益				
寄付金収入	2,000,000	2,000,000	0	信州大学工学部同窓会
雑収入	32,214	30,408	1,806	受取利息、ようこそ先輩協賛金
経常収益計	2,032,214	2,030,408	1,806	
(2) 経常費用				
事業費				
「技報こまくさ」発行費	(5,016,447)	(2,889,958)	(2,126,489)	
299,981	272,399	27,582	「こまくさ」22号印刷(400部)、発送費(174通)	
研究助成費	2,000,000	2,000,000	0	2件
学部助成費	1,627,000	150,000	1,477,000	学部助成2件(工学部、KARURA)、学科助成3件(電情、水上、機シ) ※前年度: 学科助成1件(機シ)
国際交流学生支援費	846,000	260,000	586,000	4件(協定校: ブトラ大、カセサート大、マヒドン大、マラッカ技術大、計: 19名) ※前年度: 1件(ブトラ大、計: 13名)
大学祭助成費	50,000	50,000	0	光芒祭(長野工学キャンパス)
講演会費	123,066	91,559	31,507	ようこそ先輩2024(講師謝礼・旅費、会場設営費 他)
広報費	70,400	66,000	4,400	日経新聞広告掲載料、HP更新作業料
管理費	(1,613,560)	(1,513,391)	(100,169)	
会議費	30,000	38,000	△ 8,000	日当(監査・理事会・研究助成選考委員会)
旅費	14,080	17,390	△ 3,310	役員旅費(監査・理事会・評議員会・研究助成選考委員会)
事務委託費	1,000,000	1,000,000	0	信州大学工学部同窓会
事務用品費	54,542	54,542	0	プリンタナー、文具
顧問料	229,339	88,000	141,339	会計事務所、変更認可申請費用、役員登記手数料
雑費	193,788	234,459	△ 40,671	研究助成選考謝金、証明書発行手数料、送金手数料、郵送料
租税公課	91,811	81,000	10,811	法人市県民税、役員登記印紙税
経常費用計	6,630,007	4,403,349	2,226,658	
当期経常増減額	△ 4,597,793	△ 2,372,941	△ 2,224,852	
2 経常外増減の部				
経常外費用計	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	△ 4,597,793	△ 2,372,941	△ 2,224,852	
一般正味財産期首残高	27,018,765	29,391,706	△ 2,372,941	
一般正味財産期末残高	22,420,972	27,018,765	△ 4,597,793	
正味財産期末残高	22,420,972	27,018,765	△ 4,597,793	

2025年度 一般財団法人信州大学工学部若里会

収支予算書

(2025年4月1日～2026年3月31日)

(単位：円)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減	備 考
I 事業活動収支の部				
1 事業活動収入				
寄付金収入	2,000,000	2,000,000	0	信州大学工学部同窓会
雑収入	20,000	20,000	0	受取利息 他
事業活動収入計	2,020,000	2,020,000	0	
2 事業活動支出				
(1) 事業費支出				
「技報こまくさ」発行費	400,000	400,000	0	「こまくさ」23号印刷・発送費
研究助成費	2,000,000	2,000,000	0	2～3件
学部助成費	2,000,000	2,000,000	0	学部助成、学科助成、国際会議等助成
国際交流学生支援費	1,000,000	1,000,000	0	工学部協定校留学支援
大学祭助成費	65,000	65,000	0	光芒祭（長野工学キャンパス）他
講演会費	300,000	300,000	0	講演会開催費
広報費	100,000	100,000	0	ホームページ更新費 他
事業費支出計	5,865,000	5,865,000	0	
(2) 管理費支出				
会議費	100,000	100,000	0	日当（監査・理事会・研究助成選考委員会 他）
旅費	50,000	50,000	0	役員旅費（監査・評議員会・理事会・研究助成選考委員会 他）
事務委託費	1,000,000	1,000,000	0	信州大学工学部同窓会
事務用品費	150,000	150,000	0	文具、OA機器、印刷費 他
顧問料	150,000	150,000	0	会計事務所、司法書士事務所
雑費	250,000	250,000	0	研究助成選考謝金、証明書発行手数料、郵便切手、送金手数料 他
管理運営支出計	1,700,000	1,700,000	0	
事業活動支出計	7,565,000	7,565,000	0	
事業活動収支差額	△ 5,545,000	△ 5,545,000	0	
II 投資活動収支の部				
1 投資活動収入				
投資活動収入計	0	0	0	
2 投資活動支出				
投資活動支出計	0	0	0	
投資活動収支差額	0	0	0	
III 予備費支出				
当期収支差額	1,000,000	1,000,000	0	
前期繰越収支差額	△ 6,545,000	△ 6,545,000	0	
次期繰越収支差額	22,420,972	27,018,765	△ 4,597,793	
	15,875,972	20,473,765	△ 4,597,793	

2024 年度卒業生就職先企業

会社名	学科名	企業別合計									
		物質		電子情報		・水環境		システム		建築	
		学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院
(株) IIJグローバルソリューションズ				1							1
(株) アイヴィス			1								1
愛三工業 (株)			1								1
(株) アイシン						1					1
愛知県 名古屋市				1	1						2
愛知県 名古屋市消防局					1						1
(株) アイ・ティー・ワン		1									1
アクセンチュア (株)			1								1
(株) アグリトライ						1					1
AKKODiSコンサルティング(株)		1									1
旭化成ホームズ (株)							1				1
アネスト岩田 (株)					1						1
(株) 梓設計							1				1
アスザック (株)				1							1
アスザックフーズ (株)								1			1
アプライドマテリアルズジャパン(株)						1					1
(株) アマダ						1					1
アラームボックス (株)		1									1
(株) ARISE analytics						1					1
(株) アリミノ	1										1
(株) アルトナー									1		1
(株) 安藤・間						1					1
石川県			1								1
いすゞ自動車 (株)					1						1
伊藤忠テクノソリューションズ(株)			2								2
イビデン (株)	1			1							2
今治造船 (株)					1						1
岩田地崎建設 (株)						1					1
(株) インテージテクノスフィア			3								3
(株) インテック		1									1
(株) エー・アンド・ディ						1					1
(株) エーシー工設計							1	1			2
SCSK (株)			1								1
NECソリューションイノベータ(株)			1								1
エヌシーアイ総合システム(株)		1									1
NTTコムウェア (株)			2								2
(株) NTTデータ			1								1
(株) NTTデータMSE		1									1
(株) NTTドコモ			4								4
(株) NTT東日本-関信越		1									1
エプソンアヴァシス (株)		1	2								3
(株) 江守情報		1									1
(株) オオバ				1							1
(株) 大林組			3		1		2				6
大峰堂薬品工業 (株)									1		1
(株) オキサイド			1								1
沖縄セルラー電話 (株)			1								1
(株) 奥村組				1							1
オダケホーム (株)						1					1
(株) オリエンタルコンサルタント				1							1
オリンパス (株)									1		1
(株) カインズ	1										1

会社名	学科名	企業別合計									
		物質		電子情報		・水環境		システム		機械	
		学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院
鹿島建設 (株)											2
(株) カネカ		1									1
KYB (カヤバ) (株)									1		1
川崎重工業 (株)						1			3		4
関西電力 (株)									1		1
キオクシア (株)			1								1
北野建設 (株)									1	2	3
岐阜県							1				1
キヤノン (株)					1						1
キヤノンITソリューションズ(株)					1						1
京セラ (株)		1									1
(株) 京都アニメーション							1				1
極東開発工業 (株)								1			1
宮内庁									1		1
(株) クボタ							1				1
(株) 熊谷組									1		1
グランディハウス (株)									1		1
Global Unichip Japan (株)			1								1
群馬県 教員								1			1
(株) ケイケンシステム		2									2
KDDI (株)					2						2
(株) 鴻池組									2		2
(株) KOKUSAI ELECTRIC				1							1
国土交通省 中部地方整備局					2						2
国土地理院							1				1
コニカミノルタ (株)			1								1
(株) 小松製作所								1			1
五洋建設 (株)						1					1
(株) コンピュータマインド			1								1
(株) 再生建築研究所									1		1
埼玉県 さいたま市							1				1
栄屋乳業 (株)		1									1
佐藤工業 (株)										1	1
サニー (株)			1								1
(株) GSユアサ		1									1
JRCエンジニアリング (株)			1								1
JFEエンジニアリング (株)								2			2
JFEケミカル (株)		1									1
JFEシビル (株)									1		1
(株) ジェイテクト									1		1
(株) シグマクシス					1						1
四国旅客鉄道 (株)										1	1
静岡県							1				1
清水建設 (株)							1				1
ジャスティン (株)			1								1
(株) 昭和設計										1	1
信越放送 (株)			1				1				2
新光電気工業 (株)	1	8	1			2	3				15
(株) 新土木開発コンサルタント						1					1
スズキ (株)	1										1
(株) 鈴木								2			2
(株) SUBARU							3				3

会社名	学科名		物質	電子情報	・水環境	システム	機械	建築	生命医工	企業別合計
	学部	大学院								
(株) sumarch								1		1
住友重機械モダン(株)					1					1
住友林業(株)								1		1
住友林業ホームテック(株)							1			1
スワティック建設(株)		1								1
セイコーホームズ(株)	1	2	13			5			2	23
西武建工(株)							1			1
星陵中学校・高等学校 教員				1						1
ゼネラル(株)	1									1
セリタホームズ(株)							1			1
(株) 総企画設計								1		1
(株) 曽我工務店		1								1
(株) ソシオネクスト			2							2
ソニーセミコンダクタソリューションズ(株)			1							1
(株) ソフトクリエイトホールディングス		1								1
(株) ソルブレイン		1								1
(株) 第一化成	1									1
第一実業(株)					1					1
大成建設(株)					1				2	3
(株) ダイフク						2				2
タイムズモビリティ(株)			1							1
太陽ホールディングス(株)	1									1
大和化成(株)	1									1
大和ハウス工業(株)							2			2
(株) 竹内製作所		1				3				4
(株) 竹中工務店								1		1
TANAKAホールディングス(株)	1									1
多摩川精機(株)	1									1
千葉県				1						1
(株) 中央エンジニアリング						1				1
中部電力(株)			1				2			3
中部電力パワーグリッド(株)		1					1			2
(株) ツルヤ						1				1
TDK(株)	3	1								4
(株) ディスコ	1					1				2
(公財) 鉄道総合技術研究所						1				1
テルモ(株)						1				1
デンカ(株)	1									1
(株) デンソー	1		1							2
(株) デンソーテン			1							1
東亞合成(株)	1									1
東海旅客鉄道(株)	1							1		2
東京エレクトロンデバイス(株)			1							1
東京ガスNext one(株)				1						1
東京消防庁	1									1
東京水道(株)					1					1
東京地下鉄(株)					1					1
東京地方裁判所	1									1
東京電力ホールディングス(株)								1		1
東京都 教員						1				1
(株) 東芝						1				1
東芝デバイスソリューションズ(株)			1							1
東洋建設(株)								1		1
トータルテクニカルソリューションズ(株)		1								1
TOTO(株)	1									1
(株) Donuts			1							1

会社名	学科名	物質		電子情報		・水土木環境		システム		機械		建築		生命医工		企業別合計	
		学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院
日置電機（株）		1		1													2
東日本高速道路（株）						1											1
東日本電信電話（株）				3													3
東日本旅客鉄道（株）			2			1											3
日立Astemo（株）		1															1
(株) 日立インダストリアルプロダクツ								1									1
日立グローバルライフソリューションズ（株）								1									1
日立建機（株）								2									2
(株) 日立製作所				2	1												3
(株) 日立ソリューションズ・クリエイト				1													1
(株) 日立ハイテク				2													2
BIPROGY（株）			1														1
(株) Finatext			1														1
(株) フォーラムエイト			1														1
(株) 福工房									1								1
フクシンドフクシーアーキテクツ（株）									1								1
(株) 福山コンサルタント						1											1
フジテック（株）							1										1
富士電機（株）			1			1	2										4
富士フィルム（株）		1															1
富士フィルムマニュファクチャリング（株）		1															1
富士フィルムワコーケミカル（株）		2															2
ブラザー工業（株）		1															1
(株) ブリヂストン		1															1
(株) ブレインパッド				1													1
(株) 文化財保存計画協会												1					1
(株) 平成建設												1					1
(株) ベルク				1													1
豊和工業（株）		1															1
北電技術コンサルタント（株）						1											1
北陸電力（株）				1													1
北海道電力（株）				1													1
ボッシュ（株）								1									1
ボラス（株）									1								1
本田技研工業（株）		1							3								4
マイクロソーモリジャパン（株）			1	1													2
(株) マイナビ				1													1
前田建設工業（株）						1					1						2
前田工織（株）												1	1				
(株) マキタ				1													1
(株) マクニカ				1													1
(株) マツダE&T			1														1
(株) 松田平田設計										1							1
松山（株）								1									1
まどそふと			1														1
(株) マネーフォワード				1													1
マブチモーター（株）			1														1
三菱地所ITソリューションズ（株）							1	1									2
(株) 三菱地所設計											1						1
三菱重工業（株）				1													1
三菱電機（株）				2				1									3
三菱電機エンジニアリング（株）	1																1
三菱電機ソフトウエア（株）					1												1
三菱マテリアル（株）		1															1
三菱UFJインフォメーションテクノロジー（株）													1	1			
ミネベアミツミ（株）	1	1		1					2								5

会社名	学科名	物質		電子情報		・水土木環境		システム		機械		建築		生命医工		企業別合計	
		学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院
(株) ミマキエンジニアリング								1									1
(株) 村田製作所						1											1
(株) メイコー						1											1
(株) メニコン												1					1
(株) 守谷商会								1	1			2					4
(株) 安川電機																	1 1
(株) 安永		1															1
山梨県										1	1						2
ヤマハ発動機（株）											1						1
ヤマハモーター・エレクトロニクス（株）											1						1
よつ葉乳業（株）						1											1
(株) RYODEN		1															1
(株) 類設計室													1				1
ルネサスエレクトロニクス（株）								1									1
レイシシステムソリューションズ（株）												1					1
レック・テクノロジー・コンサルティング（株）						1											1
ローム（株）						1											1
ロック・ストアー・ハウス（株）						1											1
(株) Works Human Intelligence							1										1
(株) ワールドインテック								1									2
YKK（株）											1						1
YKKAP（株）												2					2
家業・その他		5	2	6	5	6				3	2	5	2	1			37
合計		22	53	48	109	39	19	26	73	29	38	13	469				

2024 年度卒業生名簿

信州大学工学部卒業生（敬称略）

※卒業生合計数 516 名（内 19 名個人情報提供拒否）

信州大学大学院総合理工学研究科 工学専攻 修士課程修了生（敬称略）

水野 友揮	山本 歩夢	加藤 浩明	入江 勝也	清水 蓮	新美 はるか
皆川 凌太朗	吉岡 優太	勅使河原大誠	岩崎 維斗	鈴木 海都	糠谷 勇輔
宮越 雅宗	林 靖星	青木 健祐	扇割 大晴	須田 峻哉	藤川 勇作
武藤 直斗	渡辺 泉	阿久津 旭	大西 徹門	関 祐介	前田 育真
村上 達哉	WANG JUNYAN	安西 葵	大星 直也	高橋 航	六車 駿介
米田 堯広	建築学分野	飯田 竜太朗	日下 博瑛	高山 匠	矢島 竜成
守屋 元貴	37名	池本 美優	小池 太一	館柳 光佑	柳町 一輝
山下 嘉幾	石島 大	坂田 貴子	田畠 奎人	山田 吉田	山田 洋介
山田 恭介	石原 大雅	清水 莉都	中尾 啓太		悠起

信州大学大学院総合理工学研究科 生命医工学専攻 修士課程修了生（敬称略）

生命工学分野 13名	加藤 拓海 河口 遼 神崎 泰輝	神田 格 柴田 奈々世 清家 碧斗	高橋 茉那 中島 陽紀 早川 菓汰	PAN KAITONG 夜久 優太	渡邊 航
---------------	------------------------	-------------------------	-------------------------	----------------------	------

※修了者合計数 311 名（内 3 名個人情報提供拒否）

信州大学大学院総合医理工学研究科 博士課程修了生（敬称略）

総合理工学 専攻 9名	LI WENPENG 須江 聰	YING CHANGJIAN 新井 遼	HONJO IDE FELIPE ALMEIDA GALVAO RHUAUANE	岩佐 捺伽 他 2名	生命医工学 専攻 1名 澤田 和久
-------------------	--------------------	------------------------	---	---------------	----------------------------

※修了者合計数 10 名（内 2 名個人情報提供拒否）

2025年度新入生県別入学者数

学科 都道府県	物質	電子情報	・水土環境	システム	機械	建築	計
北海道	3	6	3	1	2	15	
青森	1	0	0	0	0	1	
岩手	1	1	0	0	0	2	
宮城	0	0	2	3	4	9	
山形	0	1	0	0	0	1	
秋田	3	2	0	0	1	6	
福島	0	1	0	1	0	2	
茨城	4	5	0	10	3	22	
栃木	1	2	2	3	2	10	
群馬	6	6	3	2	4	21	
埼玉	5	4	2	6	2	19	
千葉	1	1	0	4	0	6	
東京	5	6	4	5	5	25	
神奈川	4	7	4	4	4	23	
新潟	0	5	3	2	4	14	
富山	3	4	0	4	1	12	
石川	5	3	0	3	2	13	

学科 都道府県	物質	電子情報	・水土環境	システム	機械	建築	計
福井	2	5	0	0	3	10	
山梨	3	7	0	4	1	15	
長野	12	58	4	21	6	101	
岐阜	2	3	4	3	1	13	
静岡	5	6	4	4	1	20	
愛知	15	17	11	7	6	56	
三重	0	2	6	2	1	11	
滋賀	2	2	1	2	0	7	
京都	2	2	1	2	0	7	
大阪	3	4	3	3	1	14	
兵庫	5	5	3	2	1	16	
奈良	2	0	0	0	1	3	
和歌山	0	1	0	0	0	1	
鳥取	0	0	0	0	0	0	
島根	0	0	0	0	0	0	
岡山	0	0	0	1	0	1	
広島	0	0	0	0	2	2	

学科 都道府県	物質	電子情報	・水土環境	システム	機械	建築	計
山口	0	0	0	0	0	0	0
徳島	0	1	0	0	0	0	1
香川	0	0	0	1	0	0	1
愛媛	1	1	1	0	0	0	3
高知	1	0	0	0	0	0	1
福岡	0	0	1	0	1	2	
佐賀	0	1	0	0	0	0	1
長崎	0	0	0	0	0	0	0
熊本	0	0	0	0	0	0	0
大分	0	0	0	0	0	0	0
宮崎	0	1	0	0	0	0	1
鹿児島	0	0	0	0	0	0	0
沖縄	0	0	0	0	1	1	
海外	0	4	0	2	0	6	
計	97	174	62	102	60	495	

※新入学生合計数 495 名（個人情報提供拒否 0 名）

◆ 事務局より ◆

◆学部内異動 (2024年度)

信州大学退職教員 (敬称略)

[定年退職]

天野 良彦 物質化学科 教授
菅 博幸 物質化学科 教授
片岡 正和 物質化学科 准教授
佐藤 敏郎 電子情報システム工学科 教授
丸山 稔 電子情報システム工学科 教授

松本 明人 水環境・土木工学科 准教授
杉岡 秀行 機械システム工学科 教授
中村 正行 機械システム工学科 教授
小松 勝彦 航空宇宙システム研究拠点 助教(特定雇用)

[退職]

山崎 公俊 機械システム工学科 教授
ARNOLD SOLVI FYLGJA 機械システム工学科 准教授(特定雇用)
村上 曜 工学部 助教(特定雇用)

内山 真伸 先鋭材料研究所 教授(特定雇用)
大塚 隼人 先鋭材料研究所 助教(特定雇用)
久間 馨 先鋭材料研究所 助教(特定雇用)

◆おしらせ

●2026年度 信州大学工学部同窓会 《基調講演会・総会・懇親会》開催について

2026年5月23日(土)開催です。

詳細は、本誌表紙裏ページをご覧ください。

多数の皆さまのご出席をお待ちしております。

●信州大学工学部創立記念事業基金への ご協力をお願いいたします

本誌綴込みの払込票(創立記念事業基金専用)をご利用のうえ郵便局にてご納入ください。

※本誌綴込みの払込票は、会費納入用ではありません。

創立記念事業基金会計 収支報告

(2024年9月1日～2025年8月31日)

(単位:円)

繰 越 金	4,124,100	
収 入	352,155	寄付金、預金利息
支 出	4,576	納入手数料
残 高	4,471,679	

◇信州大学工学部創立記念事業基金へご協力いただいた皆さま (2024.9月～2025.8月受付分) —————

[正会員] (敬称略)

長田 金治 (機械S23)
荒井 直彦 (電気S33)
塚田 孝一 (電気S37)
藤澤 英雄 (機械S38)
井上 雅有 (電気S38)
清水 幸 (電気S40)
時水 繁勲 (土木S40)
高橋 章二 (電気S43)

廣田 豊秋
清水 保雄
鳥羽 正司
佐野 誓
松下 真久
荻野 益男
大家 信彦
中窪 信吾
三原 芳夫

(機械S44)

(機械S45)

(工化S45)

(電気S45)

(工化S48)

(機械S49)

(電子S49)

(工化S51)

(土木S51)

小川 学

田路 雅彦

佐野 達也

白倉 勝洋

野口 博基

上垣 大樹

山本 知広

精密工学科第12期一同

(精密S52)

(土木S55)

(合成S62)

(建築H2)

(電電H10)

(電電H12)

(情報H15)

(電電H15)

ご協力ありがとうございました。



電子ブックの閲覧はこちら…

若里会HP: <https://wakasatokai.jp/member/komakusa>

●変更届のお願い

自宅住所・住居表示・勤務先、その他ご登録内容の変更は、同窓会HPの「住所等変更届」フォームにて事務局へお知らせください。

●個人情報保護法施行に伴う対応について

事務局では保護法を遵守し個人情報の管理・取り扱いに配慮いたします。ご理解とご協力をお願い申し上げます。

信州大学工学部創立60周年記念誌を販売します

発行者 信州大学工学部・信州大学工学部同窓会【平成22年(2010)発行】

信州大学工学部は、令和元年(2019)に創立70周年を迎えました。本誌は、それに先立ち工学部創立60周年記念事業として2年の歳月をかけ編纂された記念誌です。信州大学工学部は、昭和18年に長野高等工業学校を母体として誕生し、昭和24年の新制大学認可を機に発足しました。記念誌では、工学部発展の歴史や現状(発行当時)に関する記事、関係諸氏からの寄稿文や貴重な写真の数々が掲載されています。若里キャンパスで青春を過ごされた同窓諸兄、教育研究に情熱を傾けられた先輩教職員諸氏、工学部と関係の深い大勢の方々の姿を彷彿とさせます。本誌は、工学部と同窓会が協力して本格的に編纂した初めてのものであり、工学部の歴史を学び、これを礎としてさらに将来の大きな発展に資する貴重な資料でもあります。

『信州大学工学部創立60年のあゆみ』

価格：4,000円(別途・送料600円)

*クロス張り上製本・A4判・290ページ

*往時の白黒写真を除きすべてカラー印刷されています



【購入申込み・問合せ先】

氏名・送付先住所・TEL・購入冊数 を明記の上、下記よりお申込みください。

信州大学工学部同窓会 ホームページお問合せフォーム

<https://wakasatokai.jp/contact/>

〒380-8553 長野市若里4-17-1 TEL・FAX 026-266-8209



お受取り後に同封の振込用紙にて冊子代・送料をお支払いください



同窓会誌「若里」への投稿をお待ちしております

「同窓生寄稿」ページでは、会員の皆さまからの投稿記事を掲載しています。



原稿について

*データまたは手書きのいずれでも結構です。紙焼き写真はご返却いたします。

*タイトルをつけてください。

*掲載ページ数の目安は誌面1ページ、文字数は1,700字程度です。

写真・図表がある場合はその分の文字数をあらかじめ調整ください。

送付先

*メールまたは郵送等で、工学部同窓会事務局へお送りください。

kdoso@wakasatokai.jp

〒380-8553 長野市若里4-17-1 SASTec2F 信州大学工学部同窓会事務局 宛

原稿締切日

*次号(75号)の原稿締切日は、2026年8月31日です。

信州大学工学部同窓会 事務局

月～金(平日) 10:00～16:00

〒380-8553 長野市若里4-17-1

信州大学工学部内 信州科学技術総合振興センター(SASTec) 2F

TEL/FAX: (026)266-8209

Mail:kdoso@wakasatokai.jp <https://www.wakasatokai.jp/>

大学史資料センターから資料・情報収集へのご協力のお願い

日頃から信州大学の教育研究・地域貢献活動にご理解とご協力を賜り、ありがとうございます。

信州大学では本学の歴史を明らかにして将来に伝承するため、2017年4月1日から「信州大学 大学史資料センター」を設置し、散逸が危惧される本学に関する資料の収集・整理・保存を進めております。

これまで多くの方々に御賛同いただき、貴重な資料や情報が当センターに集まってまいりましたが、貴重な記憶が失われることなく、更に充実を図りたいと考えておりますので、引き続き、お力添えをお願い申し上げます。

皆さまが大切に保管されてきた資料や、学生時代の心に残ったエピソードなどの情報をご提供いただけます方は、ぜひ大学史資料センターにご連絡ください。

○ご提供いただきたい資料および情報について

前身校を含む信州大学に関するもの全般

- ・合格通知書、学生証、賞状、卒業証書
- ・卒業アルバム、スナップ写真
- ・広報誌、大学祭のパンフレット
- ・旗、徽章、記念品
- ・クラブやサークルの活動記録、発行物
- ・教科書やノート（エピソードのあるもの）
- ・野尻湖等の発掘調査（参加）に関する資料
- ・矢澤米三郎に関する資料
- ・「SUNS」信州大学画像ネットワークシステムに関する資料、「美ヶ原鉄塔群」の画像他
- ・山岳研究に関する資料
- ・学生運動に関する資料

など



ご寄贈いただいた資料

○ご提供いただいた資料の活用について

大学史資料センターでは皆さまからご寄贈いただきました資料を活用し、企画展を毎年開催しております。また、これまでの展示はWebサイトでご覧いただけます。

今後も収集した資料を活かして、大学史に関連する展示を行う予定です。さらに100年史編纂の資料として、また自校史教育の教材として、学生の教育にも活用する方法を検討したいと考えております。

ご提供いただきました資料は、当センターにて適切に整理・保存を行ってまいります。

○お問合せ・連絡先

信州大学 大学史資料センター 受付時間：9：00-16：00（月～金）

〒390-8621 松本市旭3-1-1

TEL：0263-37-3531 FAX：0263-37-3532

電子メール archives@shinshu-u.ac.jp

※ 信州大学 大学史資料センターのWebサイトもご覧ください。



<https://www.shinshu-u.ac.jp/institution/library/archives/>

◆◆ 編集後記 ◆◆

工学部長挨拶と学部の近況「改組と広報」にもありますように、2026年度より工学部は大きな改組を迎えます。工学部のHPやパンフレットでも目に入る「1+9」の文字が象徴するように、これまでの5学科から「1学科1+9コース」体制へ、すなわち先鋭融合コースと基幹9コースへと変わります。AIの急速な進展やDX×GXなど社会の変化に対応し、わが工学部もそれにあわせて変わっていきます。

さて、同窓生寄稿にも書かせていただきましたが、私は2024年10月19日（土）の工学部オープンキャンパスと光芒祭にあわせて、機械工学科S61卒の同級会を久しぶりに開催しました。還暦を迎えての再会で、学生時代の面影を残しながらも、40余年の歳月を経て皆それぞれに味わい深い姿となっていました。近年、人ととの結びつきは薄れがちで、特にコロナ禍以降は、研究室の学生を見ても同級生や先輩後輩との関係が浅くなっているように感じます。学生と教員の関係も同様です。そのような中で同級会を開き、今の学生たちが将来も同じように集えるのか、少し気がかりに思いました。

（榎 和彦／編集委員長／機械システム工学科・教授）

暑い夏、というより暑すぎる夏が終わり、この編集後記を書いている今は、だいぶ涼しい日が続いています。会員の皆様も体調管理が大変かと思います。さて、若里74号をお届けします。

各学科のOBに書いていただいている『同窓生だより』ですが、今年の水環境・土木工学科分は、久しぶりに公務員のOBにお願いしました。工学部の卒業生は、いろいろな分野で活躍していますが、国家の意思決定の中枢に近いOBもいる、という事を、改めて感じさせていただきました。原稿を執筆して頂いたOBに、この場を借りてお礼申し上げます。

（清水 茂／編集委員／工学部就職支援担当・特任教授）

2025年3月に修士を修了した研究室の卒業生が、修士研究の成果を2つの学会で発表しました。共同研究先に就職し、業務として学会発表をしました。現役学生との懇親会にも参加してくれて、楽しい時間を過ごすことが出来ました。他に卒業して数年経った2名の研究室の卒業生が、企業における研究成果を発表していました。堂々と発表し、質疑も適切に対応している姿を見て、胸が熱くなりました。そのうち1名の卒業生とは、現役学生との懇親会で一緒に食事をし、昔話に花が咲きました。卒業生と学会会場で再会し、成長を見ることが出来、一緒にお酒を飲めたことは、何よりの喜びでした。来年度も学会発表で卒業生に会えることを期待しています。

話は変わりますが、前期お疲れ様会として「エコバーベキュー」をしました。研究室で所有しているポータブル蓄電池にポータブルソーラーパネルで蓄電し、ホットプレートでバーベキューをしたことから「エコバーベキュー」と呼んでいます。これは学生のアイディアです。ちなみに、光芒祭（学園祭）では毎年、綿あめを出店していますが、こちらも「エコ綿あめ」とする予定です。年々差が開く学生との年齢や思想のギャップが少し埋まった気がしました。

（高村 秀紀／編集委員／建築学科・教授）

昨年の編集後記を書いてからまた丸1年が経ちました。時が経つ早さを改めて実感しています。毎年、編集後記は9月の中旬から下旬頃の、ちょうど後期授業が始まる少し前に書いています。今年は秋分の日に書いています。長引いていた残暑はようやく和らいで少しづつ秋の気配も感じられるようになりましたが、まだしばらく残暑が続くとの予報もあります。

温暖化の影響でしょうか、信州でも年々夏の始まりが早く、猛暑日が多く、そして夏の終わりは遅くなっているように感じます。短い秋が過ぎるとすぐに冬です。皆様どうぞご自愛ください。

(山口 朋浩／編集委員／物質化学科・准教授)

今年の『同窓生だより』は、同期の友人に寄稿してもらいました。S60情報卒は定員50名でしたが、現在でも約半数と連絡を取り合い、数年ごとに同期会を開いています。思い返すと、学生時代から面倒見のよいひとりを中心に、つながりが保たれてきたのだと思っています。研究室でも同じように、周りを引き寄せる中心的な学生がいる年は、全体が活気づき、賑やかな雰囲気になります。人の輪は不思議なものだと、改めて感じています。

(橋本 昌巳／編集委員／電子情報システム工学科・准教授)

日本初の女性首相が誕生したのは素晴らしいことかと思うが、政治家の皆様には、それに至るまでの熱意の同等それ以上を、本来の政治に是非とも傾けて頂きたい。

様々な問題が山積する中で、我が国は、教育（特に高等教育）への支出は依然として低く、早く対処をしなければ教育・研究に関する国際競争力は益々低下するばかりである。

教育・研究への投資は結果が出るまで時間が掛かるが、何時ぞやの政治家が国会で発言した通り、正に米百俵の精神を持って教育改革・改善を真剣に考えて頂きたいと願う今日この頃である。

(曾根原 誠／編集委員／電子情報システム工学科・准教授)



戸隠 鏡池

◆◆ 広告目次 ◆◆

(株)アルプスツール	85
シャトレーゼホテル長野	86
(株)竹内製作所	87
長野日本無線(株)	88
(株)ミマキエンジニアリング	89
エムケー精工(株)	90
オリオン機械(株)	90
新光電気工業(株)	91
長野県信用組合 若里支店	91
長野電子工業(株)	92
北信土建(株)	92
LODGE ぴこ	93
(株)アイデスク	94

ALPS TOOL

創りたいものをカタチに



ツーリング



バーフィーダ

設計開発



機械加工

株式会社アルプスツール

〒389-0601

長野県埴科郡坂城町坂城 10070

<http://www.alpstool.com>

管理部 人事課

TEL:0268-82-2511

mail:jinji@alpstool.com

HP はこちら Instagram
始めました！



フリードリンク込みの安心プラン



同窓会 プラン

同窓会
プラン
定
限

3
特典

- 久しぶりの再会に
名札貸出サービス
- 話題は尽きないから
30分延長料無料
- 遠方からでも安心
特別宿泊価格

販売期間: 2025年9月1日～2026年2月28日

「同窓会プラン」
お料理とお飲み物

¥7,500

お一人様料金
税込・サービス料込

料理

和洋中会席コース

〈シャトレーゼケーキとコーヒー付き〉

¥5,000

お一人様・税込

飲物

フリードリンクAプラン

(ドリンクは実数販売に変更も可能です。)

¥2,500

お一人様・税込

CHÂTERAISE

お菓子・ギフト・酒類
世界No.1の品揃え



AC・USB給電設置有
Free Wi-Fi完備

シャトレーゼ
ホール

シアター最大 712 席

10F展望
レストラン

ケーキ食べ放題付き
和洋中ランチブッフェ

ご宿泊

10F展望風呂
ウェルカムスイーツ

会議
ご宴会

大中小宴会場
和室宴会場も



シャトレーゼホテル 長野

〒380-0922 長野市七瀬 1-1

宿泊予約・フロント

026-219-2440

会議・宴会・ホール

026-219-3247

(受付時間 9:00-18:00)

「TAKEUCHI」が世界で初めてミニショベルを開発したのは1971年。2tクラスのミニショベルにブームスwing機構を備えた全旋回型機の開発に成功。6t未満のミニショベルは国内においても海外においても新たな需要を掘り起こし、ミニショベルという新しい市場を確立。さらに1986年には不整地作業に最適なクローラーローダーもまた世界で初めて開発販売し、いまでは世界中からMade in Japanの品質を評価していただいている。



World Standard Excavator

小型建機の世界標準

takeuchi

世界初から世界のTAKEUCHIへ。

From World First to World Leader



株式会社 竹内製作所

〒389-0605 長野県埴科郡坂城町上平205
TEL 0268-81-1100(代) FAX 0268-81-1127(代)
<http://www.takeuchi-mfg.co.jp>

確かな技術力で
安全・安心な社会づくりに貢献します



長野日本無線株式会社

NAGANO
NaganoJRC

■ 本社・工場
〒 381-2288 長野県長野市稻里町1163番地
TEL 026-285-1111(代表)

Webサイトは
[こちら](#)



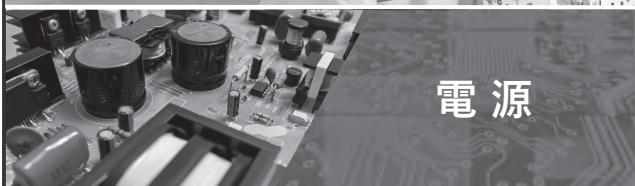
情報通信



メカトロニクス



電 源



車載用電子部品



スマート
ファクトリー



インフラ・
航空宇宙 レーダー





色で造る。色で魅せる。



Mimaki

本社：長野県東御市滋野乙2182番地3
TEL : 0268-64-2282



いろどり豊かな毎日を。



その手があった!の一手先。
エムケー精工

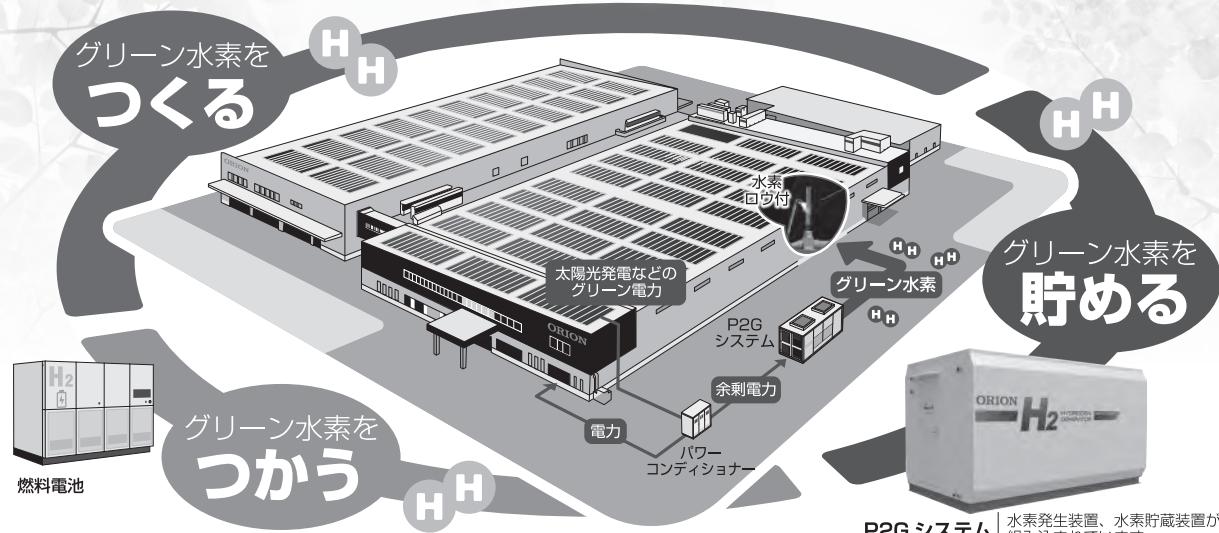
【本 社】 〒387-8603 長野県千曲市雨宮 1825

【信濃町工場】 〒389-1313 長野県上水内郡信濃町古間 1618

【坂城工場】 〒389-0601 長野県埴科郡坂城町坂城 9637

オリオン須坂インター工場 グリーン水素 供給発電システムの研究 2026年実証予定

ORION
冷熱と真空でイノベーション



オリオン機械株式会社
<https://www.orionkikai.co.jp>

本社 〒382-8502
長野県須坂市大字幸高 246

0120-958-076
受付時間 平日9時~17時

✉ sijo@orionkikai.co.jp

✉ 026-246-6753



新光電気は半導体の進化を支え、
半導体の優れた機能を人々の生活へと繋ぐテクノロジーをもとに、
世界中の人々の暮らしを豊かに彩るものづくりに取り組み、
輝かしい未来の創造に貢献します。



2023年12月 千曲工場竣工 (長野県千曲市)

新光電気工業株式会社

〒381-2287 長野市小島田町 80 TEL026-283-1000



新光電気工業ホームページ



採用サイト



けんしん/BANK
Pocket

ポケットで「つながる」
けんしんBANK

残高照会や振込などのお手続きが
いつでも便利にご利用いただけます。

ダウンロードはこちら

App Store
からダウンロード

Google Play
で手に入れよう



新アプリ
登場!



けんしん/BANK



The possible
will be forever

ShinEtsu Group

長野電子工業株式会社

〒387-8555 千曲市屋代1393 TEL026-261-3100(代) FAX026-261-3131



＜施工実績＞
国指定史跡 松代城跡

夢100%コーポレーション

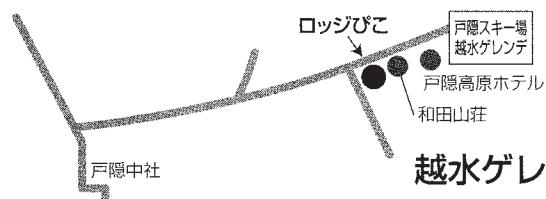
HOKUSHiN

北信土建株式会社

〒380-0935

長野市中御所3丁目7-14 TEL. 026-226-2808





アットホームな雰囲気と、スキーダイ好きな
オヤジが皆様をお待ちしております。

**全9室(和7室・ベッドルーム2室)
定員42名様、駐車場完備**

越水ゲレンデまで70m、帰りは乾燥室まで滑走可。
温かい手作り料理でおもてなしをいたします。

ご予約は、お電話かFAXかメールで下記までご連絡ください。

〒381-4101 長野県長野市戸隠3507-80 旧工学部若里会戸隠山荘となり
TEL/026-254-3806 FAX/026-254-3818 E-mail/info@lodgepico.com
ホームページ <http://lodgepico.com/>



あなたの歴史・家族の絆、想い出をかたちに…



あなたの本をつくりませんか

- ◆ 写真集・フォトエッセイ集
- ◆ 絵本・絵手紙集・絵詩歌集
- ◆ 貼り絵集・ちぎり絵集・押し花集
- ◆ 絵画集・画文集・スケッチ集
- ◆ 写真で見るわが家の半世紀
- ◆ 写真で見る金婚式・夫婦の半世紀

株式会社 アイデスク

●企画・デザイン・編集 ●情報処理・デジタルコンテンツ ●グラフィックデザイン・Web制作 ●印刷全般

〒381-0025 長野市北長池1263-1
TEL(026)244-4551 FAX(026)244-1966

「若里」74号
令和7年12月印刷・発行 (非売品)

発行者
〒380-8553 長野市若里4丁目17番1号
信州大学工学部内
信州科学技術総合振興センター
信州大学工学部同窓会
TEL 026-266-8209 (FAX共)
E-mail : kdoso@wakasatokai.jp
URL : <https://www.wakasatokai.jp>

印刷
株式会社アイデスク
〒381-0025 長野市北長池1263番1号
TEL 026-244-4551

あなたの持てる技術や知見を 地元で活かしてみませんか！

皆様のキャリアを
企業が求めていいます。

信州大学工学部 同窓会は、一般社団法人 信州産学みらい共創会と
協力して、長野県内の企業の求人に貢献する活動を展開しています。

一般社団法人 信州産学みらい共創会とは

1995年に信州大学工学部に創設された「地域共同研究センター研究協力会」を起源として、30年の歴史を経ています。

これまで、工学部の先生方との共同研究構築や研究支援、大学が保有しているシーズと企業のニーズとのマッチングにより、実用化を図るなど、多くの成果を挙げてきました。

2023年4月、法人化して名称を「一般社団法人 信州産学みらい共創会」とし、現在300を超える会員を有して、新たに国の補助金獲得や、有料職業紹介事業などの活動を展開しています。

一般社団法人 信州産学みらい共創会

窓口

担当：浅川

電話：026-269-5384

メールアドレス：asakawa@kyosokai.or.jp



求職申込書は裏面

求職申込書

受付日 令和 年 月 日

氏名			性別	※	生年月日		
現住所	〒						
連絡先	□	□	□	□	□	□	□
最寄	駅		バス停		分		
学歴					年	月	卒業
					年	月	卒業
資格・免許					自動車免許		
希望条件	希望する仕事			経験した主な仕事	職種/年数	仕事の詳しい内容	
	希望地						
	通勤方法						
	通勤時間						
	希望収入						
	希望する働き方						
勤務時間							
希望休日	曜日						
マネジメント経験年数/人数	/	外国勤務/年数		/		/	
PCスキル	ワード	エクセル	パワーポイント	その他			
得意とすること							
自由記載欄							
その他希望条件や仕事で注意すること							
※←記載は任意です。未記載とすることも可能です。							
弊会は、求職者から知り得た個人的な情報は、弊会の個人情報適正管理規程に基づき適正に取り扱います。							
また、本求職申込書に記載された個人情報は、職業紹介で応募を希望する求人先に、応募情報を提供するために使用し、職業紹介（適格紹介）以外の目的には使用しません。							
個人情報の求人者への提供について同意いたします。							
令和 年 月 日				氏名		印	

信州大学工学部同窓会々則

第1章 総 則

第1条 本会は信州大学工学部同窓会と称し、事務局を信州大学工学部内に置く。

第2条 本会は会員相互の親睦を図ると共に母校の後援と工業の発展に資することを目的とする。

第2章 会 員

第3条 本会は下記の会員をもって組織する。

1 正会員

長野工業専門学校、信州大学工学部、信州大学大学院（若里キャンパス）に在籍し、卒業あるいは修了した者、および本会が認めた者。

2 特別会員

信州大学工学部在職中の教員、同在職中の事務職員ならびに旧教員にして理事会の推薦によるもの。

3 賛助会員

信州大学工学部および信州大学大学院（若里キャンパス）在学生の保護者、または他大学から本学大学院に入学し在籍している者。

第4条 役員および会議

1 本会に次の役員を置く。

会長 1名、副会長 3名、

常任理事 若干名、理事 若干名、監事 2名
役員は正会員中から選出し、総会にて決定する。

2 会長は本会を統括し、本会を代表する。

3 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるとき、その職務を代行する。

4 常任理事会

常任理事会は会長、副会長、常任理事および監事にて構成する。

会長は副会長、常任理事、監事を招集し、議長となり会務に必要な事項を審議し、会務の執行を図る。

5 理事会

常任理事会で発議した重要事項は会長が全役員を招集し、審議・決定する。

6 監事は会計の監査に当たる。

第5条 役員の任期は2年として重任を妨げない。

第6条 本会の事務を処理するため事務職員を置くことができる。

第3章 名誉会長および顧問

第7条 信州大学工学部長の職にあるものを名誉会長に推薦する。

第8条 本会に功労のあった会員を理事会の議を経て顧問に推薦する。

第4章 総 会

第9条 総会は原則として年1回開催する。ただし理事会で議した場合は、それに代えることができる。

第5章 事 業

第10条 第2条の目的にそった事業を行う。

第6章 会 計

第11条 本会の経費は会員の会費、寄付金、および雑収入をもってこれに当てる。

第12条 会員は下記の会費を納入するものとする。

1 正会員は、会費として年額2,000円を納入するものとする。納入会費合計40,000円を上限とし、これに達し次第「終身会員」とする。また、2,000円を一口とし、一回に複数および全口の納入も可能とする。

2 賛助会費は、在学中に30,000円を一括納入するものとする。賛助会員が保護者の場合、学生の卒業と同時に卒業生本人を正会員および「終身会員」とする。本人が賛助会員の場合も、卒業と同時に正会員および「終身会員」とする。

第13条 会計年度は4月1日より翌年3月31日までとし、予算および決算は会員一同に報告する。

第7章 支 部

第14条 会員多数在住の地方には支部を設置することができる。ただし、この場合は支部規則を定め、会長の承認を得るものとする。

第8章 会則変更

第15条 本会則は、総会において出席した正会員の過半数の同意を得なければ変更することができない。

付 則

本会則は、平成4年6月20日より施行する。

本会則は、平成14年5月24日改訂・施行

本会則は、平成15年5月28日改訂・施行

本会則は、平成18年5月27日改訂・施行

本会則は、平成25年5月24日改訂・施行

本会則は、令和2年5月15日改訂・施行



信州大学工学部同窓会

Shinshu University Faculty of Engineering Alumni Association

●個人情報の取り扱いについて

[信州大学工学部同窓会へ](#)

同窓会からのお知らせ

- 2025.10.31 [信州大学東京同窓会開催のご案内（令和8年2月）【全学部】](#)
- 2025.10.27 [信大工学部同窓会 関西支部設立総会および記念講演会 開催のご案内](#)
- 2025.10.27 [ようこそ先輩2025 開催のご案内](#)
- 2025.09.16 [令和7年度 信州大学工学部同窓会中信支部 事業・総会のご案内](#)
- 2025.09.16 [信大工学部同窓会関東支部2025 開催のご案内](#)
- 2025.07.31 [同窓会事務局 夏季休業のお知らせ](#)
- 2025.07.01 [【長野支部】2025年度 基調講演会・総会・懇親会 開催のお知らせ](#)
- 2025.06.03 [2025年度 基調講演会・総会・懇親会が開催されました](#)
- 2025.06.03 [ようこそ先輩2024が開催されました](#)
- 2025.04.16 [2025年度 基調講演会・総会・懇親会 開催のご案内](#)

[過去のお知らせを見る](#)



同窓会事務局への各種お問い合わせは、TEL・FAXまたは
お問い合わせフォームよりご連絡ください。

信州大学工学部
同窓会事務局 **TEL/FAX: 026-266-8209**

[お問い合わせフォームはこちら](#) →

関連サイトへのリンク

- [信州大学](#)
- [信州大学サポーターズクラブ](#)
- [信州大学同窓会連合会](#)
- [信州大学工学部](#)
- [信州大学工学部信州科学技術総合振興センター\(SASTec\)](#)

信州大学工学部同窓会

Shinshu University Faculty of Engineering Alumni Association

同窓会事務局 〒380-8553 長野市若里4-17-1 徳州大学工学部内
TEL/FAX 026-266-8209

Copyright (C) 2014, Shinshu University Faculty of Engineering Alumni Association, All Right Reserved.

若里

第72号



若里

第73号



信州大学工学部同窓会

〒380-8553 長野市若里4-17-1 (信州大学工学部内)

URL:<https://www.wakasatokai.jp/> TEL・FAX 026-266-8209